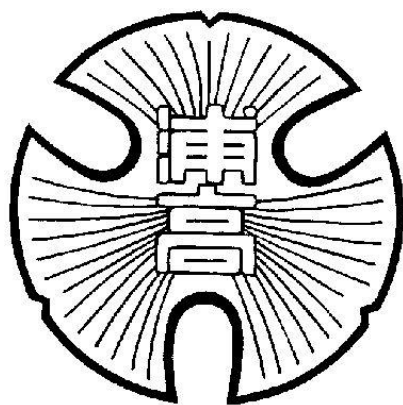


スーパーグローバルハイスクール  
研究開発報告書

平成26－27年度



埼玉県立浦和高等学校



## スーパーグローバルハイスクール（SGH）研究開発報告書発行にあたって

埼玉県立浦和高等学校長 杉山 剛士

本校は平成26年度にSGH指定を受け、今年度で二年目となります。本報告書では、この二年間の活動の記録をまとめることになりました。

本校の研究主題は「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバル・リーダーの育成」であります。

「世界のどこかを支える人間になりなさい」という理念は、浦高でもこれまで語られてきた言葉であり、グローバル人材育成は、本校にとっては決して目新しいことではありません。その象徴として、脈々と歌い継がれてきた校歌も「広く宇内に雄飛せん」という歌詞で結ばれています。

ただ、そうした本校がSGH指定に申請し、取り組んでいる理由は三つございます。

一つ目は、浦高生のさらなる成長のためです。浦高生は様々な無理難題に挑戦し努力してきましたが、ともすると浦高の中だけで完結している部分もありました。世界のどこかを支える浦高生には、どんどん世界に飛び出してもらい、視野をグローバル規模に広げ、多様で異質な他者と交流することで、さらに自分を磨いていってほしいと考えています。

二つ目は、浦高教育の発信です。SGHに指定されることにより、全国からの視察も増え、注目度はあがります。タフな全人教育を行っている浦高教育が発信されることは、日本の今後の教育の方向性を考える上でも良い影響を与えるのではないかと考えています。

三つ目は、浦高教育への刺激です。例えどんなに良い教育であっても、「自校の教育が素晴らしい」と満足した時点で、成長は止まってしまう。浦高が全国の多くの学校とのネットワークの中で刺激を得ることで、浦高教育を進化させる契機になると考えています。

以上の三つのねらいのもと、2年間が経過しました。この間、「課題研究」と、「国際交流」を二本の柱としたSGH活動により、浦高が地に足をつけながら、そして、生徒・教職員・保護者・同窓会が一体となって進化していることを、私は誇りに思っています。

世界は今、多くの深刻な課題を抱えています。そうした課題を解決するためには、「タフさ」と「優しさ」を兼ね備えている人材を育成することが大切だと思います。

知的にも精神的にも体力的にもタフであること、同時に、多様で異質な世界の他者に対する共感力、優しさを兼ね備えることにより、まさに「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバル・リーダー」が育っていくことを心から願っています。



# 目次

## 活動報告 1 課題研究・アドバイザーグループ……………1

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 平成26年度 埼玉県立浦和高等学校SGH 主な活動一覧……………      | 2  |
| 平成27年度 埼玉県立浦和高等学校SGH 主な活動一覧……………      | 3  |
| 平成27年度 前期アドバイザーグループ一覧……………            | 4  |
| 平成27年度 後期アドバイザーグループ一覧……………            | 7  |
| 埼玉県立浦和高等学校 平成27年度SGH総合報告会 リーフレット…………… | 8  |
| 浦和高校のSGHについて……………                     | 13 |
| 人類が直面するIT依存の問題……………                   | 17 |
| ノーマライゼーションを考える……………                   | 19 |
| 障害者スポーツとバリアフリー社会……………                 | 21 |
| 来場者アンケート……………                         | 23 |
| 参加生徒アンケート(抄)……………                     | 25 |
| 平成27年度 SGH中間報告会 記録……………               | 27 |

## 活動報告 2 国際交流……………29

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| WHITGIFT 校長期派遣留学最終レポート 原田光遥…………… | 30 |
| 英国からの便り 2013-2014 原田光遥……………      | 44 |
| 英国からの便り 2014-2015 林 裕暉……………      | 51 |
| 英国からの便り 2015-2016 竹内 淳……………      | 59 |

|               |    |
|---------------|----|
| 活動報告 3 麗和セミナー | 63 |
|---------------|----|

|       |    |
|-------|----|
| 取組の概要 | 73 |
|-------|----|

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 浦和高校のSGHプログラム                   | 74 |
| スーパーグローバルハイスクール 取組と展望           | 75 |
| 平成26年度～平成27年度 SGH報告と展望 (国際交流関係) | 81 |
| 平成27年度～平成28年度 SGH報告と展望 (国際交流関係) | 83 |

|              |    |
|--------------|----|
| 参考資料 1 校内文書等 | 87 |
|--------------|----|

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| Super Global High school News | 88  |
| SGH委員会 議事録                    | 90  |
| 平成27年度 1年次 総合的な学習の時間について      | 103 |
| 平成27年度 2年次 総合的な学習の時間について      | 105 |
| 平成27年度 SGHにともなうアドグルの工夫について    | 108 |

|                |     |
|----------------|-----|
| 参考資料 2 運営指導委員会 | 109 |
|----------------|-----|

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会設置要綱 | 110 |
| 平成26年度 運営指導委員会組織           | 111 |
| 平成26年度 第1回 運営指導委員会         | 112 |
| 平成26年度 第2回 運営指導委員会         | 113 |
| 平成27年度 運営指導委員会組織           | 120 |
| 平成27年度 第1回 運営指導委員会         | 121 |
| 平成27年度 第2回 運営指導委員会         | 124 |

# 活動報告 1

## アドバイザーグループ

本校のSGHは、総合的な学習の時間に実施している課題研究（SGHゼミ）と、姉妹校との交換留学を中心とする国際交流を2つの柱として開始し、これらを融合・発展させる形で進行しています。

総合的な学習の時間における課題研究は、平成12年にアドバイザーグループという名称のゼミとしてスタートしすでに15年以上の歴史があります。2年次の生徒全員が約40の講座に分かれて所属し、各指導教官の掲げる大きな枠組みの中で各自の研究主題を定め、調査・研究を行い、最終的に論文を執筆する形式で継続してきました。これまで多様なテーマの下で研究が進められておりましたが、SGHの指定を受けて「人類の共存」「持続可能な地球環境」「普遍的価値の探求」を研究の核とし、従来からの多様な主題を糾合する形で進化しつつあります。

以下に平成26・27年度の主な活動一覧、平成27年度のアドバイザーグループの一覧、平成28年2月13日（土）に東京大学福武ラーニングシアターで行われた今年度の総合報告会の発表内容（当日配布されたリーフレットの内容）、平成27年9月13日（日）の中間報告会の発表の概要を収めました。総合報告会・中間報告会とも、英語版のみに収録されている内容もございます。英語版もあわせてご参照ください。

総合報告会の内容につきましては、平成28年4月以降には多くを本校ウェブページから映像によってご覧いただける予定です。

平成26年度 埼玉県立浦和高等学校SGH 主な活動一覧

|      |   |                                                               |       |   |                                                                                                                               |
|------|---|---------------------------------------------------------------|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4/9  | 水 | 総合学習ガイダンス                                                     | 10/17 | 金 | Whitgift校 短期留学生来校(～10/25)                                                                                                     |
| 4/16 | 水 | アドグル・ガイダンス                                                    | 10/21 | 火 | 進路講演会(天野篤氏:順天堂大教授)                                                                                                            |
| 4/30 | 水 | アドグル①                                                         | 10/22 | 水 | アドグル①                                                                                                                         |
| 5/14 | 水 | アドグル②                                                         | 10/27 | 月 | 麗和セミナー「需要の高い人材の条件」<br>(中里実氏:東大教授・政府税調会長)                                                                                      |
| 5/26 | 月 | 麗和セミナー「海外へ飛び出した声楽家」<br>(富田千種氏:バリトン歌手・ウィーン在住)                  | 10/29 | 水 | アドグル②                                                                                                                         |
| 6/4  | 水 | アドグル③                                                         | 11/1  | 土 | 英語ディベート県大会(準優勝)                                                                                                               |
| 6/18 | 水 | アドグル④                                                         | 11/6  | 木 | Whitgift派遣生セミナー②                                                                                                              |
| 6/25 | 水 | アドグル⑤<br>麗和セミナー「脳外科と脳科学」<br>(上口裕之氏:理化学研究所)<br>協調学習 公開授業       | 11/17 | 月 | 東大朝日講座「環境統治の時代」(佐藤仁氏)                                                                                                         |
|      |   |                                                               | 11/19 | 水 | アドグル③                                                                                                                         |
| 7/2  | 水 | 東京大学訪問                                                        | 11/26 | 水 | アドグル④<br>東大連携「医療倫理」(山本一夫教授)<br>SGHセミナー「糖鎖生物学への招待」(山本氏)<br>麗和セミナー「宇宙の暗黒物質を追い求めて」<br>(風間慎吾氏:高エネルギー加速器研究機構)<br>即興ディベート研修会(中川智皓氏) |
| 7/7  | 月 | ミシガン大学夏季サマースクール(～7/18)                                        |       |   |                                                                                                                               |
| 7/8  | 火 | グローバル人材育成セミナー<br>(岡本尚也氏:Cambridge大)                           |       |   |                                                                                                                               |
| 7/10 | 木 | 高大連携ボーイングプログラム事前研修会<br>(英語プレゼンテーションスキル養成)                     | 12/3  | 水 | アドグル⑤<br>東大連携「宇宙人はいるか」(中村謙太郎准教授)                                                                                              |
| 7/11 | 金 | アドグル⑥                                                         | 12/4  | 木 | Whitgift校長期派遣生選考                                                                                                              |
| 7/23 | 水 | 高大連携ボーイングプログラム<br>(プレゼンテーション・異文化交流)                           | 12/12 | 金 | 東大 PEAK留学生セッション                                                                                                               |
| 7/25 | 金 | 英語ディベート基礎講習会                                                  | 12/13 | 土 | 英語ディベート全国大会出場(～12/14)<br>即興ディベート首都圏進学校交流会                                                                                     |
| 7/27 | 日 | アスペン古典セミナー(～8/2)計3回                                           | 12/15 | 月 | ケネディ駐日大使来校<br>(スピーチ・ディスカッション)<br>東大朝日講座「日常会話の場に加わって人の賢さを引き出す」(大武美保子氏)                                                         |
| 8/25 | 月 | 校長Whitgift校訪問(～8/29)<br>SGH連携会議(London大・Cambridge大・Whitgift校) |       |   |                                                                                                                               |
| 9/1  | 月 | 英語アシスタント シヤム氏来校(～9/26)<br>留学生 セルゲイ君来校(～現在)                    | 12/16 | 火 | アドグル⑥                                                                                                                         |
| 9/10 | 水 | 運営指導委員会①<br>アドグル⑦                                             | 1/14  | 水 | アドグル⑦                                                                                                                         |
| 9/13 | 土 | 文化祭 Whitgift校写真展(～9/14)                                       | 1/26  | 月 | 東大朝日講座<br>「多主体協働共生のまちづくり」(小泉秀樹氏)                                                                                              |
| 9/24 | 水 | Whitgift派遣生セミナー①                                              | 1/28  | 水 | アドグル⑧                                                                                                                         |
| 9/29 | 月 | 麗和セミナー「心の鐘を聞く」<br>(村井満氏:Jリーグチェアマン)                            | 2/2   | 月 | 東大朝日講座<br>「国際社会における共生の法」(森肇志氏)                                                                                                |
| 10/1 | 水 | アドグル⑧                                                         | 2/4   | 水 | 運営指導委員会②<br>アドグル 論文集配布                                                                                                        |
| 10/7 | 火 | オーストラリア・クィーンズランド州教育大臣来校<br>(講演会・質疑応答)                         | 2/13  | 金 | 来年度海外サマーセミナー選考                                                                                                                |
| 10/8 | 水 | アドグルガイダンス(後期)                                                 | 3/24  | 火 | Whitgift校 短期留学生派遣(～3/31)                                                                                                      |
|      |   |                                                               | 3/30  | 月 | 高大連携ボーイングプログラム<br>(情報工学)                                                                                                      |

平成27年度 埼玉県立浦和高等学校SGH 主な活動一覧

|      |   |                                                       |       |   |                                                    |
|------|---|-------------------------------------------------------|-------|---|----------------------------------------------------|
| 4/7  | 火 | 国際交流アドバイザー来校<br>Tom Kilford氏(～6/31)                   | 9/12  | 土 | 文化祭 Whitgift校写真展(～9/13)                            |
| 4/7  | 火 | グローバルリーダー育成ワークショップ<br>(スピーチ・自己アピール:NGO Blue Dolphins) | 9/13  | 土 | 文化祭 SGH中間報告会<br>運営指導委員会①                           |
| 4/15 | 水 | 総合学習ガイダンス                                             | 9/18  | 金 | 第2回SGH派遣(Whitgift+WHO)説明会                          |
| 4/22 | 水 | 第1回SGH講演会「グローバル時代に生きる」<br>(加瀬 豊氏:双日会長)                | 9/30  | 水 | 麗和セミナー「エリートについて考える」<br>(佐藤 優氏:作家・元外務省分析官)          |
| 4/22 | 水 | Advisory Groups 登録                                    | 10/7  | 水 | Advisory Groups ⑧(発表・評価)                           |
| 5/7  | 水 | Advisory Groups ①                                     | 10/9  | 金 | 麗和セミナー「法曹への道」<br>(野辺 博氏:慶應義塾大学法科大学院教授)             |
| 5/22 | 水 | Advisory Groups ②                                     | 10/13 | 火 | Whitgift校 交換留学生来校(～2016/7)                         |
| 6/2  | 火 | 麗和セミナー「行政官としてできること」<br>(末松広行氏:農林水産省関東農政局長)            | 10/14 | 水 | Advisory Groups 後期登録                               |
| 6/3  | 水 | Advisory Groups ③                                     | 10/23 | 金 | Whitgift校 長期留学説明会                                  |
| 6/14 | 日 | NFLJ Oita Debate 優勝・米国大会出場権獲得                         | 10/28 | 水 | Advisory Groups ①                                  |
| 6/17 | 水 | Advisory Groups ④                                     | 11/6  | 金 | 麗和セミナー「ノーベル候補者と報道されるまで」(柴崎正勝氏:微生物科学研究所理事長)         |
| 6/24 | 水 | Advisory Groups ⑤                                     | 11/4  | 水 | Advisory Groups ②                                  |
| 7/8  | 水 | Advisory Groups ⑥                                     | 11/18 | 水 | 進路講演会(藻谷浩介氏:人口成熟問題)                                |
| 7/6  | 月 | ミシガン大学夏季サマースクール第1陣(～7/17)                             | 11/18 | 水 | Advisory Groups ③                                  |
| 7/11 | 土 | アドグルプロジェクト<br>留学生と学ぶ弓道教室(東大PEAK留学生)                   | 11/25 | 水 | Advisory Groups ④                                  |
| 7/11 | 土 | AFS留学生 セルゲイ君帰国(2014/9/1～)                             | 12/2  | 水 | Advisory Groups ⑤                                  |
| 7/19 | 日 | ミシガン大学夏季サマースクール第2陣(～7/31)                             | 12/15 | 火 | Advisory Groups ⑥                                  |
| 7/19 | 日 | Whitgift Summer Programme 第1陣(～8/2)                   | 1/3   | 水 | Advisory Groups ⑦(論文提出)                            |
| 7/26 | 日 | Whitgift Summer Programme 第2陣(～8/9)                   | 1/27  | 水 | Advisory Groups ⑧(発表・評価)                           |
| 8/3  | 月 | アスペン古典セミナー(～8/13)計3回                                  | 2/3   | 水 | Advisory Groups 論文集配布                              |
| 8/20 | 土 | 高大連携ボーイングプログラム<br>(航空宇宙工学・未来の航空機)                     | 1/8   | 金 | SGH Workshop (1年生)                                 |
| 8/26 | 水 | アドグルプロジェクト<br>サイバー防犯ボランティア取り組み報告会実施                   | 2/8   | 月 | 麗和セミナー「会社員としてゲームを作るということ」<br>(阿部悟郎氏:任天堂株式会社企画開発本部) |
| 8月   |   | Whitgift校 長期留学生 出発(～2016/7)                           | 2/10  | 水 | SGH校内発表会(1年・2年:校内共有)<br>Advisory Groups 論文集配布      |
| 8月   |   | AFS年間派遣(メキシコ) 出発(～2016/7)                             | 2/10  | 水 | 来年度海外サマーセミナー選考                                     |
| 9/1  | 火 | 留学生 ヤコブ君(デンマーク)来校(～現在)                                | 2/13  | 土 | 平成27年度 SGH研究報告会                                    |
| 9/9  | 水 | Advisory Groups ⑦(論文提出)                               | 2/16  | 火 | 運営指導委員会②                                           |
| 9/11 | 金 | 第2回SGH派遣(Whitgift+WHO) 事前協議                           | 3/17  | 木 | Whitgift校+WHO 短期留学生派遣(～3/26)                       |

平成27年度 前期アドバイザーグループ一覧

| No. | 担当教官         | 講座名                              | 説明                                                                                                                                                                        |
|-----|--------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 小林裕和         | 浦高を考える                           | 前身の浦中発足から120年の歴史をふり振り返りながら浦高及び自身の未来について考える。                                                                                                                               |
| 2   | 高田 透         | ごくごく初歩のドイツ語                      | ドイツ語の「いろは」を同じゲルマン語族に属する英語との類似点、相違点を比較しながら主に文法を中心に勉強したいと思います。                                                                                                              |
| 3   | 中越和宏         | 映画「ベン=ハー」を見る                     | 映画鑑賞を通じて、古代ローマやキリスト教について考える。                                                                                                                                              |
| 4   | 中村英二         | 武道について                           | 歴史、人物等について考察する。                                                                                                                                                           |
| 5   | 藤井俊雄         | チャーリー・チャップリンを読む                  | 英文のテキストを読む。かなりの下調べ必要。時には映画を観られればと思う。                                                                                                                                      |
| 6   | 皆川由理子        | 「星の王子様」仏英読みくらべ                   | フランス語基礎を学び、「星の王子様」をフランス語と英語で読みくらべる。以上の活動を通じ、自らテーマを見つけて研究する。                                                                                                               |
| 7   | 碧木浩二         | TIME 誌を読む                        | 英語に自信がある生徒はどうぞ。TIME 誌の記事を読み、研究テーマを選び、英語でレポートを書く。                                                                                                                          |
| 8   | 岩本公信         | 福井発、東アジアの発展と希望に貢献するグローバルリーダーについて | 私は今年度福井県から1年間教員として派遣されました。この講座では福井県についてよく知ってもらうとともに、もしあなたが福井の高校生だったらグローバルリーダーとしてどのように東アジアの国々の発展に貢献できるかを、提案、考察してもらいたいと思います。                                                |
| 9   | 大浦貴裕         | 世の中を読む                           | 新聞記事を読み漁り、社会・福祉、医療、国際など興味を持った分野について調査→問題抽出→考察を行い、論文を作成していく。                                                                                                               |
| 10  | 高橋律夫         | 株価と政治経済                          | 東京証券取引所が実施する高校生向けの株式学習ゲームに参加し、経済の仕組み、社会の動きなどについて体験的に学習する。                                                                                                                 |
| 11  | 長澤昇一         | サイバー防犯ボランティア                     | 小中学生に「情報モラル」を身に付けてもらうために何が必要なのかを調査・分析し、実際に小中学校へ行って授業をします。講義形式だけでなく、映像を使ったプレゼン、寸劇、クイズ、ゲーム形式など型にとらわれないクリエイティブな授業を企画・立案してもらいます。また授業を行うだけでなく、授業を実施するために必要な交渉、調整などにも挑戦してもらいます。 |
| 12  | 蛭沼浩一郎        | 男女共同参画社会について                     | 職場、地域、家庭での取り組み等を調べまとめる。                                                                                                                                                   |
| 13  | 奈良繁範         | 18切符を使った旅の研究                     | 埼玉（関東圏）から離れた文化の異なる地を探訪する。夏休みにアドグル内のプランを実行する。                                                                                                                              |
| 14  | 野崎亮太<br>原田優樹 | インターネットを活用した海外交流                 | 国際NGOやJICAと協力し、ダッカ大学やJICAのスタッフが派遣されているバングラデシュ現地と浦高をWEB会議システムで結び交流します。国際貢献に興味がある人にお勧めです。                                                                                   |

|    |              |                                  |                                                                                                    |
|----|--------------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 | 山中 明         | 外国人観光客を増やすには                     | 日本を訪れる外国人観光客を増やすことのメリットと、そのための方策を考える。外国人観光客がリピーターになることを促す効果的な企画を、具体的に提案する。                         |
| 16 | 長瀬義行<br>岡田直人 | 徹底研究！日本の電力問題<br>－原発と再生エネの将来を考える－ | 原発や再生可能エネルギーの利点や問題点について科学、政治、経済、歴史など様々な観点からアプローチし、2030年の日本のあるべき電源構成の発案を試みます。                       |
| 17 | 井口 巖         | 生物進化と進化論                         | 生物進化の道すじと進化論の考え方を分析する。                                                                             |
| 18 | 佐々木肖子        | 和算                               | 江戸時代を中心に発達した数学「和算」について調べる。前半では和算の発達の背景等について調査し、中間発表を行う。                                            |
| 19 | 圓谷修平         | 行列（前期）                           | 新教育課程となり、高校数学の内容から外れてしまった「行列」という単元を学びます。                                                           |
| 20 | 直井雅文         | 宇宙人はいるのか                         | 地球外に生命は存在するのだろうか。さらには、知的生命体（宇宙人）はいるのだろうか。生物学や天文学などの研究からこの可能性について調べて自分の考えをまとめる。                     |
| 21 | 森住明広         | 医療倫理                             | 医療倫理に関する諸テーマについて分担してレポートを作成し、順番に発表、意見交換、講評を行う。                                                     |
| 22 | 秋山忠弘         | ソフトテニスの世界                        | 日本発祥であるソフトテニスの歴史やルールを学びながら、楽しさを体感し、今後どうあるべきかを考える。実習もやる予定。                                          |
| 23 | 小野寺浩         | 運動形態学 体操論                        | 体操実技の理論と実技について、深く研究します。                                                                            |
| 24 | 中谷徳夫         | 卓球を例として「戦術」について考える               | 卓球競技を例として、卓球を「戦術」という観点でとらえると、どのような状況のとき、どのような戦い方をすれば有利に試合を進めることができるかを研究してみる講座です。                   |
| 25 | 松村道彦         | スポーツにおけるメンタルトレーニング               | 日常のトレーニング場面でのメンタルトレーニングのあり方。大会、試合のメンタルについて                                                         |
| 26 | 武藤和孝         | 留学生とともに学ぶ弓道教室                    | スポーツ競技という性質と禅的な思想を包含する、弓道という日本固有の文化を、留学生徒とともに学ぶことを通じて、日本的価値を再発見したい。                                |
| 27 | 森田一成         | 剣道の動作分析                          | 剣道場で全国大会などのDVDを視聴し、自分の動きと全国クラスの選手の動きの違いを研究する。                                                      |
| 28 | 菊地優作         | 競泳方法論                            | 競泳のトレーニング方法について研究する。                                                                               |
| 29 | 飯田具子         | 障害者スポーツと社会的課題                    | もともとリハビリとして始まった障害者スポーツはパラリンピックに代表される競技スポーツから、健康維持、生きがいのための生涯スポーツにまで及ぶ。障害者スポーツの特色を学びながら社会的課題を考えていく。 |

|    |       |             |                                                                                       |
|----|-------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 30 | 木戸俊吾  | 「IT依存」を考える  | ある調査によると、青少年のスマホの利用時間は132分にも上る。情報の授業で行っている「IT断食」をさらに深く掘り下げ、自分とIT機器、特に携帯電話との関わり方を再考する。 |
| 31 | 岩崎英久  | 光と色の科学      | 光や色に関する現象を、実験や製作を通して学ぶ。                                                               |
| 32 | 小野瀬照夫 | イタリアの『美』を探る | イタリアの魅力を、芸術を中心に歴史、地理、食、言葉など様々な角度から触れ、その美しさの根源的要素を探る。                                  |
| 33 | 齋藤教雄  | JAZZを知る     | 1940年代～60年代のビバップ・ハードバップを中心にモダンジャズについて研究する。文化や歴史背景についても学んでいく。                          |
| 34 | 高橋正守  | 「緊張と緩和」の研究  | 枝雀が唱えた独自の落語理論である「緊張と（の）緩和」について彼の落語を通して考えてみます。                                         |
| 35 | 奈良孝之  | 映画の字幕の世界を探る | 外国語音声に字幕をつける方法とさまざまな制約について検証し、映像字幕の世界を体験する。                                           |
| 36 | 長谷博之  | 英語のジョーク     | 英米（特に英）のジョークを鑑賞しながら、日本との文化の違い、価値観の違いなどについて考える。                                        |
| 37 | 原島秀行  | 火と金属と人      | 銀を溶解して棒材を作り、金槌でくりかえしたたいてティースプーンを制作します。もちろん論文も書きます。                                    |

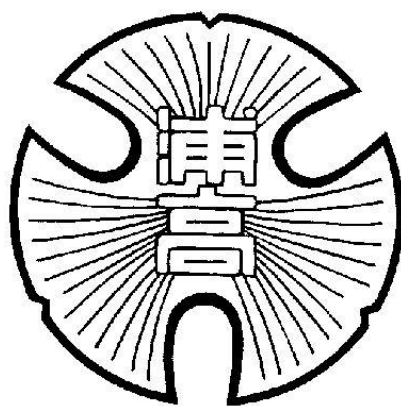
平成27年度 後期アドバイザーグループ一覧

| No. | 担当教官  | 講座名                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----|-------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 中越和宏  | 映画「アマデウス」をみる                  | 映画鑑賞により西欧絶対王政期の文化、風俗について考える。                                                                                                                                                                                                        |
| 2   | 大浦貴裕  | リアルな物語                        | 民間説話（昔話）の内容を吟味し、現代の（国際）社会にも通じる普遍的なメッセージを読み取る。かぐや姫（『竹取物語』）、一寸法師（『御伽草子』）など。                                                                                                                                                           |
| 3   | 藤井俊雄  | チャーリー・チャップリンを読む               | 英文のテキストを読む。かなりの下調べ必要。時には映画を観られればと思う。                                                                                                                                                                                                |
| 4   | 皆川由理子 | 「星の王子様」仏英読みくらべ                | フランス語基礎を学び、「星の王子様」をフランス語と英語で読みくらべる。以上の活動を通じ、自らテーマを見つけて研究する。                                                                                                                                                                         |
| 5   | 奈良繁範  | 18切符を使った鉄道の旅                  | 18切符を使った異文化の旅を企画する。                                                                                                                                                                                                                 |
| 6   | 秋山忠弘  | 日本語再考                         | 日常においてコミュニケーションの手段でしかない日本語を、あらゆる角度から考察する。                                                                                                                                                                                           |
| 7   | 瀬戸山郁  | 多文化社会で求められる生きる力とは？            | 多文化化が進む社会で求められる世界市民的視点、資質、能力とは？について考える。多文化主義を施策として取り入れてきた、国々や、多文化主義についての研究が進んでいる国の例を資料として参考にしながら、議論をしていくことで自分なりの考えをまとめる。                                                                                                            |
| 8   | 碧木浩二  | TIME 誌を読む                     | 英語に自信がある生徒はどうぞ。TIME 誌の記事を読み、研究テーマを選び、英語でレポートを書く。                                                                                                                                                                                    |
| 9   | 岩本公信  | 東アジアの発展と希望に貢献するグローバル・リーダーについて | 私は今年度福井県から1年間教員として派遣されました。福井県は環日本海側に位置する小さな県ですが幸福度は非常に高く、とても住みやすい県で、東アジアの国々と結びつきが強い県です。この講座では、福井県についてよく知ってもらうとともに、もしあなたが福井の高校生だったらグローバルリーダーとして、どのように東アジアの国々の発展と希望に貢献できるかを、提案・考察してもらいます。                                             |
| 10  | 齋藤教雄  | ウラコウセイの村                      | データに統計処理を行い、それを根拠に自分の主張を展開する方法を探る。埼玉県内の市町村の課題解決策提案を目標とする。                                                                                                                                                                           |
| 11  | 金田一史  | マイノリティについて考える                 | 社会において少数的存在や構造的弱者とされる「マイノリティ」について異文化と多文化の視点から行動分析を行います。既に認知され再検討、一般化研究が進んでいるマイノリティとしてはLGBT、日系人、ハーフ、クォーターなどがありますが、本講座ではそういった既存の枠組みにとらわれず、広い視点で質的に事象を分析します。最終的な目的としては新たなマイノリティを見出し、彼（彼女、それ）らの生態と心理を明らかにすること、あるいは社会構造に批判的検討を加えていくことです。 |

|    |              |                                         |                                                                                                                                                            |
|----|--------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 | 飯田具子         | 障害者スポーツ交流                               | 障害者スポーツの競技についてルールや競技の特色を理解し実技を体験する. また NPO との連携を図り, 障害者スポーツの理解を深める.                                                                                        |
| 13 | 蛭沼浩一郎        | 限界集落について                                | ドラマ「ナポレオンの村」では村の様々な再生のアイデアを実践している. それを参考にして地方消滅を回避する方法を考える.                                                                                                |
| 14 | 野崎亮太<br>原田優樹 | インタラクティブ・コミュニケーション                      | Skype を通じて海外の若者と交流したり, TED×Tokyo の関係者に話を聞いたり, いろいろなことを体験しながら, インタラクティブなコミュニケーションについて考えます. ICT 機器の可能性についても探りたいので, 希望するアドグルメンバーにはアドグル期間中ずっと学校の iPad を貸し出します. |
| 15 | 山中 明         | 「ノーマライゼーション」とは                          | ノーマライゼーションとは何か, 手話を学びながら考える. 埼玉県聴覚障害者協会から講師の方を毎回お招きして, 手話の基本を学ぶ. その学習を通して, ノーマライゼーションとは何か, バリアフリー社会の実現に向けての課題や解決方法を考える.                                    |
| 16 | 小林裕和         | 『PHYSICS FOR SENIOR STUDENTS』を読む        | 豪州の高校物理の教科書を読みながら, 物理教育の共通点や相違点を議論していく.                                                                                                                    |
| 17 | 奈良孝之         | Excel 上で動かす VBA プログラミング                 | VBA とは何か, Excel マクロと VBA の違いとは? VBA のメリットとその活用方法を実際にプログラミングを通して学んでいく.                                                                                      |
| 18 | 岩崎英久         | 物理実験                                    | 2 単位の物理基礎の選択者 (物化生の選択者) で, 3 年次に 4 単位の物理を選択する人を対象として, 2 単位の物理基礎では扱わない実験を行う. なお, 4 単位の物理を選択しないが, 興味があるという人の参加も可. 文型物理の選択者の参加も可.                             |
| 19 | 圓谷修平         | 行列                                      | 新教育課程となり, 高校数学の内容から外れた「行列」という単元を学びます. テキストはこちらで用意します. 簡単な予習を出題します. 最終的には, 問題を作問してもらう予定です. 通年講座ですが後期からの受講も認めます. その場合前期の内容は自分で補うこと.                          |
| 20 | 直井雅文         | 宇宙人はいるのか                                | 地球外に生命は存在するのだろうか. さらには, 知的生命体 (宇宙人) はいるのだろうか. 生物学や天文学などの研究からこの可能性について調べて自分の考えをまとめる.                                                                        |
| 21 | 井口 巖         | 脳死と臓器移植                                 | 脳死とその判定方法の理解と臓器移植法前とその後の現状を知る. それをもとに現在の問題点を探る.                                                                                                            |
| 22 | 長瀬義行<br>岡田直人 | 徹底研究! 日本の電力問題<br>— 原発と再生エネの将来を<br>考える — | 原発や再生可能エネルギーの利点や問題点について科学, 政治, 経済, 歴史など様々な観点からアプローチし, 2030 年の日本のあるべき電源構成の発案を試みます. 文型, 理型を問わず, 皆さんの世代が直面する絶対解のないこの大問題について, 共に考えていきましょう.                     |
| 23 | 小野寺浩         | 運動形態学 体操論 II                            | 前期を発展させる. 前期との継続がのぞましい.                                                                                                                                    |

|    |       |                    |                                                                                                                                                                                   |
|----|-------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 24 | 武藤和孝  | 留学生とともに学ぶ弓道教室      | スポーツ競技という性質と禅的な思想を包含する、弓道という日本固有の文化を、留学生徒とともに学ぶことを通じて、日本的価値を再発見したい。(弓道経験者が望ましい)<br>参考書籍：弓道教本第1・2巻、「日本の弓術」(Eugen Herrigel)<br>評価：禅的思想に基づいた論文、実技、等を総合的に勘案する。                        |
| 25 | 松村道彦  | スポーツにおけるメンタルトレーニング | 日常のトレーニング場面でのメンタルトレーニングのあり方。大会、試合のメンタルについて                                                                                                                                        |
| 26 | 森田一成  | 剣道の歴史              | 剣道の歴史について学び、知識を増やす。                                                                                                                                                               |
| 27 | 中村英二  | 武道について             | 武道全般について                                                                                                                                                                          |
| 28 | 高橋律夫  | 4スタンス理論の研究         | 4スタンス理論とは、人間にはそれぞれ生まれつき決まった身体特性があり、それを4種類に分け解明しようとする理論のこと。この研究を行います。                                                                                                              |
| 29 | 木戸俊吾  | カードゲームをつくろう。       | IT依存や、ネットトラブル等を題材としたカードゲームを作成する。その過程で、自身とケータイの関わり方を再考し、「IT活用」する方法の啓発について考察していく。                                                                                                   |
| 30 | 佐々木肖子 | 囲碁の世界              | 論理的思考力を必要とし、大局観と局所の見方の両方が大切とされる囲碁の世界に、実際の体験を通じて触れることを目的とする。                                                                                                                       |
| 31 | 小野瀬照夫 | イタリアの『美』を探る        | イタリアの魅力を、芸術を中心に歴史、地理、食、言葉など様々な角度から触れ、その美しさの根源的要素を探る。                                                                                                                              |
| 32 | 高橋正守  | 「緊張と緩和」の研究Ⅱ        | 枝雀が唱えた独自の落語理論である「緊張と(の)緩和」について彼の落語を通して考えてみます。笑いを理論的に解明しようとは思いませんが、それに関係する本も読んで話し合っていたらと思います。                                                                                      |
| 33 | 長澤昇一  | サイバー防犯ボランティア       | 本アドグルでは、小中学生に「情報モラル」を身に付けてもらうために何が必要なのかを調査・分析し、実際に小中学校へ行って授業をします。講義形式だけでなく、映像を使ったプレゼン、寸劇、クイズ、ゲーム形式など型にとらわれないクリエイティブな授業を企画・立案してもらいます。また授業を行うだけでなく、授業を実施するために必要な交渉、調整などにも挑戦してもらいます。 |
| 34 | 長谷博之  | 英語のジョーク            | イギリス英語を中心としたジョークを鑑賞し、日英のユーモアの違いについて考察する。                                                                                                                                          |
| 35 | 原島秀行  | 火と金属と人             | 銀を溶解して棒材を作り、金槌でくりかえしたたいてティースプーンを制作します。もちろん論文も書きます。銀地金代(時価)1500円程度いただきます。                                                                                                          |

埼玉県立浦和高等学校  
平成27年度SGH総合報告会



平成28年2月13日(土)

13:00-15:00

東京大学

福武ラーニングシアター

## ご来場の皆様へ

埼玉県立浦和高等学校  
SGH研究開発委員会

本日は埼玉県立浦和高等学校，平成27年度SGH総合報告会にご来場いただき，誠にありがとうございます。本校のSGHは，総合的な学習の時間に実施している課題研究（SGHゼミ）と，姉妹校との交換留学を中心とする国際交流を2つの柱として開始し，これらを融合・発展させる形で進行しています。

総合的な学習の時間における課題研究は，平成12年にアドバイザー・グループという名称のゼミとしてスタートしすでに15年以上の歴史があります。2年次の生徒全員が約40の講座に分かれて所属し，各指導教官の掲げる大きな枠組みの中で各自の研究主題を定め，調査・研究を行い，最終的に論文を執筆する形式で継続してきました。これまで多様なテーマの下で研究が進められておりましたが，SGHの指定を受けて「人類の共存」「持続可能な地球環境」「普遍的価値の探求」を研究の核とし，従来からの多様な内容を糾合する形で変容しつつあります。本日は計6講座の生徒が登壇して報告を行います。構想調書の理念に照らして，発展途上の部分もございますが，本日も来場の皆様からご指導を頂戴いたしまして，いっそう深めてまいりたいと存じます。

もう一方の柱である国際交流では，これまで英国のパブリックスクール，ウィットギフト校との20年を超える交流を中心として，ミシガン大学サマーセミナーへの参加や県立高校海外派遣プログラムによるハーバード大学への派遣等，豊富な窓口を通じて多くの生徒を海外に送り出しています。最近では本校同窓会に設立していただいた奨学財団からも支援を頂戴し，生徒の海外における学びの環境は大変恵まれた状況となっております。SGHの指定と相俟って，海外を目指す生徒の大きな波が出てきています。留学経験生徒の発表や英語部のディベートのデモンストレーションを通じてそうした雰囲気の一部を感じていただけることと存じます。

本日の発表は小学校とのリアルタイム中継を行う講座を除き，すべて英語により行われます。このためご来場のみなさまの便宜のため，このリーフレットにおおよその発表内容とその日本語訳を掲載しております。また発表内容以外にも一部資料を添付してございます。時間の都合により，発表ごとに十分な質疑応答を行うことが難しいために，全ての内容が済みましたのち，会場で発表者または職員と懇談していただく時間を設けました。率直なご意見を賜りましたら幸いです。

埼玉県立浦和高等学校  
平成27年度SGH総合報告会  
平成28年2月13日(土) 13:00-15:00  
東京大学 福武ラーニングシアター

- 12:30 開場 受付開始
- 13:00 校長挨拶  
13:05 オープニングセレモニー  
13:10 浦和高校のSGHについて
- 13:25 アドグル発表1  
「弓道を通して発信する日本固有の価値観」  
13:35 生徒発表  
「私の海外研修とピアガイダンスの提案」  
13:45 デモンストレーション: 英語ディベート
- 《休憩》
- 14:00 アドグル発表2  
「サイバー防犯ボランティア」  
14:20 アドグル発表3  
「人類が直面するIT依存の問題」  
14:30 アドグル発表4  
「ノーマライゼーションを考える」  
14:35 アドグル発表5  
「障害者スポーツとバリアフリー社会」  
14:40 アドグル発表6  
「日本のエネルギー問題」
- 15:00 カフェ・タイム(懇談と質疑応答)  
15:30 閉場

## 浦和高校のSGHについて

みなさん驚いたでしょう？ 応援団と、グローバル化やグローバル人材の育成はどう関係するのか、それはまもなく明らかになります。ですからしばらくお待ちください。

私は高岡恭兵です。埼玉県立浦和高等学校のSGH総合報告会の初めにあって浦和高校の教育の秘密について少し話そうと思います。それは自然と浦和高校のグローバル教育について話すことになるでしょう。

浦和高校は120年の歴史があつて、多くのグローバル人材を輩出してきました。

まず若田光一宇宙飛行士。彼の実行力・指導力・協調性など卓越した能力に疑問を挟む人はいないでしょう。彼がキャロライン・ケネディ駐日大使を通じて浦和高校の生徒たちに届けてくれた手紙をプログラムに載せておいたのでご覧ください。

次に外科医の天野篤。彼は2012年に天皇陛下の冠動脈バイパス手術をしました。大変有名ですね。ご存知でしょう。心拍動下冠動脈バイパス術の世界的リーダーの一人です。

Jリーグのチェアマン村井満も浦和高校OBです。昨年度の麗和セミナーつまりSGHセミナーで話をしてくれました。浦和レッズで人種差別事件が起こったときの電光石火の対応に見られる判断力や決断力は、彼のグローバル人材としての高い資質を示しています。

このあいだの9月には佐藤優さんがSGHセミナーに登場しました。知らない人はいませんね。元外交官です。

さて次に浦和高校の学校行事について話しましょう。まず新入生が入学してすぐ5月に新入生歓迎マラソンがあります。丘陵地帯を10キロ走ります。

7月には臨海学校があります。伊豆の弓ヶ浜で往復2キロ、40分以上遠泳します。海ですから足は着きません。波もあります。

11月は古河マラソン。学校から茨城県の前橋まで50キロ以上走ります。7時間の制限時間で80%以上の生徒がゴールします。みなさん7時間も走り続けたことありますか。

体育と関係しない行事として今日はひとつだけ文化祭をご紹介します。こちらはここ数年の来場者を歓迎する門の写真です。文化祭実行委員の中に門隊というセクションがあつて、10ヶ月前から設計図を描いたり、ミニチュア模型を作ったりしながら作ります。文化祭実行委員会は約50人。予算は全部で100万円以上。浦和高校生1000人をコントロールして、1万人の来場者をもてなします。これだけの人数規模、予算規模のプロジェクトをマネジメントする経験は社会人でもなかなかないでしょう。

大切なことは、これら全ての行事を全校生徒が等しく経験することです。

卒業生たち、堀尾正明アナウンサーやゴダイゴのタケカワユキヒデ。渡辺克也はベルリンドイツオペラのオーボエ奏者。富田千種はウィーン国立歌劇場で歌ったバリトン歌手で

す。彼らもみな古河マラソンを走っています。

カリフォルニア工科大学時代に量子テレポーテーションに成功した東大教授の古澤明教授、海底のレアアースによって日本の世界戦略を塗り替えようとしている同じく東大の加藤泰浩教授。彼らもSGHセミナーのスピーカーですが、彼らも文化祭を含めた浦高の全てのプログラムを経験しています。

SGHプログラムによって、東京大学との連携がいつそう強固になったことや、第一線で活躍する本物のグローバル人材に直接触れ合う機会がますます頻繁になったことは特に付言しておくべきでしょう。

ここで話題を変えて国際交流の話をしましょう。英国のパブリックスクールであるウィットギフトスクールとの姉妹校関係は20年を超えました。毎年1名が長期留学し、約20名が10日間の短期留学に行きます。SGHが始まってから課題研究を加えてプログラムを充実させました。まもなく3月になると今年のメンバーが出発します。

ウィットギフトスクールへの長期留学生は卒業後、英国の大学に進学しています。最近では原田光遥もケンブリッジにいます。彼ら留学生がウィットギフト滞在中に送ってくれた通信も一部パンフレットに載せておきましたのでご覧ください。

浦和高校の国際交流はほかにもあります。ウィットギフトスクールが最近始めたサマースクールに1年当たり8名、ミシガン大学のサマーセミナーに1年当たり6名。ミシガン大学のプログラムに参加した設楽広太君の120周年記念式典での素晴らしいスピーチはウェブページでごらんいただけます。

そのほかにも自主的に海外にでかける生徒がいます。AFSプログラムでメキシコに長期留学している原田航はその一例です。AIUプログラムでアメリカに短期留学してきた増田甚八があとで登場して話をしてくれる予定です。浦和高校では毎年40名程度が海外での学習経験をつんでいます。

浦和高校は送り出すだけではなく留学生の受け入れにも積極的です。今年度の7月までは1年間、ロシア人でウズベキスタン出身のセルゲイ・クヴァンが滞在していました。彼も古河マラソンを体験しています。メッセージをプログラムに載せてあります。

現在はウィットギフトスクールからドミニク・オーベン、デンマークからヤコブ・ペデルセンが滞在中です。ドミニクは浦和高校で古典の授業にも参加して、この秋からオックスフォード大学の日本学科に入学を許可されました。

SGHプログラムによって浦和高校の国際交流は資金面での保証を受けています。また国際交流の取組みがグローバル人材育成という観点を得て、浦和高校のそのほかの活動と大きな流れとして糾合されつつあることは重要です。

次に、現在活躍中の生徒の紹介をしましょう。クラブ活動で全国的な活躍をしたのは、

英語部. NFLJのディベート大会で優勝しました. 先月招かれて韓国大会に出場してきました. 新年度にはアメリカで行われる世界大会にも出場します. このあと登場してディベートを実演してくれます.

グリー部. 全国大会で銀賞を獲りました. 囲碁部. 全国大会銅メダル. 将棋部も全国大会で銅メダルを取りました. 数学部. 数学オリンピックの全国大会への出場権を得ました. クイズ研究会がニューヨークの自由の女神の前で優勝したのをテレビで見たでしょう.

こうした芸術・文化の分野でも著しい活躍をしています. そのこともよく知ってほしい. もちろんこうした活躍をする生徒全員が古河マラソンや臨海学校を経験していますし, 体育祭に上半身裸で参加します.

運動部の活躍もすばらしい. ラグビー部がおとし全国大会, つまり花園に行ったことは記憶に新しいですね. 今年に限っても水泳の戸澤潤也が国民体育大会で優勝. 彼はあの北島康介選手と同じプールで日本代表の練習に参加しています. バスケットボールでは村岸航がU-18日本代表として日中韓で争われた国際大会に出場して活躍しました.

強調したいのはこうして日本代表級の活躍をする運動選手も数学や古典や物理, そして芸術を勉強していること.

百人一首はご存知ですね. 著名な学者で歌人の藤原定家が13世紀前半に編んだ詩歌集です. 浦和高校生は全員. 100首全てを勉強します. 浦和高校のスポーツ大会は有名ですが, 漢字大会, 弁論大会などの文化大会も忘れないでください. 百人一首大会も重要な競技のひとつです.

そして浦和高校生であればだれでも世界最古の長編小説『源氏物語』を学習します. 彼の専攻が科学であっても, 源氏物語の54帖を素読します.

科学教育のイニシエーションは物理レポートです. 物理を学ぶ全ての生徒が2年間あたり30本作成します. 3年生の1月にも物理実験があって, レポートの提出があります. この写真は水素スペクトル線の観察です. グループワークや, ディスカッションをして現象に迫る. その結実としての物理レポートは浦和高校が本物の学習を重視していることを示す証拠のひとつです.

家庭科の調理実習や現代社会のディベート, 税制に関するディベートはテレビや新聞にも紹介されたのでご存知の方もいますね, も物理実験のように3年生の1月にもあります.

この作品をご覧ください. これは昨春の卒業生, 池田京史が作ったものです. 全て木材だけでできているのですが, 座るとスプリングが利いています. 彼は日本伝統の木工具を用いて全て手作業でこの作品を完成させました. 彼はこの作品で第54回日本クラフト展奨励賞を得ました.

工芸の授業はテクノロジーの発達した現代において, 機械を全く使わないことを特色とします. 工芸の授業はとても人気があります. 人によっては数週間, 每晚9時まで木材と

ストラグルしなければいけないにも関わらず。

浦和高校にはかつて人間国宝の増田三男が工芸の教師として在籍していました。浦和高校には伝統を尊重する精神があります。私たちは浦和高校に存在する凄い何かに惹かれて集い、学びます。

そろそろお分かりいただけるでしょう。浦和高校生は目先の損得で学ばない。流行に追随しない。彼らを動かすのはイントリンジックなフィーバーです。魂のバイブレーション。それを駆動するのが浦和高校です。

私たちが受ける教育は時に理不尽と形容されます。浦和高校での生活の経験がない人にはたしかに理不尽ではない。しかし自分で経験をする、通常の論理では到達できない意味や意義を見出します。

経験は浦和高校を理解するうえで重要なキーワードです。古河マラソンも物理レポートも工芸の制作も文化祭も部活動も、そしてSGHセミナーも。自分自身で経験することによって、経験しなければ理解できない境地に至ることができます。

きょう報告があるSGHセミナーの取組みは、アドバイザリーグループとして25年以上の歴史があります。SGHプログラムによってアドバイザリーグループの活動は劇的な変身を遂げました。私たち浦和高校の生徒は個性的な約40の講座に所属して、興味関心の赴くままに探求し、プロジェクトを運営し、社会とのかかわりを創出し、未来の世界に新しい価値を提案します。

浦和高校は私たちに「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成」をするための場を提供します。

以上で浦和高校のSGHプログラムのイントロダクションを終わります。

## 人類が直面する I T 依存の問題

こんにちは。皆さんが電車に乗るとき、周囲を見るとほとんどの人がスマホをいじったり、音楽を聴いたり…。そんな光景をみたことはありませんか？あるいはあなたは、授業が終わった直後、すぐに片手にスマートフォンをもっていたりしませんか？

スマートフォンを触っていないと落ち着かない、すぐにスマートフォンに手が伸びてしまう、そういう状況を I T 依存と呼びましょう。

こんにちは、情報技術の目覚ましい発展により、便利な I T 製品が数多く日常生活に取り入れられています。最も象徴的な例としてスマートフォンがあげられます。パソコンとは違い、スマホはいつでもどこでも使用できるとも便利なツールです。

しかし一方で、I T 依存が問題となりつつあります。その中でも特に、子供の携帯依存、ネット依存が問題とされています。それはなぜでしょうか。

それには、依存のメカニズムが深く関係しています。ケータイやネットをすると脳内で快楽物質であるドーパミンが強制的に放出されます。実はたばこを吸ったときにも同じ現象が起きています。

問題は、ドーパミンの放出により脳の構造が変化して、特定の行為ばかりを求め、他に関心を持たなくなることです。幼いころからその傾向が始まると、その影響は計り知れないくらい恐ろしい結末を導きます。

ここで一度、世界の I T 事情に目を向けてみましょう。アメリカの世論調査ではスマホユーザーの 63% が少なくとも 1 時間に 1 回以上スマホをチェックし、9% のユーザーは 5 分に 1 度の割合でスマホをチェックしているという結果が出ました。また、66% のユーザーがスマホから離れるのは不安だという依存状態にあります。

アメリカの精神科医が依存を判別する基準は三つあります。1 つ目は自分の意志でやめられないこと、2 つ目は、その行動が良くない結果を招いていること、3 つめは、よくない結果をわかっているにもかかわらずその行動が続くかどうかです。

アメリカでは歩きスマホによる事故が増えていることも報告されています。また、韓国では、スマホ利用者の 1 日の平均利用時間が 4 時間を超えており、10 代の若者の 18 パーセントが重度の依存状態にあるそうです。そこで、韓国政府は、深夜に若者が、ゲームができないようにするなどの対策を取り、問題を解決しようとしています。

これに関連して、東北大学の川島隆太教授が興味深い調査を行いました。画面をご覧ください。これは仙台市の中学生の SNS 使用時間と数学のテストの点数の関係を表したグラフです。この結果によると、SNS 使用時間が多いほど数学の点数は下がっています。たとえ同じ時間勉強していてもスマホを使っている、使っていないでここまで違うのです。

このように、I T 機器が学業に及ぼす影響はデータで示されています。私たちのアドグルでは、この問題に対して、原因、課題、解決策等を考えてきました。前期アドグルでは、海外での研究データや専門家の意見などの書かれた資料などを基にグループワークを通じ

て、それぞれが感じた問題を挙げて、どうすれば、解決できるかを考えてきました。また、IT依存を身近なものに感じるために、私たちはIT断食をし、自分を含めた周囲のIT依存の状況を観察しました。

スライドを見てください。これは、前期アドグルのIT断食レポートの一例です。この赤丸にご注目ください。自分が携帯などを使わないだけで、電車での一般の人の携帯の使い方、生徒が休み時間にどれだけ携帯を使っているか分かったという意見が多かったです。前期アドグルでの調査をふまえて、後期アドグルでは僕たちはIT依存問題を解決するためのカードゲームを作りました。なぜカードゲームなのかというと、身近な形にすることでプレイを通してIT使用の疑似体験をしてもらうためです。

このゲームには、プレイヤー自身がIT依存問題について考える要素があります。人から言われたことよりも自分で考えたことのほうがはるかに印象に残りやすいのは皆さんも体験があることでしょう。このゲームを遊んでもらって、ITの危険性や、重要性を伝えることができるとてもうれしいです。

残念ながら本日はカードゲームをプレイする様子をお目にかける時間がありません。全ての発表終了後のコーヒータイムにぜひお声掛けください。いっしょにプレイいたします。

最後になりますが、僕たちは、このカードゲーム「DAS」を単に遊び目的で作ったわけではありません。このゲームを通して、ITについて知ってもらいたいのです。そのために先ほど紹介したイベントカードの中に白紙のカードを入れることにしました。このカードにはプレイヤー自身が種類に合ったイベントを考えて記入してもらいます。この仕組みを通してプレイヤー自らがITについて考えてもらうようにしました。機会があるならばさらなる改善をしていきたいと思えます。

携帯やネットは危険ではありますが今では必要不可欠なツールです。節度ある使用を守り、時にはIT断食などを実践してみて、IT機器と自分の生活を客観的に振り返ることが重要です。排除ではなく共存することを目指すしかありません。私たちのカードゲームはこれから人類が直面する、技術と人間の関わり方に関するささやかですが重要な意義を持つ提案だと確信しています。

以上で私たちのプレゼンを終わりにします。ありがとうございました。

## ノーマライゼーションを考える

私は「ノーマライゼーションを考える」というテーマのセミナーでバリアフリー社会の実現に向けての課題や解決方法について調査・研究をしてきました。きょうはこの2月に提出したレポートの内容を要点に絞って報告します。

私たちはセミナーに計6回、聴覚障害をお持ちの講師を招いて、手話の通訳を交えながら講義をうけ、また覚えた手話を使ってコミュニケーションをとる経験をしました。さらに12月には大宮ろう学園を訪問し、同年代の高校生と交流をしました。

そこで得た知見を要約すると次の3点にまとめられます。第1は、聴覚障害者がコミュニケーションにおいて私よりも優れていること。第2は、障害の程度は多様であり、聴覚障害者あるいは健常者というラベリングは無効であること。第3は、学びにおいて他者と直接対面することの重要性です。

聴覚障害者はコミュニケーションの手段として手話を用います。手話では相手を見ることが話を聞くことであるため、必ず互いに相手に目を見合わねばならない。そして相手の視界の中で精一杯自分の伝えたいことを表現しなければならない。音声で伝える場合、相手を見なくとも話の内容が伝わることと対照的です。

聴覚障害者はコミュニケーションの態度において健常者よりも積極的であり、相手を配慮する面で優れています。さらに手段においても、テキスト以外の表情や動作も大変に豊かで健常者よりも高いスキルを身につけています。ほとんど全ての人は、聴覚障害者に学んで、他者と対話することの意味を考え直し、技術に改善の余地があることを理解すべきです。

大宮ろう学園で交流した高校生は、一人ひとりの障害の内容が違いしました。まったく声を出せず手話を主に用いる人、手話を用いるけれど言葉も聞き取れる人、補聴器を使うと健常者と変わらない人、症状は皆違い、同じ症状の人はいません。これらの人たちを聴覚障害者としてひとつのカテゴリーにまとめることは無意味です。コミュニケーションをとるためには一人ひとりの個別の事情を理解する必要があります。

私たちは障害者と健常者、男と女、アメリカ人と日本人のように、言葉による概念化・ラベル化をします。私は今回の学習を通じて、こうした概念把握がコミュニケーションにおいて無効であることに気がつきました。人々は言葉のラベルではなく、一人ひとりの人間と向き合うことの重要性を理解すべきです。

大宮ろう学園で同年代の聴覚障害者と交流で一番印象に残ったのは、大宮ろう学園の生徒たちも私たちと何一つ変わらない高校生である、ということです。彼らと交流してわかったことは、彼らにとっては聞こえないことは触れてほしくないことや隠したいことではないということです。彼らと会話をすることで、様々な工夫をしながら明るく毎日を過ごすようになっていることがわかりました。

直接交流する前は、「聞こえる」「聞こえない」による双方の違いばかり意識をしていま

した。しかし対面することで、そうした違いよりも互いに共通することに目を向けることができました。

人と人が対面することで、自分を取り巻く条件や文化に起因する他者への違和感や不快感を乗り越え、共通点を見つけたり、違いを受け入れたりすることが可能になることを多くの人が理解してほしいと思います。それはグローバル社会における様々な問題の解決の手がかりになると思います。

ありがとうございました。

## 障害者スポーツとバリアフリー社会

こんにちは。埼玉県立浦和高校2年の瀬上、大根田です。私たちは、SGHゼミで障害者スポーツに携わる方々の話を聞いて、考えたこと、感じたことについて発表します。私たちが一番感じたことは、障害を個性としてとらえることで、障害者と健常者を区別せず、同じ目線で見、接するべきだということです。私たちは、そもそも「障害者」「健常者」という言葉があることに疑問を感じます。この場では、私たちの考えを述べるためにこの二つの言葉を使っていますが、その前提には、「障害者」「健常者」という概念は存在しないという考えがあります。そのことを踏まえて、私たちの発表を聞いていただくと嬉しいです。

話を聞いた方の一人の島川さんは浦和高校OBで、「NOSiDE」という団体の代表としてウィルチェアラグビーの発展と支援に尽力されています。ノーサイドとは、ラグビーの試合が終わり敵味方のサイドがなくなって、同じ仲間であるという精神を意味します。島川さんたちは、健常者と障害者のサイドをなくし、共に豊かな社会を作っていこうというコンセプトで活動しています。その活動の中で、島川さんが体験したことや感じたことについて伺うことができました。

島川さんは「ウィルチェアラグビーとラグビーは、ルールも見た目もボールも違うけれども、スポーツとしては一生懸命さとしては何も変わらない。」とおっしゃっていました。島川さんがスタッフとして所属するチームの「福岡ダンデライオン」の選手の一人のタケダさんは右腕に比べて、左腕の筋力が極端に弱いのです。それを克服するために左腕の筋力強化を日常化しています。それだけでなく、その筋力差を生かしたプレーを心掛けるなど、苦手を武器に変える自分なりの工夫もしています。このように障害者も健常者も自分について見つけ、課題を乗り越えようと努力していることに変わりはありません。むしろ、障害という絶望を経験した障害者だからこそ、彼らにとって、「生きがい」であり「生きる力」をもらえる存在であるスポーツにかかる情熱は健常者よりも強いのかもかもしれません。そこには、一度しかない高校生活にすべてをかける部活動に似た感動があります。

私たちが障害者スポーツの選手たちに対して持つもの、それは同情というよりも尊敬ではないでしょうか。島川さんは「選手を『障害者なのにすごい』という目で見るのではなく、同じ目線で見ることが大切だ」とおっしゃいます。多くの人は障害者スポーツ選手を見て、障害者がスポーツをしていること自体がすごいと感じてしまいがちです。そうではなく、障害者と健常者の境界を越えて、ひとりの選手として見ることが私たちに求められていると思います。例えば、車いすバスケットでの座った状態で上半身のしなりと腕力だけで正確に放たれるシュート、水泳での片手あるいは片足だけで泳ぐバランス力など、選手が努力によって伸ばしてきたものすごさに目を向けることが大切だと思います。しかし、すべてが健常者と同じように評価できるわけではありません。例えば、車いすバスケットでは技の多さ、水泳でのタイムの速さなど健常者と比較すると劣ってしまうものもあります。

そこをどう評価していくかが今後の課題だと思います。

では、障害者スポーツの認知度はどれくらいなのでしょう。車いすバスケや、車いすテニス、ブラインドサッカーなど人気のあるスポーツから障害者もできるようにルールを変えられたものは名前を聞いたことがある人も多いと思います。一方、ボッチャのような障害者のために考えられたスポーツは聞いたことがないという人がほとんどではないかと思います。また、障害の重さによるランク分けなど、細かいルールがわからないという人もいるでしょう。その認知度の低さが原因で、障害者と健常者の人数比が1：17であるのに対して、障害者スポーツ施設と公共スポーツ施設の比は1：460と障害者スポーツ施設が不足しているのが伺えます。人々のスポーツに対する意識の中に障害者と健常者の差がなくなったとしても、スポーツを行う環境においては、大きな差が見られます。しかし、先ほど述べたように、スポーツは障害者にとって「生きがい」となり得るのです。プレーをする人にとって、その姿を見てもらいたいと思うのは当然です。また、障害を持って落ち込んでいる人たちにスポーツと出会うことで、目標や生きがいを見つけてほしいという思いはあるはずです。そのためにも、障害者スポーツの認知度を上げ、多くの人に見てもらふ必要があります。その一歩として障害者の利用できる施設を増やしていくことが必要だと思います。また、障害者と健常者が共用できるような施設が増えれば、交流が増え、そこでスポーツイベントを開くことも可能になり、より良いと思います。さらに、2020年の東京パラリンピックがきっかけとなり、これを後押ししていくでしょう。

そこで、私たちは障害者スポーツ交流会を催し、障害者を招いて、ウィルチェアラグビーをすることにしました。ウィルチェアラグビーを通じて様々な人と交流を図り楽しむことを目的としています。認知度を上げるだけでなく、障害者スポーツを身近に感じ、それについて自分たちの理解を深めるきっかけにしていきたいと考えています。

これまでスポーツに関して話してきましたが、SGHゼミの最初のころの活動で『『障害者』とはどういう人のことを言うのだろうか。』という問いが出されたとき、回答の中に「普通の生活ができない人」という答えがありました。

では、「普通」とは何なのでしょう。手足があつて、目が見えて、耳が聞こえることが普通なのでしょう。そうではありません。それぞれの人にその人自身の「普通」があつて、障害者にとっては障害のある中での生活が普通なのです。だから、健常者に苦手なことがあるように、規模が違っても、障害者にとって障害は苦手なことととらえるのがいいと思います。つまり、「障害」を「障壁」としてではなく、一つの「個性」としてみることで、障害者と健常者のサイドがなくなり、お互いが同じ目線で接しあうことができるようになると思います。この考えが世界に広まっていって、世界のあらゆる場面からサイドがなくなっていけばいいなと思います。

ご清聴ありがとうございました。

埼玉県立浦和高等学校 S G H総合報告会  
平成28年2月13日（土）13：00－15：00  
於：東京大学 福武ラーニングシアター

## 来場者アンケート

### 1. 生徒による発表についてご意見・ご感想がございましたらお書きください

- 様々なテーマでの発表、さすがは浦和高校の生徒だと思いました。英語での発表も堂々としていました。特に、原稿をほとんど見ずに明瞭な英語で聴衆に向かって発表していた生徒が印象に残りました。小学校と連携した情報モラルの発表も特に興味深く聞かせて頂きました。
- 高校生らしい発想を持ちながらも、それぞれ発表の完成度が高く、大変感銘を受けました。英語の発表も個人差はありながらも、それぞれが自分のものにしようとしており、自信が感じられました。PowerPointの作り方なども見やすく工夫されていたと思います。
- 今回の発表は生徒の活動の一部だとは思いますが、日ごろどんな活動をしているのかがよく伝わってきました。一つ一つの発表が努力の成果だと思うのですが、それを感じさせない程自然な感じが良かったです。
- どのグループの発表も、プレゼン力、内容、共に充実していて、浦和高校の生徒の質の高さに改めて感心しました。本校の特に男子生徒に見せたいと感じました。
- 司会の生徒をはじめ、すべて英語での発表であったので、生徒の能力の高さを感じました。生徒の熱心な取組の様子が伝わってきました。
- 英語での進行、発表とよく準備がされていたと思います。

### 2. 会の運営についてご意見・ご感想がございましたらお書きください

- 浦和高校のS G Hの全体計画やS G H推進上の課題、あるいは評価方法などについてのお話も聞きたかったです。入学してから卒業までS G Hがどのように進んで行くのかについて説明していただけたらさらによかったと思います。
- あくまでも「生徒が主体」というスタイルがよく伝わってきました。発表者の皆さんもさることながら、司会の生徒さんの対応力が大変すばらしく、感心させられました。
- この会が東大で行われたことに大きな意義を感じます。
- 良好だと思います。連携先とはいえ、東大を使える浦高の力量に感服しました。
- 内容、手際のよい進行がすばしかったと思います。今まで実施していた行事を、うまくS G Hと融合して取り組んでいることがわかりました。

### 3. その他お気づきの点やご意見・ご感想がございましたらお書きください

- 東京大学に到着してから福武ラーニングセンターを見つけるのに手間取りました。案内の方が立ってくださると助かります。案内看板は小さくて気がつきませんでした。地下に降りていくのが分かりづらかったです。
- 最後の「質疑応答」は、大きなことを聞くべきか、細かいことを聞いても良いのか…と躊躇してしまいましたので、最後に生徒さん達とお話できる機会が設けてある工夫が大変ありがたかったです。あとは普段の教室でのゼミ活動の様子などもわかると、他校も挑戦しようと思えるかもしれないと感じました。色々と勉強になる2時間でした。どうもありがとうございました。
- ありがとうございました。今後も一歩も二歩も先を行くリーダー的存在であってほしいと思います。
- 特にありません。本校も、少しでも浦高に近づけるよう、努力して参ります。ありがとうございました。
- 会場がすぐにわからず探してしまったので、案内の方が1名いただけるとよかったですと思います。
- 申し込みの際、決定ボタンを2回押さなければいけなかったことに後から気づき、申し込みが遅れてしまいました。

埼玉県立浦和高等学校 S G H総合報告会  
平成28年2月13日(土) 13:00-15:00  
於:東京大学 福武ラーニングシアター

### 参加生徒アンケート(抄)

#### 全般的な成果

- 普段の授業では体験できないようなことができ、受験勉強だけでない浦高らしい行事だと感じた。
- めったに英語でプレゼンする機会がないのでこういったチャンスがあって嬉しい。
- 皆で真剣に話し合っってこんなに懸命に協力し何かを作り上げることはめったになく新鮮であった。
- ある程度的人数でひとつのものを生み出す難しさに気づいた。
- 一年をかけて計画に尽力し、力を注いできたが、あらためて計画の大切さを学んだ。
- 他のアドグルがどのようなことをしているのか知ることができてよかった。
- 他の人の工夫を凝らした内容や、堂々と英語で話す姿勢がとても素晴らしく、勉強になった。
- 今回のように立派な場所でプレゼンができてよかった。
- 日頃学んでいることの総合力が試されるものだとおもった。

#### 課題・アイデアなど

- 浦和高校の生徒ばかりでなく、他校の生徒や東大生なども招くと良い。
- 東大ではなく浦高や浦高周辺で行うべきだった。
- 会場のイメージが湧きづらく少し準備しにくかった。
- 映像やスピーチだけだとどうしても退屈になってしまうので、オープニングの応援団のような動きを発表に取り入れたほうが良いと思う。
- 各グループの発表後に、はっきりと質疑応答の時間を設けたほうがよい。
- 各グループの発表時間の上限を定めたほうがよい。
- 明るく聴衆に質問を投げかけるような形式も取り入れたい。
- 聴衆が参加するような機会がもっとあれば双方向的な学びが期待できると思う。
- 聞いている人にも目新しく生産的な発表がしたい。
- プレゼンではスライドから喋る一字一句に至るまでどれだけ聴衆に伝わりやすいものにするかが大事。1年次の情報の授業でもそれを学んだが、究極のプレゼンを目指すにはどこまでしなければいけないのか、その奥深さを痛感した。
- プレゼンを進めるのに精一杯で聴衆の興味関心をそそらせることに意識を向けられなかった。経験をつんでそうしたことができるようになりたい。

## 英語について

- こだわって英文を作って何度も練習してからプレゼンを行うと、様々な英単語が身について普段の学習（単語帳を読むなど）以上に生きた英語を学習できたと思う。
- とてもよい英語の勉強になった。こうしたテーマでリサーチ、プレゼンをすることでしか学ばないような単語を覚えられたのも非常にありがたい。
- これからも英語でやるようにすることは、その発表を聞いたほかの生徒にとっても良い刺激になると思う。
- 自分の英語力により自信がついた。
- 弓道という日本にしかない文化を英語にするのは難しいところがあったが、うまく工夫して伝えられたんじゃないかと思う。
- 日本語で発表するよりも文の区切り方や強調する位置など難しい部分を多く感じた。
- 英語で発表を行うと日本語との違いを埋め合わせることが難しいと感じた。
- 日本語と英語ではニュアンスが違うということを感じた。
- 難しい単語もあるので日本語の字幕をつけるのが良いと思う。
- 日本人を前にして英語で発表する必要性を感じなかった。
- 英語による他のグループの発表を聞き、英語に慣れ親しむことの必要性を強く感じた。
- 母国語でない言語でプレゼンするには相当な練習が必要だということが痛いほどわかった。将来のためにも発音に気を遣わなければならないと感じました。

## コーヒータイムについて

- 多くの方にお褒めや労りの言葉をいただき嬉しかった。
- 電力事情の今後について意見を交換し合えてよかった。
- 聴衆が気軽に質問できるようになってよかった。
- 会話しやすい雰囲気になっていたと感じた。
- コーヒーやお菓子を片手に来場者が対話できたのはTEDのようなシステムに近く面白いと感じた。
- 様々な大人の方と話ができてよかった。
- ふだん話せないような方たちと対話でき、様々な情報を得ることができた。
- 比較的落ち着いて楽しみながら会話でき、良い時間だった。

## 平成27年度 S G H中間報告会 記録

日 時： 平成27年9月13日（日） 10：00～11：00

場 所： 埼玉県立浦和高等学校 物理講義室（C棟3階）  
※文化祭企画「浦高一受けたい授業」内にて実施

### 《プログラム》

#### ■ 10：00～10：10 ■

平成26年度 第1回S G H派遣生徒 派遣報告

「英国と日本の鉄道の比較と未来の公共交通機関への提案」

※ パワーポイントを用いて、グループで分担し、原稿を読みながら発表。

#### ■ 10：10～10：50（各10分） ■

平成27年度 アドバイザリーグループ 中間報告

1 「徹底研究！日本の電力問題－原発と再生エネの将来を考える－」

※ パワーポイントを用いて、代表者1名が原稿を見ずに発表。

2 「留学生とともに学ぶ弓道教室」

※ あらかじめ作成した英語字幕付き動画による発表。

3 「インターネットを活用した海外交流」

※ 代表者1名によるスピーチによる発表。

4 「I T依存を考える」

※ パワーポイントを用いて、代表者1名が原稿を見ずに発表。

- 研究のテーマや内容についてはおおむね満足のいくものだった。
- プレゼンテーションの訴求力には課題が残った。
  - 声の大きさ、話の速さ、動画の使用などスキル・技術。
  - マイク、音響装置、パソコン等電子機器の接続などハード。
  - 入念なりハーサルなど教員のかかわりに関する指導。時間。
- 2月13日（土）の報告会に向けては、課題を洗い出す良い機会であった。



# 活動報告 2

## 国際交流

本校SGHのもう一方の柱である国際交流プログラムでは、英国のパブリックスクール、ウィットギフト校との20年を超える交流を中心として、ミシガン大学サマーセミナーへの参加や県立高校海外派遣プログラムによるハーバード大学への派遣等、豊富な窓口を通じて多くの生徒を海外に送り出しています。

最近では本校同窓会に設立していただいた県立浦和高等学校同窓会奨学財団からも支援を頂戴し、生徒の海外における学びの環境は大変恵まれた状況となっております。SGHの指定と相俟って、海外を目指す生徒の大きな波が出てきています。英語編 **Report 1** に収録した留学経験生徒の発表などを通じてそうした雰囲気の一部を感じていただけることと存じます。

国際交流については、隔年で発行する『雄飛せん』にて詳細な報告を行っておりますために、重複をさけて以下ではSGH指定以降の派遣生徒による「長期留学最終レポート」および日本の生徒に向けて書いた「英国からの便り」を収録いたしました。本校生徒が海外においてどのような学びをしているかご覧いただくとともに、英国に派遣されることで逆照射される浦和高校における学びの特長もご理解いただけるものと存じます。

なお、平成26年度短期派遣生徒による課題研究報告については、英語編 **Report 2** に論文を収録してありますのであわせてご覧ください。

国際交流の全体像については59ページ以降の「取組の概要」に収めている資料をご覧ください。

## WHITGIFT 校 長期派遣留学最終レポート —WHITGIFT 校での経験と大学進学—

第 13・14 期

原田 光遥

2011 年 4 月 埼玉県立浦和高校入学 (第 66 期)

2013 年 9 月 WHITGIFT 校入学

2014 年 8 月 埼玉県立浦和高校卒業

2015 年 6 月 WHITGIFT 校卒業

2015 年 10 月 University of Cambridge 入学

### はじめに

2013 年 9 月 1 日。未来への大きな期待と、それと同じくらいの不安と共に、私はロンドンのヒースロー空港に降り立ちました。WHITGIFT 校への長期交換留学生として初めて渡英したこの日から早二年半が経ちましたが、海外の空港ならではの甘い香水の匂いを嗅ぐたびに、今でもあの日の緊張感を思い出します。空港まで迎えに来て下さったホストファミリーに、拙い英語で感謝の礼を述べるどころから、私の留学生活はスタートしました。

WHITGIFT 校での二年間は、毎日が新しい発見であふれていました。もちろん挫けそうになったことは何度もありました。それでも私がこのスリルと冒険に満ち溢れた留学生活を終えることができたのは、たくさんの人とのつながりに助けられたからに他なりません。自分は本当に幸運だったと、このレポートを書きながら改めて感じています。

留学、それも長期期間海外に行って勉強するという決断は、もしかしたら人生のなかでも大きな転機の一つになるかもしれません。何も考えずにただ「やってみたい」という純粋な気持ちでこのプログラムに応募した私も、正式に選ばれた後になってから自分の下した決断の大きさと、浦和高校の代表というプレッシャーに気づき、押しつぶされそうになりました。

それでも思い切って違う世界に飛び込んでみたことで、自分の価値観を広げ、成長するきっかけを作ることができました。世界中に友達を作ることができました。「留学に興味はあるけれども、いま一步の踏ん切りがつかない」。このレポートがそんなあなたたちへの応援歌になってくれることを願っています。

### イギリスの教育

#### WHITGIFT 校について

WHITGIFT 校は、イギリスのクロイドンという町にあるパブリックスクールです。このように書くと公立の学校のように思えますが、イギリスでは私立の学校のことをパブリックスクールと呼びます。創立は 1596 年で、400 年以上の歴史を持つ伝統校であり、また浦高

生には親しみやすいことに、男子校です。

イギリスの大学以前の教育機関は、主に小学校にあたるプライマリースクールと、中学・高校にあたるセカンダリースクールの二つに分けることができ、WHITGIFT 校は後者になります。そのため、日本の高校とは違って、10 歳から 18 歳までの約 1300 人の生徒が同じ学校内で学んでいます。私立の伝統校だけあって、WHITGIFT 校は潤沢な資金力を持っており、敷地面積は東京ドーム約 4 個分もあります。体育館、プール、ジム、音楽ホール等の設備も充実しています。

## 6th フォーム

6th フォームは、日本でいう「高校」を指す言葉です。Year 12、13 というセカンダリースクール最終二学年をまとめてこう呼びます。6th フォーマーは、先生方からもある程度「大人」として扱われることになっていて、制服ではなくスーツを着る、専用の談話室を使えるなどの特権が与えられます。私は WHITGIFT 校での二年間、この 6th フォーマーとして過ごしました。

WHITGIFT 校の 6th フォーマーは、原則として A-Level か International Baccalaureate Diploma のうちどちらか一つのコースを履修することが求められます。全体 7 割程度の生徒が前者の A-Level を選択します。このコースは、イギリスで最も一般的な高校過程で、選択した 3~4 教科を学びます。私が履修したのは、後者のインターナショナルバカロレア (International Baccalaureate、通称 IB) というコースで、全世界で共通の高校課程として使うことができます。次項では、この IB について詳しく紹介していきたいと思いません。

## International Baccalaureate (IB) について

### 概要

---

インターナショナルバカロレア、いわゆる国際バカロレアは、世界中の大学で認められている国際的な教育プログラムです。私が WHITGIFT 校で履修したのは、IB ディプロマプログラム (Diploma Program) というもので、日本の高等学校の課程に相当します。国際的な視野を持つ人材の育成を目標として設立された IB では以下の 10 項目を理想の学習者像として掲げています。

- Inquirers 探求する人
- Knowledgeable 知識のある人
- Thinkers 考える人
- Communicators コミュニケーションができる人
- Principled 信念をもつ人
- Open-minded 心を開く人
- Caring 思いやりのある人

- Risk-takers 挑戦する人
- Balanced バランスのとれた人
- Reflective 振り返りができる人（日本語訳は文部科学省 HP より）

このような全人的教育に加え、世界のあらゆる大学への門戸を開けるという点で、IB は近年注目を集めています。イギリスでも IB を導入する学校が増えてきているようです。最近では、日本の文部科学省が 2018 年までに日本国内で IB ディプロマ認定校を現在の 26 校から 200 校までに増やすと発表し、話題となりました。

IB では、イギリス固有の高校課程である A-level の倍にあたる 6 教科を学ぶこととなります。学問分野はそれぞれ第一言語 (group 1)、第二言語 (group 2)、人文科学 (group 3)、科学 (group 4)、数学 (group 5)、芸術 (group 6) に分かれ、各グループから一教科ずつ選ぶこととなります（ただし group 6 の芸術に関しては group 2~4 の科目と代替可能）。この 6 教科のうち、自分が将来学びたい分野に近い 3 つをハイレベル (Higher Level, HL) として集中的に学びます。時間割で言えば、ハイレベルの科目の授業数は、残りのスタンダードレベル (Standard Level, SL) の科目の二倍近くありました。基本的には、ハイレベルの科目は範囲が広く難しいとされています。ただ一概には言えず、たとえば私がスタンダードレベルで受講した地理の最終試験は、ハイレベルの試験 3 つのうちの 2 つと同じものでした。

この 6 つの教科の最終成績は、7 点満点で評価されます。二年目の 5 月に最終試験があり、この結果が最終成績を大きく左右することとなります。私の場合は、3 週間の試験期間中に計 15 の試験を受けました。加えて、成績内に占めるコースワークの評価点の配分もおよそ四分の一と大きいため、テストの点は良くても、コースワークの評価が悪く、思うような成績に届かなかったということも珍しくありません。この 6 教科各 7 点満点の 42 点に、Theory of Knowledge、Extended Essay、そして CAS（後述）のパフォーマンスによって決まる Core Points の 3 点を加えた計 45 点満点で、IB の最終成績は評価されます。

## 各教科について

---

### Group 1: 日本語文学 A SL

第一言語として、日本語の文学を専攻しました。日本人の Watts 先生とのマンツーマンのレッスンは日本語で行われたため、イギリスに渡った当初の私にとっては心休まるひと時でした。試験は、いわゆる「国語」とは違って、時間内に論文を一本書くというものが主です。「作者はどのような意図でこのような表現技法を用いたのか」、あるいは「小説というジャンルの特徴が、与えられた文章のどういったところに表れているのか」など、日本の国語教育とは違った視点から文学を読み込んでいく過程は、新鮮で飽きることのない作業でした。初めのうちは、問題の求めていることが理解できず苦しみましたが、何度も繰り返し練習したことが最終的には実を結んだのだと思います。異国の地で、自国の文学を深く見つめ直した時間は、私に日本文化そのものへの新しい視点を与えてくれました。

Watts 先生をはじめ、日本語学部の先生方には、公私ともに本当にお世話になりました。

### Group 2: 英語 B SL

第二言語としての英語なので、試験自体はそれほど難しくありませんが、それゆえ平均点が高く、7点を取るためにはミスが許されない教科です。ドイツ人とスロバキア人と私の三人の授業でしたが、二人ともかなり英語ができたため、良い刺激を受けました。幸運なことに、私の英語の先生は、試験の点の取り方ではなく、私たちの総合的な英語力を上げることに専念してくださっていました。この教科が、英語で行われた他の教科のベースになったことは言うまでもありません。

### Group 3: 地理 SL

地理という教科名ではありますが、内容の約半分は「現代社会」です。人口の変遷や格差といった事柄を中心に学びました。試験で選択式の問題は一切無く、全て記述式だったので、本当に苦勞しました。特に、「Case Study」では、答えに必ず具体例を提示しなければならず、そのために膨大な量のデータを覚える必要がありました。自然災害についての問題は、地震・火山・台風等に関する内容でしたが、日本の具体例を持ち出すことで乗り切りました。

コースワーク（右図）では、実際に砂丘に出かけ、高さや海からの距離、風速、植物の分布等を調べ、そのデータを用いてパソコンで砂丘のモデル図を描くという作業を行いました。授業でただ知識を覚えるだけではなく、実際に自分の目で見て学ぶというスタイルは、さらなる知識の獲得へのモチベーションにもなりました。

### Group 4: 生物 HL

私が大学でも専門として学ぶ教科ですので、ハイレベルで受講しました。内容は高校範囲ですが、初めのうちは専門用語を覚えるのに苦勞したことを覚えています。生物という学問の特性上、どうしても座学が中心となってしまいましたが、IB の科学教科の成績にはコースワークの評価点が必ず含まれているため、日本のカリキュラムに比べると、実験の数は圧倒的に多かったように思います。

このコースワークは、**Design**（実験の内容・方法の作成）、**Data Collection and Processing**（実験データの採集とその利用・応用）、**Conclusion and Evaluation**（まとめと実験内容の評価）の三つの分野に分けて採点されます。すべてを合わせると、一本の学術論文のようなものになります（浦和高校でいうところの「物レポ」のようなものです）。このような本格的な生物のコースワークは、日本ではもちろん **A-level** を履修する生徒もやらない内容ですので、大学進学に向けて大きなアドバンテージになったと思います。特に **Design** において、目的のためにどのような実験をすればよいか考える過程や、**Evaluation** として自分の行った実験の良し悪しを評価する作業は、いっばしの科学者になった気分でした。

### Group 5: 数学 HL

この教科もハイレベルを受講しましたが、浦高で難易度の高い数学をやってきたおかげで、すんなりと対応できました。日本の教育レベルの高さを実感した科目です。唯一苦労したのは、計算機の使用法です。IB Math の Paper2 と 3 では、計算機（それも関数電卓！）を試験に持ち込むことが許可されているため、いかにその使い方をマスターしているかが勝負の分かれ目となります。特に選択分野として行った確率・統計では、関数電卓を使いこなせないと解けない問題が大半ですので、かなりの時間を割いて練習しました。

### Group 6: 化学 HL

大学進学を見据え、Group 6 の芸術科目の代わりに、Group 4 からハイレベルの化学を受講しました。私が WHITGIFT 校での二年間で最も楽しんだ科目といっても過言ではありません。日本のカリキュラムでは、その履修範囲の広さから、化学反応の「初めと終わり」のみを学ぶことになることが多々ありました。IB Chemistry では、その途中にあるもの、すなわち化学反応のプロセスも丁寧に学ぶことが求められます。化学は暗記科目だと思っていた私にはまさに目から鱗が落ちる思いでした。有機化学の問題では、図と矢印を使って、電子の動きなどを細かく説明することが求められます。また、原子のオービタル内の電子配置なども学習しました。今まで化学に対して感じていたもやもやとした思いが解消され、さらに大学でも深く学びたいと強く思いました。コースワークについては、生物と同様の三つの種類の論文を作成しました。写真は化学のクラスメイトたち、そして担任でもあった先生との一枚です。

### Theory of Knowledge 知識の理論

Theory of Knowledge、通称 ToK では、知識とは何なのか、そしてそれをどのように獲得することができるのかといったことを学びます。日本で言えば総合学習が一番近いものになるかと思いますが、この ToK と Extended Essay（そして CAS）の三つの成績に応じて最大 3 点の Core Point が最終成績に加えられるという点で、重要性は決して低くはないと言えます。一年目の授業では、科学、人文科学、哲学、歴史、芸術といったそれぞれの科目の特色と、それらの中における知識とは何であるかということを探っていくことが主なテーマでした。先生が行うのは問題の提示と話し合いの方向性の調整のみで、授業は基本的に生徒間のディベートによって進みました。留学当初は話も聴きとれず辛い時間でしたが、だんだん自分から意見も言えるようになっていき、英語力の上達を実感しました。二年目は、論文とプレゼンテーションの作成が中心となりました。自身の留学で感じた国ごとの文化や教育の違いなどから、「Neutral Question（中立的な問）は存在しえるのか」というテーマで論文を書き、また空想の動物についての本「鼻行類」を用いたプレゼンテーションでは、自然科学における知識の獲得の仕方に疑問を提示しました。「知識とは○○だ」と結論を出すのは難しいですが、自分なりの解答を見つけ、たとえそれが他人のものと違って

もよいという多様性の許容に気づかせるというところに、この授業の本質があるのではないかと思います。

### Extended Essay

いわゆる「課題論文」である **Extended Essay**。この論文の作成は、WHITGIFT での二年間で最も時間と労力を使った作業でした。IB を履修するすべての生徒は、自分の興味関心のある分野を一つ選んで、4000 語の論文を書くことが求められます。私は、生物学を選び、ショウジョウバエの幼虫と成虫の、いくつかの自然由来の「虫除け剤」に対する反応の違いについての実験結果を論文にまとめました。

一般的に、科学の **Extended Essay** は難しいとされています。これは、言語学や社会科学の科目に比べて、4000 字という字数制限内で良い科学論文に必要な要素をすべて網羅することが難しいからです。テーマを決めたのち、ショウジョウバエの幼虫を育てるところから始め、平日の放課後は 4 時間近く残って実際にそれらを使って実験をしました。データを収集した後は、それをまとめるために数十本の論文を参考文献として読みましたが、この作業を通して、生物学の知識だけでなく、英語力も鍛えられたのだと思います。担当の生物の先生はとても厳しい方でしたが、英語も満足にできない私を辛抱強く指導してくださったことには感謝してもしきれません。このときの経験は、大学生活で必ず生きてくると確信しています。

### CAS

ToK、Extended Essay とともに Core Point の 3 点分を形成するのが、CAS です。これは、Creativity・Action・Service の略です。IB の全生徒は、芸術等の創造的活動、スポーツなどの身体的活動、そして無報酬でのボランティアを 30 時間ずつ行うことが義務付けられています。私は、学校のオーケストラや教会での演奏 (Creativity)、体育のサッカー (Action)、日本語部の手伝い (Service) 等を CAS の一環として行いました。

### まとめ

WHITGIFT 校内で A-level の生徒に IB をやっていることを伝えると、「大変だね」と返されるのがほとんどでした。確かに、自分の得意な 3 教科のみに集中すればよい A-level が多くのイギリス人に好まれるのは頷けます。6 教科に加えて ToK や Extended Essay までに力を注がなければいけない IB が、A-level よりも「タフ」であることは紛れもない事実です。

しかしながら、IB にはその努力をするだけの価値があると思います。IB の掲げる全人的教育の理念は素晴らしく、かつ幅広い教科を学べることは、さらに上の教育機関に向けての大きなアドバンテージともなるでしょう。大学に進学した今では、IB を通して身につけた「multi-tasking」の能力が非常に役に立っています。加えて、WHITGIFT 校での IB の授業は必ず少人数 (10 人以下) で行われていたため、先生からの手厚いサポートも受ける

ことができました。この少人数授業では、生徒同士での意見交換がより活発に行えることも利点の一つです。また、国際的に認められている教育課程なので、イギリス国外の大学進学を考えている人にはぴったりです。実際に IB を使ってプラハの大学に通う私の友人もいますし、日本の大学でも IB を認めている大学が多くあるようです。大学に進学した後も IB をやっていたという事実だけでお互いに親近感が生まれてできた友達も少なくありません。

そんな IB の欠点を挙げるとすれば、一年目に公式な成績が出ないところでしょうか。後述しますが、A-Level を使ってイギリスの大学受験をする場合、一年目の試験の成績が条件付きオファーの獲得において非常に大事になってきます。アメリカの大学進学においても、公式の成績を見る大学がほとんどだといえます。IB では二年目の終わりにしか正式な試験が行われないため、一年目の成績はあくまで学校内での予想成績という形でしか出ません。これが大学受験において不利になるという人もいます。

どちらにしても、浦和高校からの長期派遣生は基本的に IB を選ぶことになり、日本の高校から海外の大学進学を考えている人も日本で IB を履修するのが現実的な選択肢だと思います。まだまだ発展途上のプログラムではありますが、IB Diploma が今後いったいどうなるのか、注目して見ていきたいと思っています。

## イギリスの大学入試

### イギリスの大学入試の流れ

---

イギリスの大学入試は、日本のそれとは大きく異なります。日本では試験などが全て 1 月から 3 月の短い期間にまとめられていますが、イギリスではそれが Year 13 (6th フォーム最終学年、つまり私の留学二年目) の一年間にわたって行われます。また、オックスフォード大学とケンブリッジ大学、通称 Oxbridge を受験する生徒は、受験プロセスが若干変わってきます。この項では、ケンブリッジ大学を含めたイギリスの大学を受験する上で必要だった Year 13 での過程を、時系列に沿ってまとめていきたいと思っています。

### 9 月上旬 UCAS Application の開始

UCAS とは、イギリスにおける大学入試関係の一切を取り仕切るインターネットサイトです。受験生は、自分のアカウントをこのサイトで作り、それを通して必要な書類等の提出や可否の確認をすることになります。この時点で大学に提出するのは、①自分の基本的な個人情報 (名前・生年月日等)、②Personal Statement (自己推薦文)、③所属する学校の先生方からの推薦文、そして④一年目の成績です。一年目に公式の成績が出ない IB を敬遠する人がいるのは、この二年目開始の時点で④を提出する必要があるからです。最も重要なのは Personal Statement で、これの作成には一カ月以上を費やしました。自己推薦文と訳しましたが、内容はかなりアカデミックで、「私がいかに出願した教科についての知識と興味を持っているか」ということをアピールしなければなりません。たった 4000 字 (Not

words but characters!) の文に自分の興味関心をすべて入れるのは非ネイティブの私にとっては本当に大変な作業でした。

### 10月中旬 Deadline for the applications for Oxbridge

Oxbridgeを受験する生徒は、10月中旬までに必要書類をUCASを通じて受験するすべての大学に提出する必要があります。Oxbridgeを受験しない生徒の申請の締め切りは1月中旬ですが、早めに提出する人がほとんどです。大学は基本的には自由に5つまで選んで出願することができますが、唯一ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の両方を受けることだけではできません。また、Oxbridgeは、それぞれカレッジという寮のようなものの集合体であるので(後述)、各カレッジに出願することになります。同じ高校から同じカレッジの同じ学部を受験するのは一人までというのが暗黙のルールとなっています。

### 11月~1月 条件つきオファーの受領

イギリスと日本の大学受験の大きな違いの一つに、「条件つきオファー」があります。イギリスの大学は、UCASを通じて出願された学生の書類の一つひとつ目を通します。その上で一定の基準を満たした出願者には、条件付きの合格が与えられます。これは、「もしあなたが最終試験(または最終成績)で○○点以上を取ることができたら合格です」というものです。まだ正式な合格ではありませんが、このオファーをもらえなかった時点で不合格となるため、非常に重要です。

### 11月下旬 Oxbridge の interview への招待

Oxbridgeから条件つきオファーをもらうためには、interview(口頭試験)を突破する必要があります。UCASを通して提出した書類が一定以上のレベルであれば、12月上旬に行われるinterviewに招待されます。この書類審査の段階で不合格となってしまう人も一定数いますし、オックスフォード大学の場合にはinterviewを受けるためのテストである程度の点を取らなければいけない場合もあるそうです。

### 12月上旬 Interview/口頭試験

私はケンブリッジ大学を受験したので、その口頭試験について詳しく書きたいと思います。口頭試験は、大学のカレッジで一日かけて行われます。遠くから受験をしに来る学生には寮の部屋があてがわれるため、試験であると同時に、大学での生活を実際に体験できる貴重な機会でもあります。私が出願したのは生物系の自然科学でしたので、数学の筆記試験と生物のエッセイ、そして生物と化学の口頭試験を課せられました。口頭試験はすべて大学の教授が担当するそうです。

化学の口頭試験では、試験官の教授が緊張している私に一杯の水を入れてくださいました。気持ちを落ち着けるために、それを飲み、礼を言うと、教授は私にこう言いました。「で

は、このコップを熱したら、水はどうなりますか？」。なんとこれが口頭試験最初の問題だったのです！水分子が熱エネルギーを得て振動し、最終的に気体になることを説明し、コップの水がすべて蒸発した時の体積をその場で説明しながら計算させられました。このような「未知の問題に対処する力」や、「考え方のプロセス」を試験官は見ていると言われて

います。  
このような試験の方法や、実際に寮に泊まった経験は、私の知的好奇心を大きく刺激するものでした。こうやって、ケンブリッジ大学を受験した学生たちは「この大学に行きたい」という気持ちを強くして、帰路に就くのだと思います。

### 1月中旬 Interviewの結果発表 Oxbridgeからの条件つきオファー

12月に受けた interview の結果は、1月の上旬から中旬に、手紙で送られてきます。私の学年では計 28 人が Oxbridge から条件つきオファーをもらいましたが、これは WHITGIFT 校の歴史上 3 番目に多い数だったようです。

### 5月上旬 第一希望、第二希望の大学の選択

オファーは最大 5 つまで受け取れますが、そこから第一第二希望を選ぶ必要があります。

### 5月上旬 IB 最終試験

IB の最終試験は 5 月の頭から約 3 週間にわたって行われました。この試験の結果は、7 月頭に公表される最終成績に大きく影響します。A-Level の試験は 6 月に行われ、結果は 8 月中旬に発表されます。

### 7月上旬 IB 最終成績発表

この成績で条件を満たせば合格となります。私の場合は、IELTS という英語技能検定の成績も条件に含まれていたため、その結果も待つ必要がありました。

### イギリスでの大学受験を振り返って

このように一年の流れを説明すると、イギリスの大学受験は長丁場であるように見えるかもしれません。しかしながら、一つの試験にかかる時間で考えれば、日本の大学受験に及ぶものはないでしょう。Personal Statement、口頭試験、そして IB への最終試験と、やるべきことが一年という期間の中で分かれているイギリスでの受験は、短期集中型の私には向いていたのかもしれません。

加えて、Personal Statement や口頭試験の準備のためにたくさんの科学論文を英語で読みましたが、これが語学力のみならず、生物学への知識を深めることに繋がりました。試験に対する勉強となると、どうしても与えられた知識を定着させることだけに集中してしまいがちです。口頭試験の準備では、学校で習う範囲はもちろん、自分の興味関心のある分

野の知識をさらに広げていくことが求められました。また、同じく Oxbridge の生物学を目指していた友人たちと一緒に話し合いながら問題を解くことで、自分にはない新しい角度からの物の見方も学ぶことができました。

アメリカの大学を受験されている先輩方も多くいらっしゃったとのことですが、私自身は挑戦しませんでした。大学受験のシステムが全く違うだけでなく、社会奉仕活動などの実績なども重要視されるアメリカ受験とイギリス受験を同時にこなすのは大変であると考えたからです。実際に、アメリカの大学を受けている IB の友人もいましたが、なかなか苦戦を強いられているように見えました。しかしながら、科目選択の自由さや、奨学金の種類の豊富さ等、アメリカの大学の持つ魅力は否定できません。IB はやることも多く、また一年目の公式な成績もでないため、アメリカ一本で受験する人には IB はお勧めできないかもしれません。

それから、IELTS のことに触れないわけにはいきません。この試験は、英語技能検定の一つで、リスニング、リーディング、ライティング、そしてスピーキングの 4 つのセクションから構成されており、その平均がオーバーオール点数として 9 点満点で評価されるものです。私のケンブリッジ大学からの合格条件には「IELTS の各セクションで 7.5 以上取る」ということが含まれていました。結論から言うと、私はこの条件を満たすことはできませんでした。オーバーオールでは超えましたが、ライティングだけがあと 0.5 点足りず、一時は不合格を覚悟しました。最終的には、IB で大学から提示された条件を上回る成績を修めたことが評価され、合格通知をいただくことができましたが、本当に最後までどうなるかわからず、学校の先生方をひやひやさせてしまいました。お世話になったたくさんの方々に、大学合格という目に見える形での恩返しができただことは嬉しく思いますが、IELTS での悔しさは忘れずに、さらに英語も上達させていきたいと思えます。

## WHITGIFT 校での生活

今までの長期派遣の先輩方は、「ホワイトハウス」と呼ばれる学校敷地内の小さな家に数人の東欧諸国からの奨学生と一緒に暮らしていたそうです。私の場合は、渡英した 9 月から学校に新しい寮ができたので、そちらで暮らすことになりました。WHITGIFT 校一年目は、日本人は寮にも学校にも自分一人しかいなかったもので、文字通り英語しか話せない環境の中で生活していました。

新しい寮には 100 人を超える生徒が暮らしていました。年齢も 10 歳から 18 歳、出身国もイギリスだけでなく、アメリカ、ドイツ、スロバキア、グルジア、韓国、中国など多種多様でした。ほとんどの人が親元を離れてくらすのは経験したことがなく、初めのうちはお互いの文化や慣習が理解できなかったことも相まって、軋轢が生まれることもあったように思います。「寝るときに窓を開けるか否か」、「麺をすすって食べるか否か」というような、今から思えば取るに足らない諍いも、私たちにとっては新しい生活に戸惑う中での重要な問題でした。そうやって意見のぶつけ合いを繰り返していくことで、次第に互いの距

離感のようなものを掴んでいったのだと思います。仲の良いグループにいた友人たちは今では家族のような存在です。時には助け合い、時には切磋琢磨した彼らの存在は、異国の地で暮らしていく上でなくてはならないものでした。私は主にハーフターム休暇等を利用して、東欧の彼らの家に遊びに行っていました。ハンガリーやスロバキア、オーストリアといった国々に一人で旅行に行くことなど、イギリスに留学する前までは想像もつきませんでした。このような度胸や積極性は、WHITGIFTでの二年間で身につけたスキルであると思います。実際にその国の家庭に泊まらせてもらうことは、文化や慣習を理解するという点で最高の方法です。今でも友人たちの家でいただいたその国の家庭料理の味を時折思い出します。今ではそれぞれが大学に進学し、離れ離れになりましたが、定期的に Skype 等で連絡を取ったり、旅行の計画をしたりしています。

寮では毎週日曜日に出かけるという決まりがあり、イギリス国内のさまざまな場所に連れて行っていただきました。この小旅行は半強制で、宿題のやりくりにも苦労したことも何度もありましたが、イギリスのいろいろな場所にいくことができたのは今から思えば貴重な体験だったと思います。また、食事は三食すべて学校の食堂で食べていました。日本食は恋しくなりましたが、先輩方が自炊していたことを考えると、負担なく勉学に専念させてもらっていたのかなと思います。それでも我慢ができず、電子レンジしかないキッチンで白米を炊いたり、袋麺を調理して食べたりもしました。ちなみに、金曜日の昼食は、必ずフィッシュアンドチップスでした。

浦和高校時代は吹奏楽部に所属していたので、WHITGIFT校でもトランペットを続けていました。「音楽は言語の壁を越える」とはよく言ったもので、英語を上手く話せなかった一年目の私が友達の輪を広げるきっかけになったのが学校のオーケストラでした。教会のクリスマスのイベントで聖歌を演奏したり、学校内の金管楽器のソロコンテストで優勝したり、友人たちとバンドを組んで「Uptown Funk」を演奏したりと、音楽のエピソードには枚挙に暇がありません。ロンドンで行われた最後の演奏会でプロのオーケストラのメンバーと一緒にラフマニノフのピアノ協奏曲を演奏したことは、私のWHITGIFT校でのハイライトの一つです。

WHITGIFT校はスポーツも盛んで、特にラグビーと陸上ホッケーに関しては奨学生も多く、国内でもトップレベルの実力を誇っています。浦高OBとしてラグビーもやりたかったのですが、スポーツの授業では、フットボール（サッカーと呼ぶとイギリス人は鼻で笑います）を選択していました。WHITGIFT校のグラウンドは全面天然芝で、その上で走り回るだけでも最高の気分転換となりました。寮のメンバーとも毎週二晩、体育館が解放される際にフットボールをしていましたが、まさにイギリスのプレミアリーグのようにプレーが激しく、日本人選手がイギリスであまり活躍できていない理由がわかったような気がしました。

学校では、IBを履修している友人たちと主に一緒に過ごしていました。私の学年はIB選択者が他の学年に比べて多く、40人ほどいたため、生徒たちのモチベーションも高く、恵まれた環境の中で切磋琢磨することができました。英語でのコミュニケーションもままた

らなかったときから、辛抱強くまた対等に付き合ってくれた彼らの存在がなくては、WHITGIFT 校での二年間はこれほどまでに充実したものにはならなかったと思います。今年には私を含め 10 人ほどの生徒がケンブリッジ大学に進学しました。今でも時折集まって高校時代の思い出話に花を咲かせています。

新しい寮になったことで学期の中休みや長期休暇中には寮にいられなくなり、その間に滞在する場所を見つける必要がありました。私は短期派遣でも WHITGIFT 校に行ったことがあったので、その際のホストファミリーにお世話になっていました。ロンドン南部の田舎町にある彼らの家では流れている時間がゆったりと感じられ、英語での学校生活に疲れた私にとっての癒しの時間でした。一緒に小旅行や買い物に行ったこと、サクソ奏者である私のホストブラザーの祖父のビッグバンドの練習に参加させてもらったこと、学校の演奏会を見に来てくれたことなど、私の二年間はこのホストファミリーのみなさんとの思い出でいっぱいです。クリスマスに教会に連れて行ってくれるなど、イギリスの文化に触れるきっかけもたくさんつくっていただきました。新しい家族が増えたかのように接してくれた彼らなくして自分はこのプログラムをやりとげることができなかったと思います。

## 大学について

本来このレポートは WHITGIFT 校での長期派遣プログラムの報告を目的としたものですが、自分の大学生活についても少し触れてみたいと思います。ケンブリッジ大学は、31 のカレッジから構成される総合大学です。私は、モードリンカレッジ（写真右）に所属し、**Natural Sciences**（自然科学または理学部）を専攻しています。カレッジというのは、ケンブリッジやオックスフォード大学に見られる大学のシステムで、「ハリーポッター」シリーズに出てくるグリフィンドールやスリザリンを想像していただければわかりやすいと思います。ケンブリッジ大学における科学の授業は、レクチャー、実験、そしてスーパービジョンという少人数指導の三つで構成されており、このうちレクチャーと実験を学部が、スーパービジョンをカレッジが受け持つこととなります。このようにカレッジは寮としての役割だけでなく、学業面でも重要な役割を持っているのです。ケンブリッジ大学の全ての学生と教授・講師は、31 のうちどこかの一つのカレッジに所属しなければならず、受験の際も自分の希望するカレッジに直接出願することとなります。“**College Pride**”という言葉に象徴されるように、学生一人ひとりが自分たちのカレッジに誇りを持っており、スポーツのカレッジチームの対戦はとても盛り上がります。

私は、**Natural Sciences**の中から、細胞学、生理学、進化・行動学、そして生物数学の4つを受講しています。レクチャーで学んだことを実験で体感し、スーパービジョンで復習、定着させるというのが基本的なスタンスです。スーパービジョンは先生一人に対し数人の学生で行われるため、授業で理解できなかったことを聞いたり、またその内容を掘り下げたりするには絶好の機会です。ただ毎週ほとんどのスーパービジョンで宿題が出るため、気を抜くことはできません。

細胞学では、生物学の基本である細胞のはたらきや生化学、生工学などについて広く深く学んでいます。生物学の根幹をなす教科ですが、求められる知識の量が膨大なため、ハードな科目であるといえます。生理学では、簡単に言えば生物の身体のなかでどんなことが起きているのかを学びます。生理学の実験は、実際に自分の身体を対象として行うものが多いのが特徴です。電気信号を実際に流して腕の筋肉の動きを調べたり、運動した後の脈拍や体温の変化を科学的に説明したりと、サイエンスを身をもって体験しています。進化・行動学は、ダーウィンの進化論から、生物の起源、はたまた行動の分析や心理学まで、幅広く学ぶことのできる授業です。そして、生物数学では、疫病の広がりをモデル化したり、データを統計学的に評価したりと、数学を生物学の範囲内で勉強しています。授業の進度は速く、またエッセイ形式を主体としたテストのため、着いていくのに必死ですが、世界中から集まった秀才たちと手厚いサポートのもと勉強できることはこの上ない喜びです。

学業面以外でも、大学生活を多面的かつ能動的に過ごすべく、カレッジのサッカーチームや日本人会の集まりなどにも積極的に参加しています。また、歴史と伝統に裏付けられたケンブリッジ大学特有の文化がたくさんあり、それを見つけていくのも楽しみの一つです。まだ大学生活は始まったばかりですが、充実した時間を過ごして、人間的に成長できればよいと思っています。

## おわりに

今から 5 年前、生徒として初めて浦和高校の門をくぐった私に、自分の今いる場所を伝えたら、どういう顔をするのでしょうか。高校一年の終わりの短期派遣プログラムで、イギリス、そして WHITGIFT 校に魅せられてしまった私は、帰りの飛行機の中で長期派遣に出席すること決めました。半ば熱にうかされたかのように長期派遣の選考に向けて行動していた私ですが、幸運にも選考に通った後になってようやく、いかに自分のした決断が大きいものだったかに気づきました。断ろうかと思ったことも一度や二度ではありませんでしたし、仲の良い友人たちにも数カ月間言い出せませんでした。それでも、イギリスに見つけた憧れと可能性を信じて、一步踏み出せたあの時の自分を、ほめてあげたいと思います。

浦高で最後の半年を過ごせなかったことは、今でも心残りです。それでも、私の出国前日に浦高から自宅まで文字通り走って色紙を届けてくれたり、真夏の卒業式に駆けつけてくれたりした元 39R のクラスメイトたちや、今でも変わらず接してくれる吹奏楽部の友人たちが、私の浦高生活がいかに有意義だったかをいつも思い出させてくれます。私を浦高生として見守りつづけてくださった先生方との出会いも、なくてはならないものでした。「尚文昌武」の手ぬぐいは、WHITGIFT 校の寮を経て、現在はケンブリッジの私の部屋の壁に飾られています。私の大切な宝物です。

WHITGIFT 校でも人との出会いに恵まれました。寮で共に暮らした友人たち。互いに切磋琢磨したクラスメイトたち。英語を話せなかった私を辛抱強く指導してくださった先生方。そして常に優しく支えてくれたホストファミリーのみなさん。すべての出会いが私にとつ

てかけがえのないものです。そしてもちろん、家族の存在ほど大きな支えとなるものではありませんでした。イギリスに行くときから、大学受験に至るまで、両親と弟がどんな気持ちで私を応援し続けてくれたのか、今では少しわかる気がします。このように長期派遣プログラムを振り返るたびに、大切な人たちへの感謝の気持ちを思い出します。いかに自分が周りの人たちのサポートのなかで生きてきたのか。そして一歩踏み出す勇気がどんなに新しく素晴らしい出会いをもたらしてくれるのか。それがわかっただけでもこの留学は有意義なものであったと自信を持って言えます。そんな人々の支えがあって、自分が夢に向かって勉強することができているということを噛みしめ、感謝の気持ちを常に持って進んでいきたいと強く思っています。

私は、留学をすることが必ずしも重要なことであるとは思いません。日本という素晴らしい国が自分の母国であることに変わりはないし、これからもその思いが消えることはないと思います。昨今留学を勧める声をよく聞きますが、決して無理をしてまでして行くものではなく、留学で得られる経験の全てが良いものというわけでもありません。実際、短期派遣で訪れたイギリスは夢のような場所でしたが、長期派遣では挫折の連続でした。しかしながら、この長期派遣プログラムは私にとって、おそらくこのレポートで伝えることのできる限界以上に、大きな、非常に大きな意味を持つものでした。自分の生きている世界を変えることほど勇気を必要とすることはありません。それでも、あなたの99%の不安や諦めや戸惑いとは別に、1%でも「やる気」があるのなら、その可能性に賭けてみるのも悪くはないと思います。私の母がくれた言葉に、「チャンスの女神は前髪しかない」というものがあります。このレポートが、あなたがチャンスを掴むためのきっかけになることを願っています。

2016年3月 ケンブリッジにて

原田光遥

## 英国からの便り

原田 光遥

2013/10/08

みなさんこんにちは。文化祭お疲れ様でした。大盛況だったようで、僕もうれしく思います。イギリスに着いてからはや一か月が過ぎようとしています、それが信じられないくらい忙しい充実した毎日の連続です。Time flies. とはよく言ったものです。しかしそんな生活のおかげでか、もうすっかりこちらでの生活には慣れました。英語にはやはり苦勞していますが、聞き取れないことにももう慣れたので、わからないことは友達や先生に聞いて解決するようにしています。

さて、今回は授業についてのことを中心に書こうと思います。まず、数学や化学、生物の理系科目について。今これらはだいたい浦高で習った分野をやっているので、復習をしっかりすれば大丈夫です。人数はいずれも 10 人前後です。ただやはり国が違えば焦点を当てる場所も違います。より物事の過程や原因を重視するこの国の理系科目を勉強するのは、単なる既習分野の英語での焼き直しにはならないのでおもしろいです。当然理解できないことに遭遇することもあります、そんな時は迷わず先生に聞きに行くようにしています。そのおかげか、これらの理系科目については良いスタートが切れたと思います。宿題をほめられたり、友達に質問されたりすることもあります。もっとも難しいのは地理でしょうか。人数は 4 人です。ある事象に対してみんなで意見を出しながら授業を進めていくスタイルは、英語のままなら僕にはまだ難しいところがあります。(加えて僕は地理が苦手です…。地名テストちゃんとやっつけばよかった…。)ただ積極的に取り組むことで英語も上達するはずなので、まずは離されないように頑張っています。日本語では文学を読みます。今は本を決める段階なのでたくさん読まねばなりません。昨日からハムレットを読んでいます。(本の帯に「シェイクスピアの最高傑作」と書いてあったので読むことに決めたというのは内緒です。)第一言語用なので当然先生と 1 対 1 です。そして英語、今年からだと思うのですが、2nd language 用の英語のクラスが開講されています。細かい文法からチェックしてくださるので、上達に非常に役立ちます。2 人という少人数も僕には非常にありがたいです。

授業は 1 コマ 45 分で午前に 5 コマ、午後には 2 コマなのですが、驚いたことに 2、3 時間目の間と昼休み以外の、移動用の休み時間はありません！要するにほとんどの授業は時間ピッタリに始まらないのです。イギリスらしいというか、日本では考えられませんよね。蕪塚先生が知ったらなんとおっしゃるのでしょうか…。

それから日本から持って行ったトランペットをまた始めました。個人レッスンとビッグバンド、ウインドバンドの練習に参加しています。放課後は宿題等勉強で消えてしまうので、朝 Music department について個人練習しています。運動もするようにしていて、時間があればプールやジムにも行きます。また水曜の 6、7 限目がスポーツの時間で、僕はサッカーを選択し、天然芝の上で走り回っています。そのほかの活動としては日本語クラブ

の手伝いと **Biology society** に参加しています。

このように盛りだくさんの学校生活を過ごし、寮に帰ってきて宿題と復習をし、明日に備えて寝るといふ毎日は、大変ですがやりがいもありますし、楽しいです。早く英語を上達させ、この生活をさらに楽しむためにも、失敗を恐れずに積極的に英語を使っていきたいと思います。

最後になりましたが、日本を旅立つ前に送別会を開いてくれたり、カラオケ行ったり、ボウリング行ったり、そして家まで色紙を届けに浦高から走って来てくれたりした親愛なる友人の皆様、本当にありがとう！そして留学までのたくさんの準備を手伝ってくださった小河先生をはじめとする先生方、ありがとうございました。皆さんの支えのもと今自分がここにいるということを忘れずに、日々努力したいと思います。また、浦高生で、留学や、**Whitgift** の短・長期派遣に興味を持っている人がいるなら、僕にできることなら力になりたいと思っています。質問等あればなんでも聞いてください。

それではまた来月お会いしましょう。さようなら。

\*\*\*\*\*

2013/11/11

みなさんこんにちは。一次考査と古河マラお疲れ様です。やはりイギリスでも 50 km 走るといふと、はあっ！？とリアクションされます。去年古河着いておいて良かったなあなどとしみじみ思っている今日この頃です。

こちらでは、11月の頭まで、ハーフターム休暇という学期の中間にある2週間ほどの休みがありました。日本ではないといふと、お前ら死ぬ気か、みたいな目でみられます(笑)前半一週間は、**Chester, Liverpool, Manchester** に一人旅に行ってきました。後半は、ガーディアンのお宅に泊まらせていただいていたいました。プレミアリーグの試合、ガイフォークスデーの花火、そしてそのガーディアン宅はもちろんそのご両親やご友人のお家にお邪魔させてもらったりと、普段できない貴重な体験をさせてもらいました。本当に親切にしてください感謝の気持ちしかありません。いろんな人に支えられて **Whitgift** で頑張ることができるのだといふことを改めて確認させられました。

宿題も山のように出ました。その宿題で精いっぱい復習までできなかったといふのが正直なところ。復習を通常授業と同時並行で進めるとともに、次のクリスマス休暇はしっかりと予定を立てて臨めるようにしたいと思いました。

また休暇前にはいくつかのテストがあり、現時点での成績もできました。英語、地理はまだですが、数学、日本語、化学と生物の片方ずつなど良い成績もありほっとしました。化学は勉強の成果もあり、よくできたテストもあったのですが、実験レポートが非常に難しいです。生物はレポートに加え暗記が多いのが難点でしょうか。ここで安心せず12月末にはよりよい結果になるよう努力したいと思います。

さて、今回は寮のことも少し書こうと思います。この寮は、今年度から新しくできたもので、10歳くらいの子から僕たちの学年まで、6, 70人が暮らしています。世界中か

ら集まっていますが、イギリスの生徒も多いです。そのため半分程度が週末は自分の家に帰ります。ハーフタームごとに部屋を変えるという少々面倒なシステムで、最初の二か月は二人部屋、今は一人部屋を使っています。この一人部屋は、勉強に集中できるし、ルームメイトを気にせず遅くまで勉強できるのは大きな利点です。ただ寝坊とダラケというリスクもありますが…。

設備としては、やはり新築ということで、とても快適です。電子レンジなどのあるキッチン自由に使い、よくカップラーメンなどを作って食べています。(日本からイギリスに来る人がいたらカップラーメン持ってきてください！笑) 入寮当初洗濯機が壊れていたのですが、今はそれも直りました。部屋の様子は説明するのが難しいので写真をどうぞ!!!!!!

どれくらい伝わるのでしょうか…笑。今の部屋の窓からは例の動物園が見えます。右上の写真の○の中にあるのはワラビーちゃんです。白い子たちもいますが、彼らはなかなかシャイです。朝はフラミンゴの鳴き声で目が覚めます。とは言うものの「ピヨピヨ」とかではなく「ぐわあーぎゃー」という感じなので、目覚めは良くないです。というかうるさいです。

とりあえずこんな感じで元気にやっています。英語はできるようになったかと思えば、あれ、聞けない、の繰り返しです。焦るなと言いつつ聞かせながらの毎日ですが、やはり失敗を恐れず、より使っていかなければ向上するものもしないのかなとも思います。短期派遣の浦高生が来るころにはカッコイイ英語を使いたいのので、授業に加え英語のスキルも伸ばすのがこのタームの大きな目標の一つです。

イギリスはもうセーターやコートは普通なくらい寒いです。僕も少し風邪をひいてしまいました。日本もこれから寒くなってくると思うので、みなさん健康には気を付けてください。

\*\*\*\*\*

2013/12/05

みなさんこんにちは。渡英から3か月が経ち、生活面でも勉強面でもこちらのスタイルに慣れてきた今日この頃です。英語は少しは良くなって来たとは思いますが、発音や語彙、そしてもちろんリスニングとまだまだだなと日々感じています。数学の全英統一テストみたいなものでは学校一位を獲得しました。やったぜ。受けたこと自体すっかり忘れていたのですが、結果をきいたときは嬉しかったです。この結果をうけ数学オリンピック的なものに推薦していただいたのですが、残念ながら後述の旅行と日程がかぶり、3時間半のテストということもあり受けることができませんでした。そのかわりに「カンガルー」という奇怪な名前のテストを出発当日受けさせられましたが…。来年リベンジしたいと思います。ということで、今回は11月末から12月の頭にかけて行って来たそのポーランド旅行について書きたいと思います。

これはWhitgiftでIBを選択している生徒の旅行で、僕は3泊4日現地の家庭にホーム

ステイさせてもらいました。行先はポーランドのグダンスクという町です。まず寒い。イギリスも日本より寒いですが、グダンスクのほうが断然寒いです。そんな寒いグダンスクは第二次世界大戦が始まった町として知られています。ドイツ軍が最初に攻撃してきた場所が公園のようになっていて、もとは簡易病院だった建物なども含め見学してきました。建物には銃弾の跡が生々しく残っていました。自分たちが歩いているこの場所で、ほんの数十年前にたくさんの兵士たちが命を落としたのだと考えると、歴史の重みというものを感ぜずにはられませんでした。

またポーランドが社会主義から脱却するまでの歴史を題材とした博物館にも行きました。社会主義下のポーランドの人々や出来事について学べたとともに、自分がいかにヨーロッパの歴史を知らないかということを感じさせられました。最低限の世界史の知識は持っていたほうがよいと思います。理系のみなさんも「受験で使わないし」などと言わず、一般教養だと思って勉強しましょう。

そのほかには、パーティーや映画などに行きました。ポーランドの友達たちや他の IB の友達と親交を深める良いきっかけになったと思う反面、個人的にはもっとポーランドでしかできないことを体験してみたかったです。家に帰るのが毎日遅くてポリッシュディナーを一回も食べられなかったことが悔やまれます。

それから、これは余談ですが、グダンスクの町中を歩いていて、日本と同じように、他人種の人々が圧倒的に少ないと感じました。イギリスがいかに多国籍な国であるかということに改めて気づきました。

そして、今回はポーランドにある IB school がホストをしてくれたのですが、彼らは英語で授業をしているだけあり、流暢に英語を話すことができます。つまり僕より上手いです。彼らがイギリスに来る 6、7 月までにはカッコいいイギリス英語を身につけ、女の子を口説こうと決心しました。ポーランドの女の子はほんとにみんなかわいいです。ちなみに僕の Exchange も女の子でした！浦高生のみんなごめんね！昼食の写真を見返したら合コンみたいでした。

センター試験まで 2 か月を切り、なによりラグビー大会、バスケ大会まであと数日というところで、浦高生はいつも以上に忙しいことと思いますが、「三兎を追い」の精神で頑張ってください。今年こそは教員チームに勝ってほしいです…！

そして最後になりましたが、ラグビー部のみなさん県優勝おめでとうございます！！歴史的な記録をうちたてたことを、同じ代の一人として本当に嬉しく思います。花園でも「正々堂々」とプレーしてください！

\*\*\*\*\*

2014/01/23

みなさんあけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈いします。

イギリスに来て 4 か月、最初の学期が終わりました。新しいことの連続で、ついていくのが精いっぱいでしたが、ようやく最近イギリス流というものがわかってきた気がします。

来学期は各教科に加え英語の上達に焦点を置き頑張りたいと思います。

さて、今回は、イギリスのクリスマスを経験させてもらったので、そのことについて書きたいと思います。

知っている方も多いと思いますが、クリスマスはヨーロッパでは日本よりもずっと大きな行事として扱われています。25日は電車や銀行などは閉まります。クリスマスイブやボクシングデー（26日）も同じように電車の本数が極端に減ったりします。

まずはクリスマス休暇前について。自分のクラスなどでシークレットサンタというものをつくりました。これは、くじで誰にプレゼントを買うか決め、みんなで交換するというものです。自分が誰にもらうかがわからないのがこれの面白いところだとも思います。それから、学校のクラスなどでこういったイベントをするというのも、日本と違いクリスマスがより大きな行事であるということを感じました。

休暇中は、寮からでなければいけないので、友達の家泊まらせてもらいました。24日のクリスマスイブに、友達の家族と一緒に近くの教会の **Christingle Service** というものに行ってきました。子供たちがキリストの生まれるストーリーを朗読するのを聞き、またオレンジにロウソクやキャンディーが串刺しにされているもの（オレンジ＝世界、赤いテープ＝キリストの血、キャンディー＝四季の果物、ロウソク＝世界を照らすキリスト、を表しているそうです）をもらいました。現地の家庭と一緒に過ごすことでしかできない貴重な経験ができました。

25日にはクリスマスディナーを食べました。昼でしたが。休暇前に寮でも食べたのですが、七面鳥、芽キャベツ、そしてクリスマスプディングなどが伝統的な料理です。そのあとにプレゼント交換などもしました。

そのほかにも、友達の祖父母の家などに行く機会が何度かあったのですが、イギリス人は本当に議論するのが好きであると改めて感じました。食事後から一時間くらいは余裕で、家族や親戚、友達らと語り合っています。議題も学校の出来事からソーシャルメディア、政治など多岐に及んでいます(笑)リスニングの練習になるので僕もその輪に入って聞いています。だんだん意見を言えるようになってきたのは嬉しいことです。

逆に正月というものはなく、割とあっさりと新年を迎えました。本当に日本の正月、日本食や紅白歌合戦が恋しいです。あまちゃんだけは YouTube でなんとか…(笑)

最後になりましたが、夏まで同じ教室にいた 3 年生のみなさんが努力の結果を十分にだせるようイギリスから応援しています。僕も負けないう頑張ります。

\*\*\*\*\*

2014/03/12

みなさんこんにちは。日本では大雪が降るなど、厳しい冬となっているようですね。受験会場への交通手段などに影響がでないことを祈っています。一方イギリスの冬は寒いと思っていたのですが、今年はそれほどでもなく、このまま雪も降らずに春になりそうです。ケンブリッジ大学見学

二月の初めにケンブリッジ大学の見学に行ってきました。ケンブリッジ大学はオックスフォード大学と並び“オックスブリッジ”と称される、世界でもトップクラスの大学です。

このオックスブリッジは学校のしくみも他の大学と違っていています。入試では、一次試験に当たるインタビューを行います。これは、日本で言う面接というよりは、口答試験という感じであると先輩方がおっしゃっていました。なんでも考える力や未知の問題への応用力を見るらしいです。(この面接でオファーを得たうえで、IBやA-levelの最終成績が要求を満たせば合格となります。)また、出願は、カレッジとよばれる一種の寮のようなものに向けてすることになります。オックスブリッジは、生徒や先生がそれぞれ独立したカレッジに属し、そこから学部で授業をうけるという形態をとっているからです。インタビューや筆記試験もそれぞれのカレッジによって行われます。学部の授業とは別に、カレッジで行われる **Supervision** と呼ばれる少人数指導は、オックスブリッジをそれたらしめる特殊なシステムのひとつです。

今回のトリップでは、Whitgift の卒業生の方々がツアーをしてくださり、3つのカレッジに加えて **Chemistry department, engineering department** を見学してきました。ケンブリッジ大学の伝統や生徒たちの雰囲気、最先端の設備を間近で見ることができました。モチベーションも上がりました！2年後のツアーは僕がやってやるくらいの意気込みで頑張りたいと思います。

A-level (イギリスの高校にあたる単位) vs IB と称して行われた化学オリンピック (の校内予選?) に参加させてもらいました。

問題はもちろん難しく、ただそこにくらいついていく中で答えを得られた時の快感は何事にも代えがたいものがありました。また日本の3年生のみんなには負けないという気持ちでえ頑張りました(笑)。

結果は6th Form 全体で3位、同学年では2位と、なかなか良かったのでほっとしました。ただLaとLuを間違えるなどのミスがでたので悔しさもあります。化学の先生がおっしゃっていたように「来年リベンジ」します！

最後になりますが、三年生のみなさんは、ぜひともそれぞれの実力を存分に出し切れるよう祈っています。みんなが頑張っていると思うと僕も頑張れます。1, 2年生もしっかりDUOをやしましょう。

\*\*\*\*\*

2014/05/23

みなさんこんにちは。久しぶりの更新となり申し訳ありません。僕の同級生はみんな卒業してしまったということで…おめでとうございます！僕はもう少し高校生として頑張りたいと思います。

まずは、三月の終わりに浦高から短期派遣のみなさんが来てくれました。ここでの体験がよいものであったことを祈っています。長期派遣に少しでも興味を持った人がいたら質問等には答えるので、なんでも聞いてください。

さて、4月のイースター休暇には日本に一時帰国し、ひさびさの日本食でリフレッシュするとともに休暇明けのテストに向けて勉強しました。IBの場合、この **internal exam** を基に先生方が **prediction** という一年後の成績の予想を出し、大学側に提出するので、極めて重要なテストでした。結果としてはとりあえずの目標はクリアできただけでなく、まだできるなという感触をつかめたので、それも収穫ととらえてさらに努力したいと思います。

イギリスの大学では日本のような入試を行うところは少なく、ほとんどの大学が自己推薦文と面接、そしてIB(国際バカロレア)やA-levelという他のプログラムの最終成績をもとに可否を判断します。A-levelをやっている生徒は、一年に一回ずつ大学に直接つながる公式テストがあるのですが、僕のやっているIBは二年の終わりにしかありません。

それでは、校内の模擬試験を終えたら、IBの生徒は暇になるのでは？そんな期待は当然のように裏切られました。IBはやるのがたくさんある大変なコースだと言われており、休む暇はありません。テストを終えた僕に待っていたのは地理を初めとするコースワークたち、そして **Extended Essay** でした。

地理のコースワークでは **Studland** という南の海沿いの町に行き、砂丘の高さや角度などを計測したので、そのデータを解析するというものを行っています。高さや角度をもとに断面図を書いたり、それと風速やpHの関係を調べたりと、本格的で楽しいのですが大変です。やはり長い英語をよい表現で書くにはまだまだ努力が必要です。

**Extended Essay** は自分の興味のある教科のトピックについての論文で、IBの最終成績に大きく反映されます。僕は生物を選択しました。僕は動物の行動などに興味があったので、ショウジョウバエの幼虫（のちに成虫も）を使って、匂いに対する彼らの行動を観察しました。僕の担当の先生はとても厳しい方で、イースター前に実験をすべて終わらすというものすごい計画をたててしまったので、僕は毎日8時過ぎまで実験室で数十匹の幼虫たちと戯れるはめになりました。その結果、ほかの友達がまだだれも初めていない中、僕だけ実験がすべて終わっているという快挙をなしとげました。そんな実験を学校の設備でやらしてもらえるのはありがたいことだし、大学の研究室にこもる雰囲気味わえたこともよかったです。なにより自分の好きなトピックでできるのがまた面白いです。これからその **Write-up** が始まるので、よい論文が書ければいいと思います。

イギリスは7月頭から夏休みです。日本に帰るのを楽しみにまた頑張りたいと思います

## 英国からの便り

林 裕暉

2014/10/20

みなさん、こんにちは！県立浦和高校3年の林 裕暉です。第13期長期留学生としてイギリスにある、姉妹校のウィットギフト校にきています。これから1年間イギリスで生活していて感じたことや学んだことをみなさんに伝えていきたいと思います。自分はIBコース（インターナショナルバカロレアコース）というコースで学んでいます。このコースや学んでいることについてはまた次回かそのあとに説明していきたいと思います。

さてさて、イギリスにきてから早くも1か月以上が経ちました。異国の地ということもあり、この1か月は本当に大変でしたが、友達もたくさんでき、生活にも慣れてきて、少し落ち着いてきました。今回は第1号ということでこの1か月で感じたことやイギリスでの生活について書いていきたいと思います。

はじめに、イギリスにきて感じた日本との違いについて話します。まだそこまで時間は経っていませんがこの期間で感じたことは、やはり様々なバックグラウンドを持った人々がたくさんいるところだと思います。いろいろな要素がありますが、わかりやすいのは国籍でしょうか。イギリスの学生はもちろん、東ヨーロッパやナイジェリア、サウジアラビア、グルジアなど本当にいろいろな国からきています。イギリスの学生の中でもインドや他のヨーロッパの国から移住した人がたくさんいます。なので英語のアクセントも人それぞれ違います。そしてさらに驚いたことに（これはたまたまかもしれませんが）、僕の友達には2重国籍の人が多いです。僕のルームメイトはオーストラリアと中国ですし、いつもよく話している友達もオーストラリアとフランス、フランスと中国、イギリスとフランスなど、初めに聞いたときは本当にびっくりしてしまいました。本当にびっくりしていたらしくて、友達が僕の顔を見て笑っていました（笑）。

おもしろいのが、僕は心理学の授業をとっているのですが、クラスは3人のみで、それぞれの国籍はイギリスとオーストラリアの2重国籍、ルーマニア、日本で、おまけに先生も12歳まで南アフリカに住んでいたというまさに多様性と言わんばかりのクラスになっています（笑）。イギリス人がマイノリティーのイギリスの学校の授業に参加することになるとは思っていませんでした。海外に來ると面白いことがたくさんありますね。あまりしっくりこない人は1回海外にきて見ましょう。

たしかにこの環境で過ごしていれば、多様性を受け入れなければ生きていけないので、こちらの学生は小さいころから他文化を受け入れることを自然に学ぶのですね。ただ、日本にもいいところがあって、日本人のみなさんは他人のことも考えることができるのではないのでしょうか。もちろんイギリスにいる人々が他人のことを考えられないわけではないのですが、日本人の気づかひのすばらしさにあらためて気づかされました。みなさん、これは日本人の誇りだと思います。大切にしたいですね。

偉そうに話してしまってすみません。次は寮について少し話したいと思います。今自分

の住んでいる寮には、平日は100人くらい住んでいます。なので、かなりにぎやかです。特に、自分は2階に住んでいるのですが、2階にいるほとんどの学生は日本でいう中学生なので毎日話し声やら笑い声が響いています。どうやら前までは自分の学年と1つ上の学年（この2学年は最高学年で合わせて6th form と呼びます）は3階の部屋をもらえたりしいのですが、人数が多すぎて3階に入りきらなくなってしまったようです…。

2階は2階でみんなと話せて楽しいのですが、みんな騒いでいるので勉強できないのが難点です。ということでいまは夜勉強するのはあきらめて友達と話したり、ジムに行ったりして、みんなが寝ている朝に早く起きて勉強しています。始めは勉強が大変で夜勉強できないと文句を言っていました。今はこれこそが健康な生活なのでは、とポジティブに考えるようにしています。（勉強は相変わらず大変ですが（笑））実際話好きの自分にとって話すことで良いリラックスができていないのでしょうか。

いろいろ話したいことがたくさんあるのですが、長くなってしまったのでまた次回ということにしたいと思います。次回予告としては、スコットランドが独立しないと決まったときの現地の人の反応や、勉強面などについて話したいと思います。日本ではデング熱、台風、火山の噴火など大変なことが起こっているようですが、だいじょうぶなのでしょうか。心配です。

最後に先日、浦高でウィットギフト校出身の第11期長期留学生、植山先輩が寮に来てくださり、現在在学中の第12期、原田先輩と自分の3人で大学や今の状況について8時間語り合いました。話好きが集まると大変ですね（笑）。久しぶりに日本人とこんなに長く話せてリラックスできました。人のつながりを大切にしたいです。

本当の最後に、もうすぐウィットギフト校から短期留学生が派遣されますね。なんと自分と同じ学年の生徒すべてが、自分のいるホームルームの生徒なのです。Charlie, Pavan, Oscar、そして Tom です。仲良くしてあげてください。とてもいい人たちです。英語が話せない人でも積極的に話しに行きましょう。身振り手振りだけでもノリで話しちゃいましょう！きっと楽しいですよ♪では、またすぐに会いましょう。

\*\*\*\*\*

2014/11/29

みなさん、こんにちは。

もう11月も終わりということで徐々に冬に近づいてきましたね。日本の10月、11月はとても過ごしやすいですね。今の時期、イギリスは朝の7時過ぎからようやく明るくなり始め、4時半にはもう真っ暗です。これからもっと日が短くなるそうです。緯度の影響はすごいです。

実はイギリスの学校には各学期の途中に、ハーフタームという休日が1～2週間あります。今学期のハーフタームは2週間という長い休みだったので、イギリス内にあるオクスフォードやカンタベリーなどに行ってきました。

世界遺産であるカンタベリー大聖堂の美しさには圧倒されました。昼間でもきれいな

ですが、夜訪れると、ライトアップされていてとても幻想的で本当に感動します。ぜひ訪れてほしい場所の1つです。

オクスフォードではオクスフォード大学を見学してきました。これもまた建物が大迫力でした。まさにハリーポッターの世界です。あるカレッジは約800年前に建てられたようです。建物の荘厳さにも驚いたのですが、なにより1番自分の心に残っているのは、オクスフォード大学の生徒や教授の英語の話し方です。聞いているだけで幸せになるようなイギリス英語だったので、自分も彼らのように洗練された英語を目指して頑張りたいと思いました。

イギリスやアメリカなどには数えきれないほどたくさんの方のアクセントがあります。みなさんもいろいろな英語を聞いてみて、自分の気に入ったアクセントを見つけ、その話し方を目指してみるのも楽しく英語と触れ合う1つの方法なのではないでしょうか？

さて、ここで最近、寮で過ごしていて気になった中国語のことについて話したいと思います。いま僕が住んでいる寮には中国から来ている人がたくさんいます。(もちろん学校にはイギリスで生まれ育った中国系の生徒も多いです)寮で暮らす中国人のほとんどは香港から来ているのですが、2人だけ中国のメインランドに住んでいる生徒がいます。香港や広東省の人々は **Cantonese** という言語を、その他の人たちは **mandarin** という言語を話しています。つまり、彼ら2人は **mandarin** を話します。(友達の情報によると、**Cantonese** を使っている人々の割合は、中国人の中で10%以下とのことで、徐々に広東省などにも **mandarin** が広がっているそうです。広東省はメインランドにありますが、**Cantonese** が主流ということです)

僕はいままで、この2つの言語は少し単語が違うだけだと思っていたのですが、驚いたことにはかなり違うようです。2人に聞いてみたところ、「香港の人たちは **traditional** な文字を使っていて、自分たちは **simplify** された文字を使っているし、単語も違うよ〜」と言われました。

なので、この2人は **Cantonese** を理解することができません。しかし、香港から来た生徒たちの多くは **mandarin** を学んでいたらしく、両方の言語を話すことができます。香港にいるすべての人が2つとも話せるわけではないらしいのですが……。ということで、幸いにもメインランドから来た2人は香港から来た人々と会話ができるわけです。世界(中国)の主流である **mandarin** が寮ではマイノリティーの立場にあるというのはなかなか不思議な気分です。

次に、スコットランドの独立について周りの人の反応にびっくりしたので、少し書きたいと思います。スコットランドが独立しないと決まってからかなり時間が経ってしまいましたが、イギリスに来てから一番大きなイギリス国内のニュースは何か、と言ったらこの話題だと思います。独立が否決された日、クラスはこの話題で持ちきりだと思っていたのですが、意外にも何も起こらなかったかのようにみんな過ごしていました。ロンドン市内の人にとって、スコットランドは遠すぎるのでしょうか。

先生は「確かに周りにはスコットランドの独立について興味を示さない人も多い」と嘆いていました。事実、スコットランドが独立しないというニュースを聞いたのは中国人の友達からですし、この話題について話しているのも留学生が主だったと思います。残念ながら周りにスコットランド出身の友達がいないので、このことについて確かなことは言えません。今後もいろいろな人に聞いてみたいと思います。

また、スコットランドとイングランドの境を友達に聞いても、「このあたり」というようにざっくりとしか把握していませんでした。しかしこれは、イギリスとスコットランドの境界が300年くらい前には存在していましたが、いまはもう存在しないので、あまり気にしていないのかもしれませんが。

海外に来ると自分の知らないことがたくさん見つかります。これからもいろいろな発見があると思うので、また随時報告していきます。次回はポーランドへの school trip や、今回書くはずだったイギリスでの勉強面などについて書いていきたいと思います。

浦高生の皆さん、古河マラや駅伝大会お疲れ様でした。Whitgift 校では50km 走るといような行事がないので、本当に残念です。12月に入るとラグビー大会とバスケットボール大会がありますね。3年生の皆さんは勉強もあり大変だと思いますが、最後のスポーツ大会なのでぜひがんばってください。

\*\*\*\*\*

2015/02/25

皆さん、お久しぶりです。前回の便りからかなり時間が経ってしまいました。申し訳ありません。まずは3年生の皆さん、センター試験お疲れ様でした。大変だと思いますが、国公立の2次試験に向けてもう少し頑張ってください。1, 2年生の皆さん、充実した日々を送っていますか？冬は1, 2学期に比べて行事が少ないですが、部活は熱いですよね？これからの浦高での活躍をイギリスから応援しています！（もちろん勉強も忘れずにがんばりましょう）

今回は、ポーランドへの修学旅行と学校生活 part 1 について書いていきたいと思います。

はじめに、修学旅行について話します。クリスマス休暇の前に修学旅行でポーランドに行ってきました。朝の気温はなんとマイナス10℃！午後もそこまで気温が上がらなかったためほんとに寒かったです。訪れた場所はグダンスクという町で、第2次世界大戦の始まった場所として有名です。1200年代から長い歴史を持つ世界文化遺産のマルボルク城や1950年代以降のポーランド国内の民主化運動の様子、そして労働者による全国規模の労働組合である「連帯 (Solidarity)」の歴史についての博物館などを見学してきました。マルボルク城は第2次世界大戦時にドイツ軍とソ連軍の激しい戦いによってほとんどが破壊されてしまいましたが、ポーランド市民によって修復中だそうです。しかし、破壊される前の姿にはもう戻らないだろうとポーランドに住んでいる方が言っていました。戦時中の写真を見たときは戦争の恐ろしさを感じずにはいられません。お城からの景色はとても美しく、とても戦争が起きた場所とは思えませんでした。

余談ですが、グダンスクの町にはアジアの人たちが全然いませんでした。中国人の方も少ししかおらず、イギリスのような多民族な国との違いを深く感じました。英語を話せない方も多く、お店で英語を話しても理解してもらえないことが多かったです。(英語を話しても通じなかったので、試しに日本語を使ってみましたが残念ながらダメでした(笑))

次は学校生活 part1 ということで、イギリスのシステムや学校の授業などについて書いていきます。

自分は IB (インターナショナルバカロレア) というコースで学んでいます。イギリスの生徒は大学に入る前の2年間のコースとして A レベルか IB コースというプログラムの中から選ぶのですが、IB コースを提供している学校はあまりないようで、ほとんどの学生は A レベルを選ぶそうです。ウィットギフト校でもほとんどの人が A レベルを選ぶので IB のクラスは少人数です。違いといえば、A レベルは4教科、IB コースは6教科を専攻します。試験の制度も違います。A レベルは1年に1度の計2回の本試験がありますが、IB は2年後に1回のみです。また少しずつ説明していきたいと思いますが、ここからは自分のコースのみについて話していきます。

IB の生徒は通常6教科の中で3教科ずつ higher レベルと standard レベルを選択します。Higher の教科は授業数が多く先生が2人いて、standard は先生が1人のみです。自分は数学、化学、生物を higher、心理学、日本文学、英語を standard として専攻しています。

科目について、今回は簡単に触れておきます。まず数学ですが、簡単な計算問題が多いので日本人は得意だと思います。化学は日本で学んだ内容もありますが、専門用語を英語で覚えなくてははいけませんし、記述式の問題も多いので復習は欠かせません。生物と心理学は日本でとっていなかったのが比較できませんが、覚えることが非常に多く、英語で初めて習うのでとても大変です。生物も心理学も面白いのですが、正直この2科目はもうちょっと努力しないとだめだなあと最近思っています。

心理学は日本の高校の授業ではなかなかないと思うので、どのようなことをやっているのかももう少し説明を加えます。例えば、私たち人間は周りには様々な情報を日常生活の中で処理していますが、それはしばしば私たちがすでに持っている先入観や経験したものによって理解されています。わかりやすい例を挙げてみましょう。スーパーへ買い物に行ったときのことを思い浮かべてください。「スーパーの中に入って、買いたいものを籠の中に入れ、レジでお金を払い、買い物終了!」という流れにみなさん従っていますよね。いつもと同じスーパーに行っても、違ったスーパーに行っても、私たちの頭の中にこの買い物の流れが理解されているため、迷わずに買い物ができるわけです。心理学はこのように日常生活で起こる様々なことを説明できるので、とても楽しいです。人を説得するための方法なども学びました。

日本語の授業では世界文学や日本文学を読んで解説したりします。これまで異邦人やセールスマンの死などを読みました。第1言語用の授業なので先生と1対1です。英語の授業はプレゼンテーションやスピーキングが主です。第2言語用のクラスでこちらも1対1

の授業で、自分のやりたいことを提案すれば反映していただけたりもします。

そろそろ長くなってきたのでまた次回に持ち越したいと思います。今回はクラスの雰囲気などの勉強以外のことも含めての学校生活 part2 やハーフターム（学期の途中にある短い休み）に行くフランスについて話したいと思います。クラスの写真や友達と一緒に写っている写真が見たいというコメントがあったので、次回から入れていきます。

では、またすぐにお会いしましょう！

\*\*\*\*\*

2015/05/28

みなさん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか？イギリスに来てから6か月以上が経ちますが、英語のほうはまだまだだなぁと感じることが多いです。特に友達との会話ではスラングが多く使われるので、「あれ、いまのなんて意味だろう？」と思うこともあります。

スラングというのは、インフォーマルな会話で使われる言葉のことです。面白いことに、この学校の生徒だけが使っている言葉もたくさんあるようで、友達に「この単語は他の学校の人との会話で使っても通じないよー」と言われた時は驚きましたが、日本の学校にもその学校特有のネタみたいなものがあることを考えれば、それもうなずけるかなと思います。さらに驚いたことに、イギリスにずっと住んでいる友達さえも聞いたことのないスラングが会話上に出てくることもあり、その友達に「スラング辞典を作って俺にも見せてくれ」と最近言われてしまいました（笑）。言葉の数ってほんとに無限に存在するのではないかと思います。ぜひ今度スラング辞典を作りたいですね。

さて、今回はハーフタームの間に行ったフランス旅行と学校生活 part 2 について書いていきたいと思います。

学期の途中にあるハーフタームという10日間の休みで、フランスのニースに行ってきました。ニースはフランスの南に位置しており、地中海に面しています。映画祭で有名なカンヌやニース、モナコなどの地中海沿岸地域はコートダジュールと呼ばれ、ニースはその拠点であり、夏にはリゾート地として、冬にはニースカーニバルが有名です。コートダジュールは日本語に訳すと「紺碧海岸」という意味で、紺碧色の地中海が幻想的です。リゾート地の名の通り、気温はイギリスや日本の冬に比べると寒くなく、晴れているときは春を思わせる陽気でした。風光明媚で食べ物もおいしく、本当にずっと居たくなるような心地よさでした。やはり1番目を奪われたのが地中海の美しさだったので写真を載せたいと思います。

そして、ニースの近くにモナコ公国もあるので、日帰りで行ってきました。モナコは世界で2番目に小さい国ですが、高級リゾートとして有名ですよ。港にはクルーザーがたくさん浮かんでいました。このハーフタームは疲れた体のリフレッシュとともに、再び始まる多忙な学校生活への充電ができました。（下の写真はモナコで撮ったものです）

次に学校生活 part 2 ということで、学校の1日の流れを書いてみたいと思います。

まず、朝ごはんが7時半と決まっています、学校の食堂で食べます。食事は主にコーンフレークやパン、ハッシュドポテト、ソーセージなどです。ここで重要なポイントがあります。ソーセージなどは毎日焼き加減が違うため、焼きすぎて固くなっていることがあり、選ぶ前によく観察しなければなりません（笑）もう半年以上いるので、だいぶその目は鍛えられました。

朝のホームルームは8時半から始まりますが、授業がすぐに始まることはなく、20分くらいホームルームでクラスメートと話したり、学年アセンブリーがあったりします。そして授業開始です。

日本の学校と異なる点は、授業と授業の間に休み時間がないことです。つまり、授業は時間通りに始まりません。日本だと1, 2時間目の間に休み時間が10分ありますが、この学校にはその休みがなく、授業が終わった瞬間に次の授業が始まります。授業ごとに教室を移動するため、5分くらい平気で経ってしまいます。日本では考えられませんよね。もちろん午前中に休み時間がないということはなく、2, 3時間目の間に20分間の休憩があり、午前中は5コマ、午後に2コマの45分授業です。みなさんはどちらのほうがいいですか？

放課後になると部活動がありますが、浦高ほど盛んではないと思います。自分はバスケットボールのチームに入っていますが、日本にいた時のように毎日練習があるわけではありませんし、練習時間も短いです。コーチに練習時間を長くできないかと打診してみましたが、体育館の空いている時間が限られているので難しいそうです。（自分は浦高の時はテニス部だったのですが、この学校ではテニスのシーズンが4月かららしく、次の学期から練習が始まるので、いまはバスケットをやっています）

その後、宿題の時間や夕食、次の日の準備などで1日が終わります。8時からジムや体育館が使えるので、みんなでサッカーをやったりする日もあります。そして、毎日ピアノを弾くことと早寝早起きを日課としています。寮の中ではみんな仲が良く、雰囲気はこんな感じです。

学校がある日はこのような流れで生活しています。また、老人ホームでのボランティアや、日本語クラブの手伝いなどもやっており、忙しいながらも充実した日々を送っています。最近では宿題として化学と生物の実験レポートがたくさん出るのに加え、テストが続いているのでクラスメートと悲鳴をあげながらの毎日ですが、日本にいる皆さんに負けられないように自分も頑張ろうと思います。では、また次回お会いしましょう！

\*\*\*\*\*

2015/05/28

みなさん、こんにちは。まずは、1年生のみなさん、これからの3年間の学校生活が素晴らしいものとなるように願っています。そして、2, 3年生は学年が上がり、学校を背負っていく立場になりましたね。学校の中でも外でも思う存分暴れてほしいと思います。イギリスから応援しています。

イギリスではイースター休暇のすぐ後に Mock と言われる IB（インターナショナルバカロレア）の校内模擬試験がありました。この試験はとても大事なもので、この結果をもとに学校は大学側に成績を送ります。つまり、大学に志願する際の個人の成績として Mock が使われるということです。

自分の専攻しているなかで 1 番大変だったのは心理学でした。テストはすべてエッセイ形式の問題なので、深いところまで理解していないと良いエッセイが書けません。そして心理学は覚えることが非常に多く、研究者の名前や研究の行われた年、研究の目的や手順、結果などすべて含めなければなりません。結果では、実験参加者の何%がこのような行動を示したなど、詳しい数字も知識として必要で、復習しているときは頭の中が数字だらけでした（笑）かといって覚えればそれでいいというわけではなく、設問に対する答えをうまく研究の結果と結び付けてまとめる力が必要です。

自分はその結論を書きあげるのにとても苦労しました。これはもう慣れるしかないと思い、イースター休暇前にひたすらエッセイを書き、先生に直していただいたのを覚えています。特に休暇前の 2 週間はほぼ毎日エッセイを提出していたので、多忙な業務の合間をぬって添削してくださった先生には本当に感謝しています。問題としては”Discuss the role that one cultural dimension might have on behavior”（文化的側面が持つ人間の行動への役割について論ぜよ）などがありました。

余談ですが、日本では答えがあつていればマルを、間違っていればチェックかバツ印をつけますね。それに対して、イギリスではあつているものにチェックを、間違っているところにバツ、またはマルをつけます。イギリスに来た当初はこの事実を知らずに課題で正解にマルをつけて提出したところ、先生がすべて間違っていると思ったらしく、本気で心配されたことがありました（笑）

さて、イギリスでは5月に総選挙が行われました。イギリスの総選挙は5年以内に1度で極めて大事なものらしく、国民の注目度は非常に高いです。開票の際は学年全体でかなり盛り上がり、拍手やブーイングなどが頻繁に起こりました。この時期に感じたことは、周りの人はみな政治に大きな関心があるということです。生徒の間でも自分の支持する党に関して活発な議論が繰り広げられていました。イギリスには移民が多く、移民の受け入れを支持するかがとても大きな問題です。このグローバルの時代、将来日本にも移民を受け入れるか受け入れないかという選択を迫られる時が来るかもしれませんね。

イギリスの夏休みは7月の頭から始まります。そこまでしっかりと集中して、1年をよい形で締めくくることができるように頑張っていきたいと思います。では、また次回お会いしましょう。

## 英国からの便り

竹内 淳

2015/10/08

こんにちは、竹内淳です。これから一年間、イギリスで体験したことを伝えていきます。今回第一号です。一か月はあっという間でした。全く新しい環境で今はまだ結構大変ですが、徐々に慣れてきている感触はあるので、焦らずやっっていこうと思っています。

さて、今回は病院のことを書きます。浦高にいる間に脱臼を繰り返したため渡英二か月前と一か月前に両肩の手術をし、術後のリハビリのためイギリスで通院することになりました。リハビリだけなので理学療法 (physiotherapy) にいったのですが、日本とは随分やり方が違ったのでそれを書いていこうと思います。

イギリスには公的医療機関 (NHS) とプライベートの病院があります。原則 NHS は無料、プライベートは高額で質も高い。ビザを取るときに NHS にはいるためにお金を払うので、外国人でも無料で病院に行くことはできます。僕の場合は既往症だったのでプライベートに行くことになりました。ちなみに、ロンドンには日本人医師のいる病院もかなりありますがリハビリは出来ないと断られました。

まずは、予約です。学校に一番近い病院を聞いて、日本にいるうちに連絡しました。初めはホームページから、たしか 8 月の初めに問い合わせを送ったのですが返事なし。そこで 8 月の後半に小河先生に協力していただき直接電話をかけるも、かけ直すといわれてその後連絡が来ない。(この電話は一発目自分でした時には英語が出てこなくて、質問されるかなと身構えていたらさっさと切られました。) イギリスについてからガーディアンに連絡してもらってようやく予約を取ることができました。

そしていよいよ 9 月 7 日、初診です。結構大きい病院なのですが受付とかはなく、直接理学療法のところに向かいます。しかし、静かで誰もいない。(日本だったらベッドがたくさん並んで、リハビリの担当の人もたくさんいて患者もいてがやがやしてますよね。) そしたら大柄な男性が現れ、状態を確認する紙の記入をして個室に近い壁沿いの部屋に移動。その後、いよいよ処置に移りますが、今の可動域、痛みとそのときのリハビリメニューの確認をしたら、一つリハビリのメニューを教えられ終わりでした。その他のリハビリについてはその後メールで動画付きの指示がきました。領収書は学校に送るからといわれ、その場での支払いはありませんでした。後日ネット払いです。

二週間後、二回目。タクシーで行きました。しかし、タクシーがどこに来たのかわからず雨の中しばらく探しました。これもどうやらプライベートのやつみたいで、TAXI って書いてあるライトがついてないので一般車と同じ、ドライバーはセーター。この時も動きの確認をして、翌日メールが届きました。

まあ、ざっとこんな感じです。二回目は一回目より相手の言う事が理解できるようになって英語の進歩も実感しました。

サッカー部いよいよ迫ってきた選手権、応援してます。

\*\*\*\*\*

2015/11/06

こんにちは。古河マラお疲れ様です。古河マラ出来なかったのは本当に残念です。

10月、前半は学校に行き、後半の二週間はハーフタームという休みの期間でした。これは学校によって長さが違うみたいです。ウィットギフトは私立なので長めですね。僕はロンドンから離れ、少し南にあるタンブリッジという街で二週間を過ごしました。タンブリッジはロンドンから電車で40分くらいのところにあり、ハイストリート以外はとても静かで学校がたくさんある街です。今回はハーフタームの出来事を書いていこうと思います。

まず、前号の病院に関連して。一週目ロンドンに行ったときにトラファルガースクエアでヤングドクター達のデモ行進を見ました。NHSのサービスを日曜日にも行うため、ヤングドクターの勤務時間を増やす、ということに反対しているそうです。下はそのときの写真です。

二週目、僕を泊めてくださったご家族の知り合いの大学生に頼んで、インペリアル大学、オックスフォード大学の見学に行ってきました。オックスフォードでは、街中に点在するカレッジをいくつか見て回ったのですが、建物は立派だし、静かで落ち着いている雰囲気がとてもよかったです。インペリアルにはいろんな国の人がいました。かなり大きい **Japanese society** があるみたいで、日本人同士での助け合いもあるみたいです。浦和高校の先輩の植山先輩にもお会いできて、実験室などを見せてもらいました。

また、話は変わりますが、今回のハーフタームで道路事情について驚かされました。ウィットギフトから車で十分か二十分くらい行くと両側森で、坂とかカーブが多くなります。しかも、基本的にそういう道には全く電灯がありません。普通に使われている道だと思うのですが。道路に動物が出てくるとも多いらしいし結構怖い。死体がわきに落ちていたり。そしてもう一つ驚いたのが、小さな橋とかトンネルでは車線が一つになってすれ違いができないこと。馬車の時代からあるものだからとか。それから、動物用に道路の下をくぐる道があるそうです。まだ見つけていません。あと、一回馬が道路を歩いているのも見かけました。

そういう危ないところもありますが、開けているときは、牧草地なんかが広がっていてきれいです。特に晴れた日の電車からの眺めが個人的には好きかな。

11月1日に家の窓を確認したところ卵が二つ投げつけられていました。いたずらされたみたい。

上の写真は、電子レンジでのラーメン作りに挑戦し、ラーメンを食べられることに喜んでいたところ。先輩に教えてもらいました。電子レンジでラーメンを作れる容器を使って、数分温めるだけ。ハーフタームに韓国食材店でラーメンをさらに買い足しました。

\*\*\*\*\*

2015/12/10

こんにちは。こちらは気温が下がり、曇りや小雨も多く太陽の恋しい季節になってきま

した。今回は学校生活について書いていきます。

僕は先輩方と同じく IB というコースで勉強しています。教科は数学、化学、物理が Higher レベル、経済、日本語、英語が Standard レベル、それと Theory of knowledge (略して TOK、内容は教科名そのまま) です。Higher の教科と経済は二週間で 10 単位、日本語、英語が 5 単位、TOK が週 2 単位あります。どれも少人数で一番多い数学で 10 人しかいません。英語日本語は先生と一対一です。加えて、英語のフォローをしてくれる個人授業と IELTS という英語力の試験対策の授業(放課後)を受けています。これは大学入学の時に必要になります。日本と違う点として、学校にいる間に授業がない Free period が存在します。僕は宿題をやったりしています。とまあ、教科はたくさんあるのですが今のところどれも僕にとっては英語の授業っていう性格が強いですね。

それから、IB は教科以外で CAS (Creativity, Activity, Service) というのがあって、11 月からピアノを始めました。まだほとんど弾けません、週一 30 分のレッスンに加え時間があるときは練習しています。

今は、経済が一番苦勞しています。浦高でやっていないというのも一つありますが、エッセイを書くのが大変です。最初に比べて一番成長を感じている部分でもありますが、いまでも実際の試験時間よりはかなり時間をかけてやっています。

物理は、浦高同様、実験レポートをいくつか書きました。浦高でやったのとはほぼ同じ実験もあって(自由落下、内部抵抗など)、そのまま流用できる部分もありますが、誤差の扱い方などは若干異なります。

今のところ感じている違いは、試験で文章をかなり書かされることです。経済はエッセイだし、化学は特徴とか傾向と理由を 1 パラグラフで書く問題とかがよくあります。その分計算問題は簡単なものが多いのですが。そういう点もふくめ、物理、化学でも日本と重ならない部分も多いので面白いです。

12 月に入ってから、クリスマスの雰囲気が出てきて、学校のいろんなところにクリスマスツリーがおいてあります。ロンドンに行った時もイルミネーションをあちこちで見かけました。寮や化学のクラスでシークレットサンタというプレゼント交換みたいなものもやる予定です。

ところで、最近のイギリスでの一番の話題はシリア爆撃に関することだと思いますが、日本ではどうでしょうか。朝の SHR のような時間に先生が賛成か反対か聞いたりしていました。僕の次の英語の授業でもそのことを取り上げてロールプレイングをします。

\*\*\*\*\*

2016/01/12

あけましておめでとうございます。

今年の目標は英語をうまく使えるようになることです。

Whitgift での一学期は 1 2 月の半ばに終わり、それから 1 月 4 日までのクリスマス休暇に入りました。休み中はイギリスを出てオーストラリアで過ごしたので、今回はそこでの経

験を中心に書いていきます。

以前にオーストリアの学生のホストファミリーをしたことがあったので、その時に泊めた人たちの家に泊まりにいきました。12月の間は晴れ続きで暖かく、雪がないのが期待外れだったのですが、気持ちいい天気が続きました。街からは外れたところだったので、夜は真っ暗になり星がたくさん見えました。

クリスマスは、イギリスなどと同じように一年で一番重要な日です。おそらく日本の正月に近いと思います。24日の午後からそのあと三日間は、ほとんどの店は閉まります。親戚が集まって一緒にご飯をたべたり、トランプで遊んだりしました。基本はドイツ語で話すので理解できないのですが、時々英語で訳してくれたり、英語で話したりもして楽しく過ごしました。

それから、クリスマスプレゼントのやり方が靴下とかサンタとか僕が知っていたのとは違いました。24日の午後4時くらいに、小さな子供は祖父母とか父母の片方と一緒に教会に行きます。そこではキリスト誕生の話を聞いたりクリスマスの歌を歌ったりします。そうして、子供たちが外出している間に、家に残っている親はクリスマスツリーのデコレーションをし、プレゼントをツリーの下に置いておくのだそうです。そして、帰ってきたら子供たちはツリーに駆け寄ってプレゼントを開けていくと。僕もプレゼントをもらいました。

年越しは別の友達と、彼の大学の友達と一緒に **Graz** という街に行き、花火を見ました。基本的に、年越しは花火をしたりお酒を飲みながら祝うのが一般的なようです。

ドイツ語圏の国ですが、とくに僕と同じ世代の人たちはみんな英語をかなり話せるのに驚きました。

最後に、三年生のみなさんいよいよ受験が迫ってきていますが、実力を出し切って合格をつかんでください。みんなの頑張りを励みに僕も頑張ります。

# 活動報告 3

## 麗和セミナー

本校で従来から行ってきた教育活動の多くはSGHの指定に伴ってグローバル人材の育成という軸を太くし、以前にもまして大きなうねりとして統合されてきています。

麗和セミナーは、生徒に対して広い視野、深い観点学びを動機付けることをねらいとして、本校の3万人を超える卒業生から毎年5～6人の方を招いて行われています。指定以降はSGHの強力なプログラムのひとつとして位置づけられ推進されてきました。

以下に収めたセミナーの記録をご覧になると、本校がグローバル人材育成の長い歴史と実績をもっていること、そのことを力に現在の生徒たちに対しても社会課題に対する関心と深い教養、国際的素養を与えつつ、未来のグローバルリーダー育成に積極的に取り組んでいることをご理解いただけるものと存じます。

■SGH Programme■麗和セミナー■2014-2015■

演題 海外へ飛び出した声楽家

講演者 富田千種（高 19 回）バリトン歌手

講演日 2014/5/26

講演内容

5月26日放課後、今年度一回目の麗和セミナーが行われた。講師はウィーン在住のバリトン歌手富田千種氏。70名近くの生徒が集まった。

カンツォーネの「わすれな草」の独唱から始まった。バリトン歌手の迫力ある歌声に、生徒達は圧倒されて聞き入っていた。

最初に、氏の浦高時代をお話しいただいた。高校時代音楽家になるつもりはなかったと言う。芸術選択も工芸で、人間国宝の増田先生に教わりたかったとのこと。このころギターを買った。フォークソングを歌っていたそうだ。ピーターポール&マリーが好きで、良く聞いていた。新宿の厚生年金会館での彼らのコンサートに行き、生の声の迫力に圧倒された氏は、自分もこんな声を出してみたいと思ったそうだ。そのまま氏はクラシックの発声の先生の所へ行き、学び始める。そこで練習を重ねる内に「音楽の道に行きたい」という思いが湧き、音楽大学を目指し始めた。高三の受験期の頃だったという。

ただ音大の受験ではピアノの課題曲があった。いちばん易しいものでもベートーベンのソナタ。まったくピアノを習っていなかった氏は、高三から二年計画でピアノを習い始めたそうだ。

音大で学んだ氏は、優秀な成績で卒業。皇居での御前演奏に選ばれたそうだ。卒業後、音楽の教員になることが決まっていたが、母の許可を得て、一年間のウィーン留学をさせてもらうことになった。ドイツリートに興味を持っていた氏は大学でドイツ語を勉強していたため、留学にはこのことが役に立ったという。海外で学ぶには語学が何より大切だ。皆さんも少なくとも英語はしっかりやっておくようにと生徒達に語った。

五月にドイツへ渡り、六月、ウィーン国立音楽大学の試験に思いがけず合格。このことを母に知らせ、しばらく帰れなくなる旨を伝えると、勘当されてしまう。生活費も送ってもらえなくなり、アルバイトをしながら音楽の勉強を続けていたそうだ。

大学卒業後、氏は歌手として劇場で働くことになった。ドイツには120の劇場がある。劇場で働く音楽家は公務員であり、待遇がよい。芸術に関する予算を十分に確保している。ヨーロッパには自分たちの伝統を守ろうという意識があるからだという。音大の使命は劇場で働くプロを養成することであり、そこは日本と異なるところであるそうだ。

後半は、理想の発声法についてお話しいただいた。有名な歌手のマネをすると必ず失敗するという。声の出し方は十人十色であり、自分の声は世界で唯一の声である。自分に与えられた声の音域、音量、響きを100%出す方法を追求してきたそうだ。

実際に生徒に腹式呼吸の仕方、息の吐き方など指導をした。グリー部の生徒が多く参加

していたので、何人かの生徒が氏の前で歌声を披露し、直接指導をしてもらった。

グリー部の生徒達に向かって氏は、自分の声にあった響きを大切にしたいと述べた。またコンクールのために歌うのではないとも述べた。コンクールは審査員の趣味で左右されるものだ。審査員に合わせるのではなく、自分たちが目指したいものを目指すのがよいと語った。

日本の若い人たちには、日本人の気候風土にあった音楽を作りたいと訴えた。モーツァルトやベートーベンのアリアは、彼らのまわりにいた歌手に合わせて作曲したものだ。だから日本人に100%合致するものではない。ヨーロッパでは音楽の伝統は下から上がってきた。だが日本では明治以降取り込まれたものである。だからといって、ヨーロッパ人のように歌わなければならないと考えることはない。日本には日本の良さがある。彼らの真似をして日本の良さを壊したくはないと述べた。

最後に氏は、自身の住むウィーンの町並みを紹介した。ハプスブルク家のシェーンブルン宮殿。そこにある劇場で氏は初めて歌ったのだそうだ。ウィーン国立歌劇場。オーディションを受けて歌劇場の研究生になり、ここでカラヤンやバーンスタインとも一緒に仕事をしたとのこと。ぜひ皆さんもウィーンに遊びに来て欲しいと生徒達に語った。

質疑応答の後、全員で校歌を歌った。海外へ飛び出すことの魅力、歌うことの素晴らしさを感じた二時間だった。

\*\*\*\*\*

## 演題 脳外科と脳科学

講演者 上口裕之（高 35 回）理化学研究所脳科学総合研究センター シニア・チームリーダー

講演日 2014/6/25

### 講演内容

6月25日放課後、今年度二回目の麗和セミナーが行われた。講師は理化学研究所の脳科学総合研究センター、シニア・チームリーダーの上口裕之氏。50名を超える生徒が集まった。

最初に脳外科の話から伺った。クモ膜下出血は脳動脈瘤の破裂で起きる。治療としては破裂した血管をクリップでとめるのだが、脳を傷つけないように脳のすきまから入っていかなければならない。続いて脳腫瘍について説明された。髄膜腫は手術で取り除くことができる。しかし神経膠腫は治すことができない。髄膜腫が髄膜からできたものである一方、神経膠腫は脳の中からできたものだからだ。このように我々は大脳の大切な部分をさわることができない。脳外科とは脳の血管や膜への外科的治療である。脳の重要な部分や脳の再建は不可能である。

脳神経外科の魅力は、人間の本質である脳が対象であることだ。また多様な対象疾患があり、手術の特殊性もある。中枢神経系の機能再建は困難であるが、これは将来の可能性

につながるものであり魅力ある分野だ。

神経の再建は幹細胞（E S細胞、i P S細胞）で可能と思うかもしれない。しかし、細胞をいくら補充しても脳には通用しない。神経回路が切れてしまうと、細胞の補充では再生できないのだ。神経回路が切れてしまっても軸索は伸びようとするが、負傷した部位を乗り越えることができない。なぜか。このメカニズムを知るためには、軸索の先端にある成長円錐がどのようなメカニズムで前進するのかを調べなければならない。

成長円錐はちょうどキャタピラが回るように進んでいく。軸索が進むときはちょうどアレーバが動くように伸びていく。

ディストロフィック・エンドボールという状態がある。これは神経回路がダメージを受けて切断され、そこから軸索が伸びようとしてもまっすぐ伸びずボール状に先端が丸まってしまうものだ。これはなぜ起きるのか。神経回路の負傷した部位にグリア性瘢痕が生じ、コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの濃度勾配を成長円錐が越えられなくなるからだ。キャタピラのように動く成長円錐のいわばクラッチが固定されてしまうため、成長円錐が動けなくなってしまうのだ。このクラッチが固定された状態にさまざまな薬剤を投入して実験することで、濃度勾配を越えられるようになった。これはその薬剤がクラッチ分子に作用して、クラッチ分子であるパキシリンをリン酸化したからだ。リン酸化型パキシリンによって軸索の伸長が可能になる。

ただ傷ついたところを乗り越えても、正しいところへ誘導しないといけない。軸索の伸長誘導はNGF（神経成長因子）の濃度勾配によって起こる。NGFの濃度勾配によって成長円錐の動きが曲がるということは、成長円錐内の状態が非対称化されているということだ。このとき成長円錐内ではNGFの情報を伝えるIP3が働き、カルシウムイオンの状態が非対称になるということが起こっている。成長円錐内でのIP3の作用を偏在化させることで成長円錐のステアリングが可能になる。

次に「基礎医学」と「臨床医学」についてお話しいただいた。基礎医学は「未来のための創造」であり、臨床医学は「現在の奉仕活動」である。みなさんがどの道を選ぶにせよ、自分の興味がある道に進むのが大切だ。

基礎医学には資質として「興味」「独創性」「論理性」が必要だ。この中で独創性が一番難しい。独創性を生むには「ユニークな発想」「技術開発」「異分野の融合」がある。技術開発とはたとえばこれまでに検出不可能だった物質を感知する装置を発明することだ。この装置を使った研究は容易に独創的なものになり得る。異分野の融合とは、様々な学問研究の境界領域で相互の知識を融合することであり、このことで新しい発見が可能になるという。ユニークな発想が一番難しい。世界中が興味を持っている分野で、これまでの常識を覆して新たな発見をすることである。

昨今、臨床医に進む人が多い。かつては100人中5～10人は基礎医学に進んでいた。今は大学卒業後、臨床研修医をやらなければならないため、そのままその道に進んでしまい、基礎医学を研究する人は少なくなっている。現在の臨床医学を支えるのが基礎医学で

ある。今はまだよいが、50年後の臨床医学を支えられないのではないか。臨床医学を豊かなものにするために基礎医学は大切な分野である。

最後に質疑応答が行われた。研究者としての原動力を問われた氏は、目標は未知への挑戦であると答えた。今まで誰にも知られなかったことを自分の手で明らかにしたい。新しい発見と発見の結びつきが偶発的に難病を治すことにつながると述べた。

\*\*\*\*\*

## 演題 心の鐘を聞く

講演者 村井 満 (高30回) Jリーグチェアマン

講演日 2014/9/29

### 講演内容

9月29日放課後、今年度三回目の麗和セミナーが行われた。講師はJリーグチェアマンの村井満氏。60名を超える生徒が集まった。

### 恋の浦高

川越生まれで中学ではバスケットボールをしていたが『赤き血のイレブン』に影響され浦和でサッカーをやりたいと思った。リフティングは10回も出来ないがキーパーで入部。2年でレギュラーになったが、ルールもよくわからずプレーしたためペナルティエリア外でボールをさわると反則を取られたこともあった。

その頃、北浦和駅西口に浦和明の星高のバス停があり、登校する女子高生を眺めているうちに運命の人に出会う。1年間西口に通って見つめていたのが今の奥さん。当時の成績は4405人中403位であった。

### 冒険の早稲田

国立大に入ることをイメージしていたため早大になじめなかった。文化大革命が終わった直後であり、NHK『シルクロード』にも影響されて中国六千キロを横断することにし、早大OBのいる会社をめぐってはプレゼンをして、最終的に数百万円ほど集めた。中国で出迎えてくれた北京大の学生たちの日本語力をはじめとする真のエリートの実力に圧倒された。別れ際の挨拶は「人民大会堂で会いましょう」。中国行きの体験では「人のやらないことは金になるな」と気づき「初めてのことをやってやろう」と決意。法学部であったが六法を買わずに卒業。

### 修羅場のリクルート

入社後しばらくしてリクルート事件が起こる。会社のイメージは悪化し、折からのバブル崩壊で経営の危機を迎える中、人事責任者として会社の建て直しにあたる。「信用ゼロ・財務最悪・本業（雑誌媒体）消滅」という状況でつぶれなかったのは人材に理由がある。インターネットが流行語になった95年、十年後には印刷媒体はなくなると聞き、インターネットを標榜している人や会社をみつけると、外国であってもすぐに訪ねて友達になり、

社員を送り込んで研修させた。大きな志、思いがあって、本気で仲間を集めたら会社はつぶれない。「言いたいことがあるか」それが大事。そういう学生を採用した。

### 勝負のJリーグ

Jリーガーが引退したあとの再雇用に関わっていた縁で、2008年からJリーグの社外理事に。その後当時の大東チェアマンから直接後任を打診される。ドキドキしてきたため即決。これまでの人生経験で、本気の人間は自分に手の届く重大な決断の瞬間にはドキドキする。ドキドキしたときはより緊張するほうを選ぶとよい。そうすれば人間はとてつもなく成長すると学んできた。

チェアマンになった直後、浦和レッズの「JAPANESE ONLY」事件発生。3月9日に事件を知り、4日後には無観客試合の制裁を発表。即断できたのはJリーグの理念があったから。Jリーグブランドの土台は、3つのフェアプレー（ピッチ・ソーシャル・ファイナンシャル）とオープンネス（老若男女・障害者・外国人…何人も受け入れる）。

現在、各チーム監督との3つの約束、デジタルトラッキング、サッカー専用スタジアムの整備、育成システムの構築、アジア戦略など次々と取組みを進めている。

サッカー専用スタジアムは大それた夢のようだが、相手が市長でも知事でも積極的に会いに行き、街の活性化に向けて話し合っている。初めからだめだと決めず行動すること。

選手の育成ではサッカー技術だけでなくコミュニケーション技術が大切。仲間を観察してコミュニケーションし、意思統一して戦う。そのためにはピッチの外の日常生活で学ぶことも多い。

世界のサッカーを見渡すとアジアのお金を欧州に持っていかれている感が強い。Jリーグや日本代表の指揮をとるのに必要なS級指導者は国内に400人。彼らを活かしアジアで若手選手を育成してJリーグデビューさせたい。人やお金がアジアで回るようになるのが夢。

講義後には質疑応答が行われた。

\*\*\*\*\*

### 演題 需要の高い人材の条件

講演者 中里 実（高26回）東京大学大学院教授 政府税制調査会会長

講演日 2014/10/27

### 講演内容

10月27日放課後、今年度四回目の麗和セミナーが行われた。講師は政府税制調査会会長の中里実氏。80名を超える生徒が集まった。

学問の歴史からお話いただいた。中世ヨーロッパの大学において「法学」「医学」「神学」は専門職業人を養成するところだったそうだ。現在でも法学や医学は実業的の学問であり、ここで専門的知識を身につけることで専門家として活躍することになる。中世において「哲学」は教師を養成するところであった。哲学を学ぶと貴族の家庭教師になったとい

う。現在、哲学を学んだ人は、一番偉くなったとしても大学教授である。開業して世の中で食べていくことが難しい学問だ。物理や数学も同様に、真理を探究することに楽しみを見出すのであればよいが、仕事の的には厳しいと言える。

職業を考えると大切なのは、①生活できること、②自分の好きなこと、③社会に貢献できること、という観点である。これら三つを備えた仕事というのはなかなかない。だが若い時からこまかく丁寧に準備していると見つけることができるのだ。

数学者になりたい、と自分の好みに従うのはよいが、それで生活できるのか、社会の役に立てるのかという視点を持つことは必要だ。というのも理科系統のオーバードクターは現在悲惨な状況にある。博士号をとっても職に就けない。文学部系統では40才になっても職に就けないことが多い。優秀な人でも生活に追われて心が折れてしまうことになる。

世の中で働くことの面白さを頭に入れておくべきだ。三菱地所の会長、木村さんは浦高OBの中でも大変出世した人だ。三菱地所は大手町の土地をみんな持っている。仕事として大きな面白いことができる。自分の能力を活かして刺激のある生き方が出来る。サラリーマンの道も、役人の道もおもしろい。

豊かさとは、選択肢、バリエーションがあること。文科系の学問を学んでおくと、いろいろな仕事を選ぶことに特長がある。法律を学んでおくと、様々なバリエーションに対応できてよい。何も東大だけを目指す必要はない。一橋、慶応、早稲田、中央…それぞれに良いところ、良い学部がある。自分の成績がいい人は、いい人なりの道があるし、そうでもない人でも探していけば良い選択肢が見つかる。社会で活躍するのに、良い大学、良い学部というものがある。しっかり選んで、うまく生きて欲しい。

留学の意義についてもお話しいただいた。英語ももちろん上達したが、それはあくまで道具に過ぎない。留学してももの見方が多面的になったと氏は話した。留学する前は、高校の中での順位、どこの大学に行こうか…そればかりだった。それだけではない様々な考え方を得ることができた。

ハーバードロースクールで学び、1年経ってUCLAにスカウトされた。30代前半で客員教授を務めた。度胸がつき、良い経験となった。

皆さんも留学はいつでもよいからした方がよい。話せる、聞けるよりも、読めて書けることが重要だ。留学してから大切になる。膨大な量のテキストを読みこなすことが求められるからだ。

最後に社会における需要の高い人材の条件について語っていただいた。まず幅広い知識を持っていることが大切だ。氏は浦高で理科系の学問を教えられて大いに役立ったという。大学で経済学を学ぶときに、物理や数学の知識が有効だったのだそうだ。だから無駄な勉強に思えても勉強しておくことが大事だ。人間の教養の幅を広げることが出来る。

体力があることも大事。今でも古河まで走った記憶がある。苦しいとき自分を支えるのは昔の記憶だ。勝海舟が幕末命を狙われている厳しい時期、乗り越えられたのは父に無条件に愛された記憶があったからだという。それが自分には生きる価値があるという思いを

与える。古河まで走った記憶、達成感が自分を支えてくれている。

いろんなことを幅広くやって、自分のものにしていく。そういう3年間を浦高で過ごした。そういう母校に誇りを持っているという。勉強ができることへの誇りではない。なかには受験に必要なことだけをやる人も世の中にいるだろうが、効率重視ではダメだ。いずれそういう人は自滅する。

質疑応答では、生徒から進路についての質問が相次いだ。生徒から人脈を広げるコツを問われた氏は、感じのいい人とつきあうこと、と答えた。いいやつで信頼できるやつは当然世の中でも出世する。そういう人と仲良くするのがコツだと答えた。会の終了後も質問者の列は一時間にわたって途絶えなかった。

\*\*\*\*\*

#### 演題 宇宙の暗黒物質を追い求めて

講演者 風間慎吾（高56回）高エネルギー加速器研究機構博士研究員

講演日 2014/11/26

#### 講演内容

11月26日放課後、今年度五回目の麗和セミナーが行われた。講師は高エネルギー加速器研究機構博士研究員の風間慎吾氏。60名を超える生徒が集まった。

宇宙は何でできているのだろうか。水分子を細かくすると酸素と水素。さらに細かくすると原子核と電子が見えてくる。原子核は陽子と中性子、それらはさらにクォークで構成される。このようにして物質は多くの素粒子からなる。

これらをつなげるものも必要だ。“ちから”（相互作用）も素粒子のやりとりで説明される。例えば光子は電氣的・磁氣的な力を伝える粒子である。グルーオンはクォークに働く「強い力」で陽子・中性子を作る接着剤の役割をする。ウィークボソンは原子核の反応に関わる「弱い力」で、粒子の種類を変えるものだ。グラヴィトン（重力子）は重力を伝える粒子であるが、まだ発見されていない。

このように物質を構成している素粒子と、その間に働く力を媒介する素粒子からなるのが素粒子物理学における「標準理論」である。2012年のノーベル物理学賞で話題になったヒッグス粒子発見のときは、自分も研究者として、見つけた粒子が本物なのか、ありとあらゆる可能性を不眠不休で確認した。

宇宙は暗黒エネルギー72%、暗黒物質23%、物質5%からできている。「暗黒」が意味するのは「光では捉えられない」ということだ。人間はまだ宇宙の全内容物の5%しか知らないのである。

光では見えないものがなぜわかるのか。それは間接証拠による。例えば「銀河団」。銀河団をつなぎ止めるのに必要な質量が見えている質量だけでは説明できないので、見えない質量があるはずだと推測される。「銀河の回転速度」も同様。理論からの予測と観測が大きく異なっている点が暗黒物質の存在を示している。また暗黒物質がないと、宇宙の大規模

構造も説明できない。暗黒物質の重力で引きつけられることで星々が生まれ、銀河ができ、我々人間も生まれたのだと考えられるのだ。

この間接的にわかっているだけの暗黒物質。これを直接的に明らかにしたいのが自分の目標である。

どうやって暗黒物質を探すのか。一つは暗黒物質と物質とのきわめて弱い相互作用を測定する方法。宇宙線の影響を避けるために地中深くに作った「カミオカンデ」で測定したり、あるいは大気で減ってしまう信号を得るために宇宙で観測したりしている。もう一つの方法は、人類の手で暗黒物質を作ってしまうことだ。加速器ならば作れる（可能性がある）。加速器とは粒子を加速、衝突させて、こわれ方を調べる機械である。世界最大の加速器LHCは一周27キロメートルある。これは山手線の大きさに匹敵する。陽子を光速の99.999997%まで加速させることができる。検出器は22m×44m、読み出しチャンネルは一億。巨大な機械を間違いなく動かすのが大変である。

LHCで陽子同士をぶつけると、暗黒物質ができる。これまでLHCで収集されたデータは二千兆回の衝突事象に相当する。この中から暗黒物質起源の情報を探さなければならぬ。ビッグデータ解析の先駆けにあたる仕事であった。

エネルギー保存則に反する、アンバランスな事象が出現するときがある。これは検出器と相互作用の弱い暗黒物質ができた証拠である。このような事象をたくさんあるデータの中から解析して探していく。

LHCで実験が始まった当初はすぐに暗黒物質の正体は明らかになると考えられていた。しかし未だにその存在のしっぼすらつかまえていない。もしかしたら暗黒物質はこれまで誰も考えもしなかったようなものなのかもしれない。だから誰にでも発見のチャンスがある。偉い教授も、新米の研究者も、学生も皆横一線の状態だ。そこが面白いところ。どうやったら発見できるかいつも考えている。素粒子物理学は何の役に立つのか良く問われる。それは冒険家がそこに山があるから登ってみたいのと同じだ。純粋な興味が研究のモチベーションである。

浦高時代、自分はパツとしない学生だったと思う。浪人してから出会ったある先生のお陰で物理に興味を持つようになった。物理学の基礎中の基礎は微分積分である。ニュートンの運動方程式と運動量保存則、力学的エネルギー保存則は数学的に等価であるが、「原理」と「数学的に自明な事実」を切り分けて考えられるようになって、物理という学問が非常にすっきりと見えるようになった。自分の物理への熱意の原点はここにある。

研究者になるには学部四年間で必死に勉強することが大事だ。一緒に勉強してくれる友達を見つけることが学部時代の生活のカギを握っている。大学院では自分がやりたい研究の第一線で活躍している人の研究室へ行くべき。東大はやはり素晴らしいところだ。学部時代は真剣に勉強する友達を見つけるのに苦労したが、東大ではそういう仲間がたくさんいた。努力をしている人の数は圧倒的な差がある。

研究は大変だが、才能というよりも忍耐・努力・根性が大切だ。理論家になるには並外

れた才能が必要かもしれないが、実験家はそうではないと思う。また海外の学会や物理学会で発表したりと、コミュニケーション能力も必要である。

世界の仕組みを根本的に知りたいという思いがある。理論家が考えもしなかった現象を見つけたい。物理学者として暗黒物質を真剣に探索している。皆さんも自分が興味を持つものを見つけ出して欲しい。学校の勉強だけでなく、自分がやりたいところに飛び込んで、自分が人生で何をしたいのか考えて欲しい。

# 取組の概要

以下では本校のSGHについて説明するために作成した資料を収めました。「浦和高校のSGHプログラム」はウェブページの冒頭に掲載した記事で、本校のプログラムについて短くまとめたものです。続く「スーパーグローバルハイスクール 取組と展望」は現時点までの取組の概要と今後の課題についてまとめています。その後、5ページにわたって国際交流に関する内容をまとめた資料を掲げました。

## 浦和高校の SGH プログラム

### 研究開発構想名

新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバル・リーダーの育成

### 研究開発構想へのコメント

グローバル人材の根幹はタフで優しい人間である。グローバル化は苛烈な競争に巻き込まれる世界であり、そこで生き抜く人間は知徳体のすべてにおいてタフでなければならぬ。一方、グローバル化社会の行き着く先は格差社会であってはならず、人と人の間に入り込み、人と人を繋ぐことができる共感力をもった優しい人間であることが求められる。

「少なくとも三兎を追え」「無理難題に挑戦しろ」と鼓舞されつつ、仲間と励ましあいながら学び、限界を超えて成長する浦和高校の生徒こそ、タフで優しいグローバル・リーダーの第一候補である。

これからの日本および世界の将来を決定付ける生命線が、新しい価値の創造である。スティーブ・ジョブズが「Think different」という言葉に託したのは、並列された選択肢を取り替えることでなく、より高次の、未知の価値に目を向けろということであったろう。

高速度で変化し続ける世界では、常に新しい価値を持つ商品やビジネスモデルを創造し続けるものだけが生き残る。しかしここでもグローバル化社会の終着駅を格差の拡大としないために、従来の自由と平等という理念を超えた、新しい社会の統合原理をもたらす価値概念の創出が求められる。

### 浦和高校の SGH : 2つの流れ

#### 1 国際交流

浦和高校は英国の Whitgift School と 20 年にわたって姉妹校交流を続けていることを筆頭に国際交流の豊かな実績があります。SGH のプログラムを通じて、より多くの生徒を海外に派遣する、課題研究と連動させることで海外での学習をより充実させる、など本校のグローバル・リーダーの育成をさらに発展させます。

#### 2 アドグル

浦和高校では総合的な学習の時間に先駆けて、アドバイザーグループと呼ばれるセミナーにおける探求学習を行い、論文の執筆に取り組みできました。SGH のプログラムを通じて、人類の共存・持続可能な地球環境・普遍的な価値の探求を 3 本の軸に、国際的に活躍できるグローバル・リーダーをこれまで以上に輩出するための課題研究に取り組みます。

平成28年2月16日

## スーパーグローバルハイスクール 取組と展望

埼玉県立浦和高等学校  
SGH研究開発委員会

### 1 プログラムの柱

- 課題研究 (Advisory Groups=アドグル)
- 国際交流

本校のSGHは、2年次の総合的な学習の時間に実施している課題研究 (SGHゼミ) と、姉妹校との交換留学を中心とする国際交流を2つの柱として開始し、これらを融合・発展させる形で進行している。いずれも本校が他にさきがけて導入し、実績を上げてきた取組みである。課題研究はアドバイザー・グループの名称で平成12年に始まり本年度が16年目、Whitgift校との交流は平成7年に始まり本年度が21年目となる。

### 2 課題研究の展開と深化

- 2年次総合的な学習の時間での実施
- 今年度 前期 37講座 後期 35講座

#### ア 課題研究内容

(a) 人類の共存 (b) 持続可能な地球環境 (c) 普遍的価値の探求 に係る国際的な社会課題を「地球温暖化」「自然・代替エネルギー」「これからの都市設計」「エネルギー安全保障」「外交安全保障」「南北問題」「国際的な平和の祭典」「古典の中の普遍的価値と未来社会の構築」「民主主義と正義」などの具体的なテーマをとおして研究する。  
－【構想調書の概要】より

#### イ 課題研究の展開

- 従来、担当教員の得意分野や興味関心を中心に講座テーマを決定していた。SGHにともない構想調書の内容をふまえた講座テーマの設定へ移行していく計画を推進中である。
- 平成26年度は正式採択が6月であったために、十分にSGHの主旨を反映・体現

できなかった。平成27年度から、職員の理解を深めながら、漸進的に21世紀スキル、コンピテンシー、アクティブラーニングなど、現在の動向をふまえた内容の講座を増やしつつある。平成27年度の目標は5～10講座であったところ、総合報告会（平成28年3月13日）に6つの講座が報告したとおり、目標どおり実施された。平成28年度は10～15講座を念頭に取り組んでいる。

- これまでの実績の上にSGHの主旨を体現した講座を築くため、プロジェクト型、コア型という2つの類型を例示し、新しい方向性をふまえた講座設定や指導をするよう校内での職員研修を進めている。
- 各教員の専門性や指導上の特性を最大限尊重することで課題研究の質を高めることができるという考えから、SGH委員会としては方向性を提示することに注力し、講座の具体的内容については職員の高い資質に裏付けられた創意にまかせている。

## ウ 課題研究の深化

計画に従ってSGHの主旨を体現する講座として積極的なテーマ設定や活動を計画・実行している講座としては以下があげられる。

### ➤ プロジェクト型

- ◇ 武藤 和孝：留学生とともに学ぶ弓道教室
- ◇ 木戸 俊吾：「IT依存」を考える
- ◇ 長澤 昇一：サイバー防犯ボランティア
- ◇ 野崎・原田：インタラクティブ・コミュニケーション
- ◇ 飯田 具子：障害者スポーツ交流
- ◇ 山中 明：「ノーマライゼーション」とは

### ➤ コア型

- ◇ 長瀬・岡田：徹底研究！日本の電力問題

以下の講座はSGHの主旨に沿った展開の工夫ができる講座である。

- ◇ 後08 碧木 浩二：TIME誌を読む
- ◇ 後07 瀬戸山 郁：多文化社会で求められる生きる力とは？
- ◇ 後13 蛭沼浩一郎：限界集落について
- ◇ 後16 小林 裕和：『PHYSICS FOR SENIOR STUDENTS』を読む
- ◇ 後30 佐々木肖子：囲碁の世界
- ◇ 後02 大浦 貴裕：リアルな物語
- ◇ 後05 奈良 繁範：青春18切符を使った鉄道の旅

## エ 外部との連携等

- 平成26年度

- 山本一夫（東京大学教授）：医療倫理
- 中村謙太郎（東京大学准教授）：宇宙人はいるか
- 平成27年度《前期》
  - 田阪真之介（NPO グローカルアカデミー）：インターネット交流
  - Ishraq Jaigirdar（東京大学 PEAK）：インターネット交流
  - 三輪開人（NPO e-Education）：インターネット交流
  - Bipasha Kaur Chatterjee ほか（東京大学 PEAK）：弓道教室
- 平成27年度《後期》
  - Patrick Newell（Tokyo International School）：インタラクティブ
  - 水間俊文（公益財団法人日本棋院プロ棋士七段）：囲碁の世界
  - 坂西欣也（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）：電力問題
  - 木村 浩（日本原子力文化財団・元東京大学准教授）：電力問題
  - 橘川武郎（東京理科大学大学院教授）：電力問題
  - 大塚真史（東京都北区弓道連盟）：留学生と弓道
  - 小出真一郎（埼玉県聴覚障害者協会）：ノーマライゼーションを考える
- ※ 構想調書でSGHの活動に位置づけている麗和セミナー（SGHセミナー）などを含めると、連携先の東京大学をふくめ、さらに多くの外部連携があるが、ここに掲げたのはSGHゼミ（アドグル）に招聘した講師である。

#### オ 課題研究に関する検討事項

- 研究構想の「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成」に基づき、課題研究のテーマ設定について、想調書の内容を反映しSGHの主旨を体現するよう、学校一丸として取り組む体制を一層強化する必要がある。
- 生徒による課題研究論文の質について、充実した指導の必要性を感じさせる要素がある。1年次における総合学習との連携をより深めるなどの工夫が求められる。具体的な指導内容の項目として以下があげられる。
  - 執筆の基礎となる多読体験の保証
  - 文章力を向上させるための執筆機会の保証
  - 添削指導に当たる人員・時間の確保のための工夫

#### カ 平成27年度成果報告

- 平成27年度 埼玉県立浦和高等学校SGH総合報告会
  - 日 時：平成28年2月13日（土）13：00－15：00
  - 場 所：東京大学 福武ラーニングシアター
  - 内 容：本校の取組みについて／生徒の課題研究発表
  - ※ 発表会の様子・関連資料等をウェブページにアップロード予定

## キ 来年度への展望

- プロジェクト型
  - ◇ サイエンスコミュニケーターへの道
  - ◇ アスペン古典セミナーin 浦高

## 3 国際交流の展開と深化

### ア 姉妹校連携事業の拡充

- (1) 国際交流アドバイザー（新規）
- (2) Whitgift サマープログラム（新規）
- (3) 短期研修派遣課題研究報告（新規）
- (4) 長期留学派遣報告（継続による成果）：ケンブリッジ大学合格

### イ 留学生の受け入れ体制整備

- (1) AFSプログラム（ウズベキスタン）
- (2) ロータリープログラム（デンマーク）
- (3) 姉妹校交流（イギリス）

### ウ 短期留学派遣プログラムの更なる充実

- (1) 平成27年度（28年春）
  - ※ 第2回SGH派遣…イギリス、スイス
- (2) 平成28年度、29年度分についても計画を開始
  - ※ 29年度（30年春）は、エネルギー関係で検討する。

### エ サマープログラムの拡充

- (1) ミシガン大学プログラム
  - 今後も年数名を派遣の予定
- (2) シンガポールプログラム（新規）
  - ※ 10名程度派遣したい。現地コーディネーターと接触を開始。

### オ 高大連携ボーイングプログラムの継続

### カ グローバルリーダー育成のためのワークショップの企画

### キ 英語による諸活動との関連

- ※ 英語ディベートの拡大・充実。授業への導入を通じた一般生徒への普及。

## 4 S G Hに係るそのほかの内容

### ア 校内推進体制

推進母体はS G H研究開発委員会で、教頭2名、主幹教諭2名、教諭9名、事務職員1名から構成される。委員の選出母体は、国際交流部（2名）、進路指導部（1名）、情報教育部（1名）、広報部（1名）総合学習担当（2名）、教務主任、教務部（2名）S G H加配（1名）である。

### イ 1年次の論文指導

2年次のS G Hセミナーと連動するよう計画されている。各ホーム・ルームを指導の単位とし、基本的に学級担任が指導にあたる。

### ウ 本物を知る体験

- 第1回S G H講演会 「グローバル時代に生きる」 加瀬 豊氏：双日会長

- 麗和セミナー（S G Hセミナー）

《平成26年度》

「海外へ飛び出した声楽家」富田千種氏：バリトン歌手（ウィーン在住）

「脳外科と脳科学」上口裕之氏：理化学研究所

「心の鐘を聞く」村井満氏：Jリーグチェアマン

「需要の高い人材の条件」中里 実氏：東大教授・政府税調会長

「宇宙の暗黒物質を追い求めて」風間慎吾氏：高エネルギー加速器研究機構

《平成27年度》

「行政官としてできること」末松広行氏：農林水産省関東農政局長

「エリートについて考える」佐藤 優氏：作家・元外務省分析官

「法曹への道」野辺 博氏：弁護士・慶應義塾大学大学院教授

「ノーベル化学賞受賞候補者と報道されるまでの道程」柴崎正勝氏：微生物化学研究センター

「会社員としてゲームを作るということ」阿部悟郎氏：任天堂

- 大学聴講

《平成26年度》46名

韓国文化概説B／現代社会論／文化人類学概説／ドイツ語IA／スラブ語圏の民族と文化A／国際関係論入門／哲学基礎A ほか

《平成27年度》31名

日本文学・文化概説／ドイツ語会話IA／欧米文学・文化概説／スラブ語圏の民族と文化A／開発と援助の潮流／ラテン語I／社会環境設計論入門 ほか

※ 課題研究を超えて、高大連携の大きな意義を感じられる取組みである。

## 5 S G Hに係る全体的な検討事項

### ア 広報活動の充実

- Webpage の整備
  - Can do list やループリックなど評価に関わることについて、S G H研究開発委員会内に担当を設けて検討中である。
  - 事務職員の採用により平成27年度中に、多くの資料を日本語と英語の2ヶ国語で発信するめどがついた。総合報告会の動画配信とあわせて充実したコンテンツとなる予定である。
- 今年度中に整備する予定の内容
  - 各講座のシラバス、全体報告会の動画、優秀論文等
- Webpage 整備推進担当において積極的な広報活動方策を検討中

### イ 教育課程との関連について

- 浦和高校生徒の生活は学習・部活・学校行事その他、すべてに全力で取り組むために非常に充実しており課題研究の内容を際限なく拡大・充実することは困難である。
- 3年次において総合選択2単位（特に情報・英語）をS G Hと一体化して運用するよう検討する。英語について、論文の磨き上げやディベートの導入を検討している。
- 3年次生が本人の希望に基づいて、次の代の2次年生に情報・人脈・スキルを継承しつつ活動に加わることも可能性として確保する。
- 総合学習を柱としながらも、教科との連携・連動をより有機的にして深めていく必要がある。

### ウ 評価について

- 根本的な評価方法の検討
- 生徒へのフィードバックへの仕組み
  - ループリック・他校の取組み視察
- 評価問題検討推進担当において検討中

## 平成26年度～平成27年度 SGH報告と展望（国際交流関係）

### 1 姉妹校交流の発展

#### (1) 校長訪問の成果

- ・Whitgift 校との信頼関係の強化
- ・London 大、Cambridge 大、との連携の可能性

#### (2) 指導助手（26年度）、国際交流アドバイザー（27年度）の招致

- ・人選も含めて Whitgift 校の助言を得ている。  
27年度4月～7月 トム・キルフォード氏

#### (3) 長期派遣（実質2年間。浦和高校は1年間経過後に卒業する）

|           |    |               |
|-----------|----|---------------|
| 25年度～27年度 | 1名 | ケンブリッジ大の面接を通過 |
| 26年度～28年度 | 1名 |               |
| 27年度～29年度 | 1名 |               |

#### (4) 短期派遣

|                                |          |     |
|--------------------------------|----------|-----|
| 26年度(27年春)                     | 第1回SGH派遣 | 17名 |
| テーマ《英国と日本の鉄道の比較と未来の公共交通機関への提案》 |          |     |
| ①日立の高速鉄道輸出に見る日本のものづくりの底力       |          |     |
| ②イギリスの鉄道輸出について                 |          |     |
| ③イギリスの鉄道の電化による電車交通網の発展         |          |     |

|                                 |          |          |
|---------------------------------|----------|----------|
| 27年度(28年春)                      | 第2回SGH派遣 | 20名程度の予定 |
| テーマを設定して研究《WHOなど国際公務員としての日本の貢献》 |          |          |
| 11月に本校OB小野崎さんと打合せ済み             |          |          |

#### (5) サマーセミナー

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 27年度新規事業 | 8名の派遣生（現1年生）を決定 |
|----------|-----------------|

#### (6) 短期派遣受け入れ

|      |     |                        |
|------|-----|------------------------|
| 26年度 | 20名 | テレビ埼玉の取材をDVD化 事後も交流を継続 |
|------|-----|------------------------|

## 2 米国サマーセミナー

26年度 3名をミシガン大学夏季セミナーに派遣

27年度 6名の派遣（現2年生）を決定

## 3 AFS留学

受け入れ：ウズベキスタンより1名を受け入れ（25年9月～26年7月）

派遣：メキシコへ1名を派遣（26年8月～）

## 4 英語力の向上

- ・即興型英語ディベート（首都圏進学校交流事業、2年生の「英語表現」の授業）
- ・アカデミックディベート（アドグル、部活動）
- ・英語での論文作成（アドグル、SGH海外短期派遣研修）
- ・英語でのプレゼンテーション（ボーイングプログラム、SGH海外短期派遣研修）
- ・英語でのビデオクリップ作成（1年生の「英語表現」の授業）

## 平成27年度～平成28年度 S G H 報告と展望（国際交流関係）

### 1 姉妹校連携事業の拡充

(1) 国際交流アドバイザー（新規）

4月7日（火）～6月31日（火）（新規）

国際交流アドバイザー Tom Kilford 氏

職務：英語指導補助 留学生指導補助 ウェブページ記事

(2) Whitgift サマープログラム（新規）

7月19日（日）～8月2日（日） 参加者 2年次生 4名

7月26日（日）～8月9日（日） 参加者 2年次生 4名

内容：Whitgift 校のサマースクールに生徒のみで参加

Whitgift 校生徒およびアジア・ヨーロッパからの高校生との寮生活  
語学研修・文化交流

(3) 短期研修派遣課題研究報告（新規）

鉄道研究会・写真部生徒18名、引率2名

9月12日（土）13日（日） 文化祭当日に展示とプレゼンテーション

(4) 長期留学派遣報告（継続による成果）

平成25～27年度 原田光遥 ケンブリッジ大学進学（IB 44/45）

平成26～28年度 林 裕輝 NFLJ スピーチ部門2位 アメリカ大会進出

平成27～29年度 竹内 淳 8月末出発 現地サポート Tom Kilford 氏

平成28～30年度 ゴーマン 朗馬 NFLJ 全国大会ディベート部門1位

韓国大会準優勝 アメリカ大会進出

### 2 留学生の受け入れ体制整備

(1) AFSプログラム 平成26年 9月～平成27年7月 ウズベキスタン

(2) ロータープログラム 平成27年 9月～平成28年7月 デンマーク

(3) 姉妹校交流 平成27年10月～平成28年6月 イギリス

### 3 短期留学派遣プログラムの更なる充実

- 2016年 春 SGH課題研究第2次派遣(22名) イギリス+スイス(WHO 訪問)  
『地球規模の問題解決へのアプローチ』を大テーマに、「難民問題」「地球温暖化問題」「少子高齢化問題」「都市交通」「国際機関のはたらき」のテーマに分かれて課題研究を実施  
夏 ミシガン大サマープログラム Whitgift サマープログラム派遣  
秋 イギリスの姉妹校から22名を受け入れ
- 2017年 春 SGH 第3次派遣 イギリス (アドグルと連携して課題研究も実施)  
夏 ミシガン大サマープログラム Whitgift サマープログラム派遣
- 2018年 春 SGH課題研究第4次派遣 イギリス+北欧 (エネルギー問題)  
夏 ミシガン大サマープログラム Whitgift サマープログラム派遣  
シンガポールプログラムを追加すべく企画  
秋 イギリスの姉妹校から22名を受け入れ
- 2019年 春 SGH課題研究第5次派遣 イギリス  
夏 サマープログラム (イギリス、アメリカ、シンガポール)  
秋 シンガポールからの短期受け入れを検討

### 4 ミシガン大学サマープログラムの実施

- 2015年7月 6日(月)～17日(金) 参加者 3年次生 3名  
7月19日(日)～31日(金) 参加者 3年次生 3名  
内容 大学主催のプログラムに生徒のみ参加  
数学とコンピューター／数学と芸術／ゲーム理論と政治学  
各テーマに即したセミナーに参加  
※ 来年度分の募集選考を実施(3名)

### 5 高大連携ボーイングプログラムの継続(年に2～3回)

- 8月20日(木) 参加者 3年次:3名 2年次:4名 1年次:3名  
講師 東京大学工学部航空宇宙工学科 鈴木真二教授  
内容 米国ボーイング社の研究員と衛星回線で質疑応答  
後研究室を見学・意見交換・未来の飛行機についてのプレゼンテーション

## 6 グローバルリーダー育成のためのワークショップの企画

4月 7日（火） 参加者 2年次生 6名 1年次生 8名  
講師 Blue Dolphins （ケンブリッジ大卒業生によるNGO）  
内容 自分の夢を語るスピーチの練習、進路面接形式で自己アピール

11月 4日（水） 参加者1・2年生 38名  
講師 中川千皓先生（大阪市立大学）  
内容 即興型ディベートの演習を通して自己表現力を高める

1月13日（水） 参加者1・2年生 22名 ※アドグルと連動  
講師 岡本尚也先生  
内容 問のたて方

## 7 英語による諸活動との関連

- NFLJ 英語ディベートプレ大会出場（優勝）
- 即興型ディベート首都圏進学校交流会（優勝）⇒英語科全体の取組へ
- 高等学校英語教育研究会埼玉県英作文コンテスト（優勝）1年次 2年次
- ジグソー法による協調学習や、より広義なアクティブラーニングを導入し、授業を活性化
- 情報の授業と連携し、1年次全クラスで英語によるビデオクリップを作成



# 参考資料 1

## 校内文書等

以降の資料は校内での運営・推進体制や議論の様子を垣間見ていただくために収録しました。

「Super Global Highschool News vol.3」は生徒が校長にインタビューして作成したものです。「SGH委員会議事録」は本校でSGHを推進する母体であるSGH委員会での議論の様子をご覧いただけると存じます。「平成27年度1年次総合的な学習の時間について」、「平成27年度2年次総合的な学習の時間について」および「平成27年度SGHにともなうアドグルの工夫について」は職員会議資料からの抜粋で、校内での情報共有や年間の指導計画について参考にしていただくためのものです。

皆さんこんにちは。最終号となりました、2年次アドグル「SGH 宣伝隊」の広報紙「Super Global High school News」第3号発行です。ぜひこれを読んで浦高のSGHの取り組みについてもっと知ってください。

今回はなんと杉山校長先生にインタビューしました。浦高の今後のSGH活動やSGH申請の意図など、校長先生の考えるSGH像についてのお話を以下に掲載しましたのでご覧ください。

取材日：2015年3月13日（金）

**Q. SGH申請の意図を教えてください**

A. SGH申請の意図は3つある。

第1に、浦高生の更なる成長のためである。浦高生はいつも様々な無理難題に挑戦し努力しているが、それは浦高の中だけで完結してしまっているように思われる。やがて世界のどこかを支える浦高生には視野をグローバル規模に大きく広げ、異質で多様な他者と交流することでより自分を磨いてほしい。

第2に、浦高教育の発信である。SGH指定校は現在全国に56校あり、SGH指定校が集まって研究発表などをする機会がある。また今年度のSGH指定により、本校に視察に訪れる方が増えた。このようにタフな全人教育を行っている浦高教育が発信されることは、日本の今後の教育の方向性を考えていく上でもよい効果を与えるのではないかと考えている。

第3に、浦高教育への刺激である。どんなによい教育であっても、「自校の教育が素晴らしい」と満足した時点で成長は止まってしまう。今後浦高が多くの学校とのネットワークの中で刺激を得ることで、浦高教育をさらに進化させる契機になると思う。

**Q. SGH構想の内容についてお聞かせください**

A. 本校のSGH研究開発構想は「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成」である。

その内容としては、二年次の「総合的な学習の時間」のアドグルがまず挙げられる。これは全生徒が関わることで、今までよりも更に高度な研究が可能になるだろう。また、今年度は一部のアドグルに限られたが、今後は交付金を利用して外部からその道のスペシャリストを招き、「本物」に触れてもらいたい。

次に、英国ウィットギフト校や、米国ミシガン大学などでの人的交流が挙げられる。こ

れらは一部の生徒のみだが、交付金を利用することによってより多くの生徒に貴重な機会を提供できるようになる。また同窓会が「公益法人奨学財団」を設立した。これも大いに役立ててほしい。

他にも、東京大学との全学的な連携、米国ボーイング社との連携などがある。

**Q. SGH指定により浦高生がどのように変化することを期待されているのでしょうか？**

A. 浦高生には高い志を持って、学校という狭い枠だけにとどまらず、あらゆる機会を活用して、長期間であれ、短期間であれ、たとえ一日でも構わないから海外はもとより学校の外に飛び出して行ってほしい。そこで出会う、多様で異質な他者や本物のプロフェッショナルから受ける刺激や感動を通して、浦高で培ってきた「タフさ」と「優しさ」を確かな珠玉に磨き上げることができる。

浦高は世界の浦高へと進化する必要がある。日本のみならず、深刻な課題を数多く抱える世界の繁栄と平和に積極的に貢献する人材となってほしい。

平成26年6月16日(月)

## 第1回 SGH委員会 議事録

於：小会議室

16:20~16:50

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田  
国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務 教務 SGH

出席：鈴木 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田

### 1 これまでの動きなど

- Whitgift School との連携  
8月24日(日)~8月29日(金) Whitgift 訪問 (校長) W校校長と面談
- 今年度所要経費  
別紙のとおり(謝金・旅費・図書費・通信費・事務員等)

### 2 後期アドグルへの活用について

- 課題研究の要素
- 主要連携先：東京大学・JICA など  
→後期アドグルから活用したい

6月19日(木)：職員会議 アイデアシート(別紙)配布 締切6月30日(月)

- 人を呼ぶことができます(主な連携先に限定せず)
- そのほかどんなアイデアでも

7月上旬：東大・JICA 訪問(教頭・教務主任・野崎)

- ※ 訪問結果のフィードバック
- ※ アドグルのスケジュールには変更なし

- 課題研究とは何か。大変なことをしなければと尻込みする先生も出てくるのでは。  
→ただゲストを呼ぶだけでもありとアナウンス。(ピアサポートの学生等も可)
- アドグルでは論文を書かせている。それすなわち課題研究という理解で。
- 各先生方のアドグルテーマに沿って進める中で、深めるためのきっかけとしてゲストを呼ぶという理解で。

- 訪問結果のフィードバックは全体にみてもらったら. →その方向で. まずは 7 月中に一度集約したい.
- アイデアシートの語句を修正する. 電子ファイルでも書けるように用意する.

### 3 そのほか意見交換

- 直接人を呼ばなくてもスカイプなどの手もある.
- MOOC, JMOOC など web 配信も活用できる.
- 体育館で大きなスクリーンに映してリアルタイムのやり取りをすとか.
- ネットワーク環境の用意についてもはっきりしているとアイデアが出やすい.
  
- Whitgift の部活動派遣に大学との連携を活用したい.
- ウズベキスタンからの留学生もきっかけにできたら.

情報提供

7月8日に岡本尚也氏 (Cambridge 大) がきます.

### 4 連絡

- public に S G H 委員会のフォルダを作りました
- 委員会の議事録をみんなが読めるようにします

平成26年9月11日(木)

## 第2回 SGH委員会 議事録

於：応接室  
15:30~16:30

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田 齋藤  
国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務主任 教務 教務 SGH 事務局

### 1 これまでの動き

- 東大との連携 進捗状況 (アドグル, 鉄研+写真部)  
東大の動きが遅く 実際に連携できる内容は決まっていない
- 第1回運営指導委員会 報告  
→ 課題研究の例示について皆さんに紹介したいと思います  
議事録を後ほど公開  
課題研究の例示についてすみやかに情報提供する

### 2 これからの動き

- 後期アドグル  
東大の動きが遅いので従来どおりに進める  
東大との連携は可能な範囲で取り入れる形
- JICA との連携
  - ウズベキスタン：可能なら支援できる人材を探す
  - ウガンダ Skype?：取組み可能な一例として
  - アドグル：東大と同じスタンスで活用  
鈴木教頭訪問時の打合せ内容について補足説明(資料あり)
- Web page での発信
  - 英語版ページについて：2学期中に公開
  - 日本語 SGH ページ：動きがあるごとに日記風に  
準備が整い次第公開する
- タブレット端末について
  - 使い方について
  - 機材について

- 保管方法について
  - ネットワーク環境について
- 別紙「ICT 機器関連について」の基本方針を承認

### 3 そのほか意見交換

- 鈴木教頭より予算令達と所要経費について連絡  
SGH 予算で対応可能な範囲を精査  
摘要についてできるだけ柔軟性を確保するよう努力する  
各部署からの支出請求は委員会で集約し検討する

### 4 連絡

平成26年10月15日(水)

### 第3回 SGH委員会 議事録

於：応接室  
14:00～14:30

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田 齋藤

国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務主任 教務 教務 SGH 事務室

#### 1 予算の執行について

- 企画委員会を通じて平成26年度予算消化にあたり各教科に希望等を募る  
提出：10/20(月) 企画委 締切：事務室と相談の上で明示
- 執行処理の適正化・一元化のために支出伺書を活用 →提出先 野崎
- 来年度の所要経費について検討開始

#### 2 現在の動き

- 後期アドグル
  - 東大との連携⇒「教育心理学(武藤先生)」のみ⇒希望者なし
  - SGH アドグル・JICA との連携⇒「 (原田先生)」1名
  - 論文のフォーマットの統一・英語化の検討  
今年度中に実行する内容があれば早めに職員に周知
- Whitgift 関係
  - 第1回課題研究レクチャー実施しました(9/24(水))  
岡本尚也氏(Oxford Univ./GLOCAL ACADEMY)
  - 課題研究テーマ決定しました(10/3(金))
- ICT 関連
  - タブレット・無線LAN等(長澤先生)別紙資料  
教育局物品銘柄選定委員会・その他 ICT機器のデモの情報提供  
タブレットの管理、使い方の検討  
学校全体のICT環境デザインの検討をする体制
  - 電子ペン(森住先生)  
タブレットと連動したICT機器について情報提供

#### 3 連絡・報告

- 来年度に向けた構想
  - 課題研究→別紙『総合的な学習の時間でやろうとしていること』

東大 PEAK 等 留学生との協働

10/16 (木) 田阪氏 (GLOCAL ACADEMY) + 東大留学生 来校

- 年次集会・SGH 通信 等での意識付け 来年アドグルの1年生対象
- 教員向け研修会 必要ならば(年度内に) →別紙教材
- 国際交流と課題研究の関連付け(スイス WHO(OB 小野崎氏)→Whitgift)  
職員会議で情報提供があったとおりです
- 英語版 web ページ・SGH ページ運用開始しました (10/1～)

#### 4 その他

- 運営指導委員会における助言等と推進の状況  
2月の運営指導委員会で推進状況を報告します

平成26年12月19日(金)

## 第4回 SGH委員会 議事録

於：大会議室  
成績会議後～

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田 齋藤

国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務主任 教務 教務 SGH 事務局

### 1 平成26年度予算 図書費・消耗品費

- 別紙「平成26年度 SGH 予算について」  
別紙のうちプロジェクターを除き承認  
プロジェクターを消耗品として購入することは国の監査を通らない  
まだ図書費に余裕があるので各教科に案内する

### 2 今年の動き(報告)

- Whitgift 派遣 鉄道研究会+写真部
  - レポート第1稿完成 改良・英訳へ
- 後期アドグル
  - 原田先生「SGH 通信」：2109 梶山幸寛
  - 富田先生「医療倫理」：新領域創成科学研究科 山本一夫 教授  
SGH セミナー「糖鎖生物学への招待」  
内容は良いものを実施しているので、生徒のみならず職員もふくめ  
広く周知して進めていくべきだ  
委員会の議事録も先生方全体に読んでいただくことが望ましいので  
はないか
  - 直井先生「宇宙人はいるか」：工学系研究科 中村謙太郎 准教授
- ※ こちらの希望に合う先生がなかなかいない
- ※ 希望していなくてもオファーがある
- ICT 関連  
iPad は年明け早々に到着します  
保管や管理の環境が整わないので本格的な利用は新年度から  
ただし利用希望があれば随時連絡ください(担当：長澤先生)

### 3 来年度に向けて

- 別紙「平成 27 年度のアドグルについて (案)」  
目を通していただきご意見等お願いします  
新しい形の取組みとなる部分について、SGH 委員会の構想する内容をよく案内して、先生方に理解していただく必要がある
- 国際交流  
WHO とのつながりができたので、来年度の Whitgift 派遣は英国に加えてスイスを 2 日間加える形で実施するよう計画中  
国際交流アドバイザーとして 4 月～7 月の予定で Whitgift の卒業生トム氏が滞在予定

### 4 その他

- 運営指導委員会 2/4 (水) 10:00-12:00 決定

平成27年1月22日(木)

## 第5回 SGH委員会 議事録

於：応接室

15:30-16:15

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田 齋藤

国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務主任 教務 教務 SGH 事務局

お忙しいなか恐縮です。第5回委員会をお願いします。1年次の年次集会が2月2日(月)に決まり、そこで来年度のアドグルについてガイダンスの時間をいただきました。ある程度具体的に情報提供したいので、下の2にしぼってご意見を頂戴したいと思います。

### 1 現在の動き(報告) 時間の都合で触れられず

- SGH 講演会【計画】(企画委員会を通じて協議中)

日時 平成27年4月22日(水)6限 総合的な学習の時間

対象 1年次生

講師 加瀬 豊 氏(高17回)

双実会長・経団連サブ・サハラ地域委員会共同委員長

- Whitgift 派遣 鉄道研究会+写真部
  - レポート第1稿完成 改良・英訳へ
- 後期アドグル：原田先生「SGH 通信」：2109 梶山幸寛
  - SGH 通信 1号・2号発行 先生方にも配ります

### 2 来年度に向けて

- 別紙「平成27年度のアドグルについて(案)」  
ご意見をお願いします(2月22日職員会議提出)

- CORE5 などイメージは湧きやすいが、例として提示し、これを雛形として先生方に発想していただくと良いのでは。
- 先生方に、自分が指導する生徒のイメージがあつて(部活・委員会など)テーマが浮かぶのではないか。
- 2年次であれば修学旅行もあるし、委員会・部活・分掌・人権教育・教養委員・小学生講座など浦高の活動の自然な流れを生かしたら。
- 重点的な講座では2人でひとつの講座を担当することがあつてもよいのでは。

- 2月2日に1年次の集会で生徒に具体的な話をするのは早いのでは。職員で共通理解を十分図ったのち、3月以降に知らせていったら。⇒その方向で進めます
- 現在取り組んでいる Whitgift 派遣の鉄道研究会+写真部の取組を1年次生に見てもらえる機会があるとよいかも。⇒日程を勘案しながら実現の可能性を探ります
- アドグルの募集や講座の設定法についても検討してみたらどうか。先生方にあらかじめ用意したテーマで担当していただいたり、生徒も部活や委員会の所属によってアドグルが指定される子がいたりということも考えられる。
- 先生方が教科指導ではできない内容を取り入れたり、教科と関係ない個性を出したり、生徒のほうでも普段かかわらない先生と会えたり、講座によって負担感のレベルがさまざまあったりという現状の魅力や多様性・柔軟性も大切にしたい。
- テーマの設定について十分に説明しないと、現状の資料では先生方が困惑するのでは。今年度の講座を例に(a)~(c)の分類に当てはめたり、タイトルの書き換え例を示したりすると良い。⇒今年度の講座について例示する資料を作ります
- 生徒のことを良く知る年次の先生方が受け持っている講座でないと十分に深い成果につながらないのでは。
- 来年度アドグルを実施する年次である現1年次団への丁寧な説明が必要。そこで意見をいただいて、委員会で練りあげて職員全体へ全体像を提案していく流れだろう。
- 自分が担当する立場で考えたら重い。大学側との連絡を頻繁にするとか負担が大きいだろう。総学担当の先生も変化が大きいと準備の余裕がなさ過ぎると思われる。募集から生徒の振り分け、教室の確保など時期によって現在でも相当厳しい業務となっていることを理解すべきだ。⇒現在のフレームは変えない中で工夫したい
- 論文の英語化と言われても、どのように指導していったらよいのか不安になる。
- 東大や Oxford 大と連携して英語科の負担をゼロにするという配慮は理解するが、3年次の教科指導と連動させるなど、自然な流れを生かすことで負担なく進める工夫も考えられる。
- 核となる講座がほしいということであれば、COREを2つか3つに絞って担当をあらかじめ想定し、2人担当制としたうえで時間割上の配慮をするなど、コンパクトだけでも深く作りこむ形にしたらどうか。
- 英語化など新しい試みはまず CORE に限って進めてみてはどうか。⇒英語による発信はすでに実践できている部分を核として新しいことは CORE に限って考えます

### 3 その他 時間の都合で触れられず

- 運営指導委員会 2/4 (水) 10:00-12:00  
別紙「運営指導委員会における助言等と推進の状況」：ご意見ください
- 今後、議事録を先生方に配布します

平成27年3月19日（木）

## 第6回 SGH委員会 議事録

於：小会議室 16:00-16:30

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 打木 長澤 東 森住 西村 松本 野崎 佐々木 原田 齋藤

国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務主任 教務 教務 SGH 事務局

### 1 平成27年度のアドグルについて（職員会議提案）

別添資料をご覧ください。

ポイントは以下の通りです。

- 基本的にはこれまでと変えません（教員・生徒のアドグル登録方法／日程など）
- 学年選出の総学係を中心に SGH 委員会が運営に関わります
- プロジェクト型と CORE は担当する先生の内諾をいただいています
- CORE は複数担当制・通年の講座とします
- 先生方の講座設定の参考にするために CORE の例示をします
- 課題研究内容 abc をふまえて考えてもらうために、資料の順番を変えたほうが良いだろう。⇒変えました
- 成果物や報告会など現時点で構想していることはキチンと伝えたほうが良い。そうすればコア講座の論文がどうなるかといった疑問もせず、基本的に従来どおりであることが伝わるだろう。⇒項目の3番目に加えました
- 教員のアドグル登録用紙に abc の分類も書いておいて、意識していただいたほうが良いだろう。⇒加えました

### 2 浦和高校の SGH について

情報共有するための資料

- 浦和高校の SGH プログラム  
今月中に web ページにアップしていくつもの内容です  
SGH に関するページは bilingual にしたいと思います
- 平成26年度～平成27年度 SGH 報告（国際交流関係）資料3  
運営指導委員会での資料です
- SGH 委員会 第5回議事録  
委員会のメンバー構成などもご存じない先生方がおいでと思いますので…

### 3 全体的な構想

- 論文集

- 発表会：中間報告 9月：文化祭（浦高一受けたい授業？・U-stream 中継）  
最終報告 2月：会場発表（コムナーレなど想定・代表生徒）  
学年内共有 2月：総学の時間  
学年間共有 2月：総学の時間

#### 4 連絡

図書が届いています（洋書）。各教科で保管お願いします。和書はお待ちください。

平成27年6月5日（金）

## 第1回 SGH委員会 議事録

委員：鈴木 山崎 小河 碧木 佐々木 長澤 野澤 富田サ 森住 松本 野崎 發知 原田 齋藤  
国際交流 国際交流 進路 情報教育 広報 総学 総学 教務主任 教務 教務 SGH 事務室

### 1 今年度の体制について

委員長・課題研究チーフ（野崎） 副委員長・国際交流チーフ（小河）

### 2 平成27年度全体的な構想

- 論文集：従来どおり（→課題：書式の統一・英語による記述…）
- 報告書：iBook（試み）
- 発表会：中間報告 9月：文化祭（浦高一受けたい授業・U-stream 中継）  
最終報告 2月：会場発表（コムナーレなど想定・代表生徒）  
学年内共有 2月：総学の時間 時間の捻出  
学年間共有 2月：総学の時間 時間の捻出・学年間調整
- 2月の校内共有と外部向け発表の順序は、できれば校内発表の後に外部に出て行く順序がよいのではないか。（プレゼン能力を上達させる。優秀なものをセクションする。）  
⇒検討したい
- 発表の前にはプレゼン練習をしたほうがよい。  
⇒大切なことなので、日程的に十分配慮したい。

### 3 平成27年度の予算について

- 27年度所要経費（別紙）＋昨年度の実績
- 機動的に執行したい  
各講座からの要望集約（前期：6月12日締切）  
SGH 予算委員会（鈴木、齋藤、野崎、小河、長澤、松本）

### 4 浦和高校のSGHについて

- 浦和高校のSGH プログラム／Super Global High School Programme  
web ページにアップします  
（委員会の意見をふまえて6月8日～12日の間に公開）

平成27年3月23日

## 平成27年度 1年次 総合的な学習の時間について

### ねらい

- 生徒が過去・現在の自分自身を理解し、その延長上に将来設計をする。
- 生徒が高校生活における具体的な目標を設定し、進路実現に向け努力する。

### 内容

- マイプラン・学問研究
- 進路説明会・科目選択説明会・大学研究・学習カウンセリング・学問研究

### マイプラン

- マイプラン1…中学までの自分・高校での目標
- モデル研究…将来を考える上で指標となる人物に関するレポートを作成する。
- マイプラン2…夏季休業中の課題。高校での目標・将来の目標。(5枚以上)

### 学問研究について

#### (1) 目的

- 興味ある学問分野への理解をさらに深める。
- 読書の習慣を身につける。
- 論文の形式を学ぶ。

#### (2) 内容

次の手順に従い、四百字詰め原稿用紙10枚以上の文章を書く。2～3学期に実施。

- ① 図書リスト、または他から何冊か選び読書。
- ② 読書に基づき、生徒がテーマを決める。
- ③ 『論文の教室』（NHK ブックス）を読み、同書に関するワークシートを数回提出。論文の書き方を習得。
- ④ 論文を執筆。
- ⑤ 2学期末に論文を提出。各クラス優秀論文1～2本程度（担任・総学担当が選定）を集めて論文集を作り、生徒全員に配布。

|                                               |          | マイプラン／学問研究     | 科目選択・その他           |
|-----------------------------------------------|----------|----------------|--------------------|
| L                                             | 4/10(金)  | マイプラン1 提出      |                    |
| L                                             | 4/11(土)  |                | ガイダンス (年次集会時)      |
| ①                                             | 4/15(水)  |                | 単位制・入試・総学について      |
| ②                                             | 4/22(水)  | SGH 講演会 (加瀬豊氏) |                    |
| ③                                             | 5/ 7(水)  | モデル研究1 (執筆)    |                    |
| ④                                             | 5/13(水)  |                | 第1回科目選択説明 (集会)     |
| ⑤                                             | 5/27(水)  | モデル研究提出        | 第2回科目選択説明 (HR)     |
| ⑥                                             | 6/ 3(水)  |                | 進路説明会 (OB・実習生)     |
| L                                             | 6/ 8(月)  |                | 第3回科目選択説明・仮提出 (HR) |
| ⑦                                             | 6/10(水)  | モデル研究3 (HR 発表) |                    |
| L                                             | 6/15(月)  |                | 科目選択希望票提出          |
| ⑧                                             | 6/17(水)  | マイプラン2         |                    |
| ⑨                                             | 6/24(水)  |                | 2次考査に向けて           |
| ⑩                                             | 7/ 8(水)  |                | 1学期を振り返って          |
| 夏季休業中：マイプラン執筆／大学研究／『論文の教室』ワークシート1・2／学問研究テーマ決定 |          |                |                    |
| ①                                             | 9/ 9(水)  | 読書・ワークシート3・4   |                    |
| ②                                             | 9/30(水)  | 読書・ワークシート5・6   | 実力テスト返却            |
| ③                                             | 10/ 7(水) | 読書・ワークシート7・8   | 1次考査に向けて           |
| ④                                             | 10/14(水) | 読書・ワークシート9     | 第2回進路希望調査・学習状況調査   |
| L                                             | 10/21(水) |                | 第4回科目選択説明 (年次集会)   |
| L                                             | 10/26(月) |                | 学部学科説明会            |
| ⑤                                             | 10/28(水) |                | 第5回科目選択説明・最終提出     |
| ⑥                                             | 11/ 4(水) | 読書・執筆          | 進路希望調査             |
| ⑦                                             | 11/11(水) | 読書・執筆          |                    |
| ⑧                                             | 11/18(水) | 読書・執筆          |                    |
| ⑨                                             | 11/25(水) | 読書・執筆          | 2次考査に向けて           |
| ⑩                                             | 12/ 2(水) | 読書・執筆          |                    |
| ⑪                                             | 12/15(火) | 論文提出           | 2学期を振り返って          |
| ①                                             | 1/13(水)  |                | 進路行事 (年次集会)        |
| ②                                             | 1/20(水)  |                | センタートライアル          |
| ③                                             | 1/27(水)  | 学問研究自己評価       |                    |
| ④                                             | 2/ 3(水)  | 論文集配布・発表       |                    |
| ⑤                                             | 2/10(水)  |                | 進路行事 (OB 講話など)     |
| ⑦                                             | 2/24(水)  |                | 総合学習アンケート・年次末に向けて  |

平成27年度 2年次 総合的な学習の時間について

1 内容3本柱

(1) 進路ガイダンス

自己の進路を積極的に考察し，進路希望・興味・関心による適切な科目選択により学習活動の充実を図り，進路実現を目指す。

(2) 学習カウンセリング

自己の学習状況の把握に努め，個人面談等を通してよりよい学習活動へつなげる。

(3) アドグル論文

自己の進路希望・興味・関心に沿ったテーマを設定し，研究・調査の上，論文を作成する。

2 アドグル論文について

(1) 目的

- 1年次の「学問研究」の内容を深め，生徒自身の進路希望・興味・関心に応じたテーマでの論文作成を通じて，教科の枠を超えた総合的な学習活動を行う。

(2) 内容，方法

- 生徒はアドバイザー・グループ（以下アドグル）に属し，リーダー（担当教諭）の指導のもとで論文を作成する。
- 原則として年度を前期，後期に分け，年間を通して2つのアドグルに所属する。
- 論文の内容・分量はそれぞれのリーダーに任されるが，調査・報告型ではなく，問題点を自分で指摘し論じる型のものとする。
- 優秀論文を集めて論文集を作り，共有を図る。

### 3 年間実施計画（案）

#### 前期

|    |          | 内容              | 備考     |
|----|----------|-----------------|--------|
| 1  | 4/15(水)  | ガイダンス           |        |
| 2  | 4/22(水)  | アドグル登録          |        |
| 3  | 5/ 7(木)  | ①               | 水曜時間割  |
| 4  | 5/13(水)  | 第1回 科目選択説明会(集会) |        |
| 5  | 5/22(金)  | ②               | 水曜時間割  |
| 6  | 5/27(水)  | 第1回 科目選択説明会(HR) |        |
| 7  | 6/ 3(水)  | ③               |        |
| 8  | 6/10(水)  | 人権講演会事前学習       |        |
| 9  | 6/17(水)  | ④               |        |
| 10 | 6/24(水)  | ⑤               |        |
| 11 | 7/ 8(水)  | ⑥               | 押せ押せ4限 |
| 12 | 9/ 9(水)  | ⑦論文提出           |        |
|    | 9/12(土)  | 文化祭             |        |
| 13 | 9/30(水)  | 第2回 科目選択説明会(HR) |        |
| 14 | 10/ 7(水) | ⑧発表・評価          |        |
|    |          |                 |        |

#### 後期

|    |          |           |                         |
|----|----------|-----------|-------------------------|
| 1  | 10/14(水) | 登録        |                         |
| 2  | 10/28(水) | ①         |                         |
| 3  | 11/ 4(水) | ②         |                         |
| 4  | 11/18(水) | ③         |                         |
| 5  | 11/25(水) | ④         |                         |
| 6  | 12/ 2(水) | ⑤         |                         |
| 7  | 12/15(火) | ⑥         | 押せ押せ4限                  |
| 8  | 1/13(水)  | ⑦論文提出     |                         |
| 9  | 1/20(水)  | センタートライアル |                         |
| 10 | 1/27(水)  | ⑧発表・評価    |                         |
| 11 | 2/ 3(水)  |           | 学年発表会など成果共有の機会を2月中にもうける |
| 12 | 2/10(水)  |           |                         |
| 13 | 2/17(水)  |           |                         |
| 13 | 2/24(水)  |           |                         |

先生方へ〔参考〕

## 2年次総合学習 総合小論文（アドグル論文）について

### 実施の経緯

浦和高校の「総合的な学習の時間」は平成12年度に現学習指導要領に先行してスタートし、年間計画や内容は改革構想検討委員会が中心となって企画・立案しました。総合小論文は、本校における総学の中核として、総学の実施当初から取り組み、内容・方法に変更を加えながら現在に至っています。

改革構想検討委員会がなくなった現在は、教務部・年次団が、進路指導部など関連する分掌や教科等と連携しながら年間計画や内容を検討し、その実施計画に基づいて全職員が指導を担当しています。

### ねらい

本校では総学において、1年次の「学問研究論文」、2年次の「総合小論文」にみられるとおり、論文指導に重点をおいています。これは論文を作成する過程で養われる力（知的探求心・思考力・判断力・創造力・表現力など）が、将来、各分野のリーダーとして社会に貢献するための能力として不可欠と考えるからです。

1年次の学問研究では、『論文の教室』という論文執筆の参考書を持たせ、テーマ設定から調査、最終的な執筆まで1人で行っています。初めての論文執筆を通して「そもそも論文とはどういうものなのか」を理解することがねらいです。

2年次の「総合小論文」ではアドグルリーダーからの指導と、グループの生徒同士での学びあいにより、興味・関心のある分野をさらに探求し、論文を執筆しています。グループで共同調査する経験や、互いに論文を読み合い、相互評価する経験が将来の知的探求の基盤になると考えています。

生徒には、総合小論文は次の理由で非常に新鮮かつ魅力的な時間になります。

- 一般の授業では取り扱わない専門的なテーマを選択できる。
- 1グループ当たりの人数が少人数である。
- 生徒同士の討議やフィールドワーク、実習など、大学のゼミ活動のような多彩な取り組みができる。

平成27年3月23日  
SGH研究開発委員会

## 平成27年度 SGHにともなうアドグルの工夫について

### 1 アドグルのタイトルの公開（全講座対象）

SGHでは、活動の対外的な発信が求められています。このためタイトルをふくむ活動内容をwebページで公開します。

### 2 アドグルの内容について

浦和高校のSGHは、以下の3項目を課題研究内容としています。講座内容を検討される時念頭においていただけましたら幸いです。

(a)人類の共存 (b)持続可能な地球環境 (c)普遍的価値の探求

### 3 研究報告

- 優秀論文集の作成
- 報告会の開催（校内・外部会場）
- 成果物等のwebページでの発信（PDFファイル・動画ファイル）

### 4 プロジェクト型講座（現行の発展として可能な範囲で2～3講座）

従来のアドグルは学校での活動を中心にしていましたが、生徒が地域にでて行って、ボランティア等のプロジェクトを企画・推進することで、地域が抱える現代的な問題を解決する形の課題研究を行います。→以下は例

- 夏休みスイミングボランティア
- 留学生向け弓道教室の実施と世界への発信

### 5 コア講座（本格的課題研究2～3講座）

SGHの主旨を最も体現する課題研究として、いくつかの研究をコア講座と称して推進します。コア講座に限り通年・複数担当の講座とします。→以下は例

- 人類の共存：異文化相互理解に資するコミュニケーション・フィールドの創出
- 持続可能な地球環境：エネルギーインテグレーションの探求
- 普遍的価値の探求：地域社会の包摂性を高めるサイバー防犯ボランティア

### 6 その他

アドグルに外部から講師を招く場合、謝金と交通費が出ます。

# 参考資料 2

運営指導委員会

## スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会設置要綱

### (設置)

**第1条** 埼玉県教育委員会は、「スーパーグローバルハイスクール実施要項」に基づき、県立高校が文部科学省からスーパーグローバルハイスクール研究開発指定校に指定された場合、その指定校にスーパーグローバルハイスクール運営指導委員会(以下、「委員会」)を設置する。

### (所掌事務)

**第2条** 委員会は、スーパーグローバルハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導、助言、評価に当たるものとする。

### (委員会の構成)

**第3条** 委員会の委員は、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等の中から、県教育委員会教育長が委嘱する。

- 2 委員会には、委員長1名及び副委員長1名を置く。
- 3 委員長及び副委員長は、委員会において選出する。
- 4 委員会に、会議事項等をあらかじめ整理するために、幹事を置く。
- 5 幹事は、研究指定校の職員と県教育局の職員をもって構成する。
- 6 委員及び幹事の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

### (会議)

**第4条** 委員会の会議は、県教育委員会教育長が招集する。

- 2 委員会の会議の議長には、委員長を充てる。
- 3 委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、その職務を代理する。

### (会議の公開)

**第5条** 会議は、原則として公開とする。ただし、出席した委員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

### (庶務)

**第6条** 委員会の庶務は、高校教育指導課において処理する。

### (その他)

**第7条** この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この要綱は、平成26年9月10日から施行する。

平成26年度埼玉県立浦和高等学校  
スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会組織

1 スーパーグローバルハイスクール（SGH）運営指導委員会委員一覧（敬称略）

| 氏名    | 所属                             | 職名    | 備考    |
|-------|--------------------------------|-------|-------|
| 新井 健一 | (株)ベネッセコーポレーション<br>ベネッセ教育総合研究所 | 理事長   | 学識経験者 |
| 江頭 靖二 | インテル(株)CSR統括部                  | 部長    | 学識経験者 |
| 中本 進一 | 埼玉大学国際本部・留学交流支援室               | 室長・教授 | 学識経験者 |
| 根岸 茂文 | 一般社団法人埼玉県経営者協会                 | 専務理事  | 学識経験者 |
| 矢嶋 行雄 | 埼玉県県民生活部国際課                    | 課長    | 学識経験者 |
| 矢羽々 崇 | 獨協大学国際交流センター<br>外国語学部          | 所長・教授 | 学識経験者 |

(50音順)

2 スーパーグローバルハイスクール（SGH）運営指導委員会幹事一覧

| 氏名     | 所属              | 職名   | 備考      |
|--------|-----------------|------|---------|
| 杉山 剛士  | 浦和高等学校          | 校長   |         |
| 鈴木 啓修  | 〃               | 教頭   |         |
| 山崎 正義  | 〃               | 〃    |         |
| 稲村 淑   | 〃               | 事務部長 |         |
| 野崎 亮太  | 〃               | 教諭   | 研究推進委員長 |
| 小河 園子  | 〃               | 〃    | 研究推進員   |
| 碧木 浩二  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 打木 義浩  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 長澤 昇一  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 東 知則   | 〃               | 〃    | 〃       |
| 森住 明広  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 西村 紗菜  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 松本 浩   | 〃               | 〃    | 〃       |
| 佐々木 肖子 | 〃               | 〃    | 〃       |
| 持田 亮   | 教育局県立学校部高校教育指導課 | 指導主事 | 行政機関    |
| 坂下 幹弘  | 〃               | 指導主事 | 〃       |

平成26年度 埼玉県立浦和高等学校  
スーパーグローバルスハイスクール  
第1回 運営指導委員会

平成26年9月10日（水）

10:00～12:00

浦和高等学校麗和会館会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
  - (1) 埼玉県教育委員会
  - (2) 埼玉県立浦和高等学校長
- 3 委嘱状の交付
- 4 委員長・副委員長の選出
- 5 協議
  - (1) SGH事業計画について（浦和高校）
  - (2) 質疑応答・指導助言
  - (3) その他
- 6 諸連絡
- 7 閉 会

運営指導委員会における助言と推進状況

|      | 助言等                         | 取組み状況                                                                                                                                                                           | 回答<br>進捗 |
|------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 新井委員 | 「〇〇力」を整理して構造化し取組みの評価につなげるべき | 構想調書にあるすべての「〇〇力」をピックアップし、グループ化を行った。これらを構想調書に記載した検証評価方法項目中の「生徒相互評価」「生徒の社会貢献に対する意識変化の検証」等で活用したい。                                                                                  |          |
|      | 教科指導との連携をどのように図るのか          | 本校ではSGHのために特別に教育課程を変更することはないが、プレゼンテーション力の育成を情報の授業で行うなど、SGHと融合した運用を工夫するなどしている。<br>また、2年次での課題研究を3年次の英語の授業を通じて質の高い英語論文に練り上げるといったことも選択肢として考えている。                                    |          |
|      | Webを活用して日常的に通信したらどうか        | 課題研究のひとつとして、JICAを通じてバングラデシュの高校生とコミュニケーションするプログラムを考えているほか、英国Oxford大との通信をすでにスタッフ間で試用している。                                                                                         |          |
| 江頭委員 | 英語力の底上げは考えているか              | SGHのために特定の検定を受けさせるなどの取組みはしないが、英文レポートの作成、英語によるプレゼンテーションを行うことを通じて英語の能力も伸長すると考えている。<br>なお、今年度、英語ディベートで全国大会に出場した。<br>「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告等もふまえ、新学習指導要領にむけた動きを先取りすることは当然であると考えている。 |          |
|      | 留学経験のシェアをどのように進めるのか         | 現在の全校集会での報告会、報告書の発行、文化祭における写真展開催のほか、効果的な方策を検討中である。                                                                                                                              |          |
|      | ICTの活用は先進的なモデルになる画期的な実践を    | 平成26年度には計3回教員研修の機会を設けた。思いもよらなかった新奇な活用法について、できるだけ研究していきたい。                                                                                                                       |          |
| 中本委員 | 留学等の危機管理体制の整備を              | 事前調査、生徒への指導、保険の手当てのほかに、可能な危機管理の方策について検討中である。                                                                                                                                    |          |
|      | 課題研究のテーマ3本柱の由来は             | 従来から実践してきた総合学習の時間における「アドバイザー・グループ」（ゼミ形式の授業と論文の執筆）のテーマとして多く採用されていたものを抽象化した。<br>個別の教科やテーマに特化するのではなく、全人教育の理念のもとで生徒が世界の問題を自由に探求できるための環境を整えた。                                        |          |

|       |                             |                                                                                                                                                                                                                      |  |
|-------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|       | 海外の OB に余裕はあるのか？            | <p>まだ在学中の場合、本人の学業との両立などに課題はあるだろう。本校では、卒業後に海外で学習する OB のサポートの実績もある。そうした環境を生かして連携の可能性を探っていききたい。</p> <p>既に社会に出て活躍中の OB の場合、国内外を問わず積極的に支援いただいている。来年度には WHO の小野崎氏の協力でスイスにおける課題研究の計画をしている。</p>                              |  |
| 根岸委員  | チャレンジと失敗を取り入れるべき            | <p>新年度の課題研究では、アポイントメントをとること、協力を要請することなど、すべて生徒が行う形で計画しており、想定どおりに進まない事態が大いに考えられる。そうしたことも学習すべき内容としてとらえて計画中である。</p>                                                                                                      |  |
|       | 行動・活動が伴うプログラムを              | <p>課題研究においては、外部との連携や新規プロジェクトの立ち上げ、プレゼンテーションを含む外部への発信等を積極的に行うことを予定しており、目に見える活動となるはずである。</p>                                                                                                                           |  |
|       | 日本の現状からグローバルへ視点を広げていくプログラムを | <p>課題研究の予定テーマには、地産地消、地域の育児課題の解決、地域の人材活用の方策など、地域のもつ課題から発して世界へ発信するに値するプロジェクトモデルを提案するよう計画している。</p>                                                                                                                      |  |
|       | 欧米の後追いではなくアジアにも目を向けたら       | <p>JICA と連携する課題研究はバングラデシュを対象に計画中である。また、アドグルの囲碁に関連させた課題研究では、中国・韓国との連携を考えている。</p> <p>連携している東京大学 PEAK の留学生はアジア出身も多い。</p> <p>WHO でご協力いただく小野崎氏は東南アジアの衛生政策がご専門であり、その方面の展開も視野に入れている。</p> <p>シンガポールにベースのある矢野氏とも連絡を取っている。</p> |  |
|       | 浦高のスーパーグローバル体制の構築を          | <p>後援会の奨学財団設立をはじめ、さまざまな形でグローバルを念頭に置いた教育活動の動きがでてきている。理念的な芯を通し、全体としてまとまりのあるものとしていきたい。</p>                                                                                                                              |  |
| 矢羽々委員 | 海外生徒受け入れの実態は？               | <p>現在はウズベキスタンから 1 名。</p> <p>SGH 事業として、姉妹校の Whitgift School の OB を海外交流アドバイザーとして常時招く体制を築いている。</p>                                                                                                                      |  |
|       | 積極的に受け入れて校内を活性化してほしい        | <p>本校としては積極的に受け入れていきたい。来日中の生徒については在校生からホストファミリーをつのり良好な関係を築いている。短期の受け入れでは活発な交流ができており継続していきたい。</p>                                                                                                                     |  |

平成26年度 埼玉県立浦和高等学校  
スーパーグローバルスハイスクール  
第2回 運営指導委員会

平成27年2月4日（水）

10：00～12：00

浦和高等学校麗和会館会議室

次 第

- 1 開 会
  
- 2 あいさつ
  - (1) 埼玉県教育委員会
  - (2) 埼玉県立浦和高等学校長
  
- 3 日程説明
  
- 4 協議
  - (1) 平成26年度の取組について
  - (2) 平成27年度の計画について
  - (3) 質疑応答・指導助言
  
- 5 閉 会

【委員会後の日程】

○11：30～12：00 授業見学

## 平成26年度SGH 第二回運営指導委員会 記録

平成27年2月4日(水)  
10:00~12:00  
浦和高校麗和会館 会議室  
司会 教頭 鈴木 啓修  
記録 教頭 山崎 正義  
(持田 亮)

### 1 開 会

### 2 挨拶

県教育局県立学校部 参事兼高校教育指導課長 高田 直芳  
県立浦和高等学校 校長 杉山 剛士

### 3 日程説明

### 4 協 議

#### (1) 平成26年度の取組及び平成27年度の計画について

① 総合的な学習の時間について 研究推進委員長 教諭 野崎 亮太

##### ○資料1

- 年度当初は、従来のこれまで実施してきたアドグルを実施。後期は、運営指導委員の方からいただいた助言を基にしながら、東京大学との連携を深めていった。
- 課題は、大学の先生とのスケジュール調整。生徒は、大学に行きたいという要望が強かった。

##### ○資料4

- 平成27年度のアドグルでは、全40講座を実施予定。その中で、a)人類の共存、b)持続可能な地球環境、c)普遍的価値の探求、を大きなテーマとし、各グループで小テーマを設定。
- プロジェクト型アドグルでは、生徒が地域に出ていき、地域が抱える現代的な課題を発見し、解決に向けての研究を実施する。
- CORE(本格的課題研究:2~3講座)SGHの趣旨を最も体现する課題研究。→通年で実施。
- 人類の共存:人類に効用をもたらすエネルギーインテグレーションの提案
- 持続可能な地球環境:自転車王国埼玉にふさわしい自転車ハイウエイ構想の

### 提案

- 普遍的な価値の探求：祭りを通じた包摂力ある地域コミュニティの創生手法の提案
- 東大のPEAKの留學生徒の交流の中で、日本人のもっている良さをもっと表現するべきだ、という意見をもらった。日本の良さ、浦和高校の強さを発信していく。部活動の活動内容等とも絡めていく。
- 研究報告会外部会場にて、大学教授等の指導助言者を招き、研究発表会を行う。プレゼンは、英語で実施する。発表会の内容は、学校のWEBページで動画配信する。

## ② 国際交流について 研究推進委員 教諭 小河 園子

### ○資料3

- 交流先が欧米に偏っているとの委員からの意見もあったが、浦和高校では、20年以上、姉妹校との交流を実施してきた。今年度は、浦和高校の校長が自ら現地を訪問することができ、連携がより強固なものとなった。
- ロンドン大学やケンブリッジ大学との連携の可能性も出てきた。
- これまで、姉妹校をただ訪問し、交流するだけであったが、SGH指定後、テーマを設定し研究をする取組へと発展することができ、より教育効果の高い取組になっている。(2000字レベルの論文を3本書き終わっている。)
- 指定期間5年間のうち、アジアへの視点を広げて、課題研究を目指す。
- 英語力の向上の部分では、即興型英語ディベートやアカデミックディベートなども取り組んでいる。

## (2) 質疑応答・指導助言

① 矢羽々委員からの指導・助言について事務局(持田)から報告。

② 中本委員長からの補足説明

- 論文作成のために、自分の考えを交えず本の主張をレポートイングをすることは、非常に大事なトレーニングである。ぜひ、参考にさせていただきたい。大学院生ですら、論文の中で結論に急いでしまい、ロジックが弱い傾向にある。下地のリサーチは非常に大事で、欧米では、図書カードを使って、このトレーニングをしっかり行っている。

③ 運営指導委員からの質問

江頭委員

Q1. ロンドン大学、ケンブリッジ大学との連携の可能性とあるが、連携のキーパーソンとなった人は誰か。

A1. 7月4日のグローバル人材セミナーの講演をしていただいた岡本尚也氏(ケ

ンブリッジ大学)の後輩の方にロンドン大学との連携を依頼。

中本委員長

Q 2. CORE研究の「祭りを通じた包摂力のある地域コミュニティの創生手法の提案」について実行性はあるのか。

A 2. 浦和高校生にとって、地域の自治体へ生徒が入っていくことは意義がある。地域への感謝の心を育てることと、そこでの課題を発見し、還元する研究を検討中である。

新井委員

Q 3. 東大との連携とあるが、駒場か本郷か。駒場では、社会連携推進講座もやっているが。

A 3. 浦和高校のOBの教授に連携を依頼している。

④ 運営指導委員からの提言

新井委員

- 教えることで学びが深まる。中学校へ出向いて、留学から帰国した生徒達が、中学生に英語を教えるのはどうか。
- 課題研究の中に、ESD的な活動の観点、人材、経済の観点も入れてはどうか。
- アクティブ・ラーニングのプロセスでどんな力が身に付くことを期待しているか。また、その評価方法の研究を進めることが大事。
- 校長先生から、地に足のついた試みとの挨拶があったが、浦和高校の強みを認識することが大事ではないか。

中本委員長

- COREの研究を通じて、〇〇ができるようになる、という達成目標が必要。
- 東大のPEAKは、短期プログラムで留学している生徒か。

江頭委員

- 新井委員と同感。プロジェクトであれば、目的をはっきりとさせることが大事。
- ルーブリックや評価基準を設定することで、生徒へのフィードバックが効果的にできる。効果的に測定できる。成果物以外にも、プロセスでの貢献度、活躍も評価すべきだ。それが生徒のモチベーションにも繋がる。
- 高大連携プログラム（ボーイング）は何人くらい参加するのか。→20人。

矢嶋副委員長

- 東大の先生との連携で、スケジュール調整が難しいという説明があったが、中本先生を通じて、地元の埼玉大学との連携を検討してはどうか。埼玉大学の学長さんは、浦和高校のOBと聞いている。
- 埼玉県が進めている地域のプロジェクトとも連携を検討してみてもどうか。

- 埼玉県は、メキシコ州と姉妹県州である。メキシコに留学する生徒がいるらしいが、県としても協力できることがあるのではないか。
  - 海外研修の際のシステムティックな危機管理の構築が大事だろう。県教育委員会とも連携していく必要がある。
  - 留学や海外から戻ってきた生徒のフォローアップに力を入れることが大事。報告会だけでなく、そのような人材をどう活用していくか。
- ⑤ 浦和高校からの回答
- 中学校を訪問して指導するのは、アドグルでも実践しているところである。
  - COREなどを通じてどんな力が身につくか、講座名だけでなく、大学のシラバスのように明確にすることが大事だ。
  - 評価のルーブリックなどは、弱い部なので検討していく。
  - 渡航前には、外務省などの「旅レジ」などに登録して、情報収集をしている。
  - メキシコとの交流活動は、県と協力できればありがたい。
- ⑥ 浦和高校からの質問
- 姉妹校との連携など、これまでやってきていることはSGH事業とはならないのか。
  - SGH事業として、どこをスタートに考えて報告をすればよいか。これまでアドグルも何年もやってきた。
  - アドグルの優秀論文も持参した。普段の授業の国語科の指導があつての論文である。
- ⑦ 委員からの提言
- 委員からのアドバイスは、あくまでも〇〇のような視点もある、ということで、どこまで取り込んでいくかは、浦和高校に求められているのではないか。
  - これまで積み上げてきたものがあるからこそ、SGHの指定を受けたのだと思う。これからのグローバル人材を育てるモデルなることを、みんながわかる言葉で発信していくことが大事ではないか。
  - 他の学校が、浦和高校を見た時に、その真似をしようと学びたいはずである。浦和高校で脈々と受け継がれてきて、何をしてきたから浦和高校の強みとなっているのかがわかるように発信することだと思う。プレゼンテーションの工夫が大事だ。
  - 成果だけにこだわらずに、プロセスの評価を各教科でも行っていくことが大事だ。

平成27年度埼玉県立浦和高等学校  
スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会組織

1 スーパーグローバルハイスクール（SGH）運営指導委員会委員一覧（敬称略）

| 氏名    | 所属                             | 職名    | 備考 |
|-------|--------------------------------|-------|----|
| 新井 健一 | (株)ベネッセコーポレーション<br>ベネッセ教育総合研究所 | 理事長   |    |
| 江頭 靖二 | インテル(株)CSR統括部                  | 部長    |    |
| 小池 要子 | 埼玉県県民生活部国際課                    | 課長    |    |
| 中本 進一 | 埼玉大学国際本部・留学交流支援室               | 室長・教授 |    |
| 矢羽々 崇 | 獨協大学国際交流センター<br>外国語学部          | 所長・教授 |    |

(50音順)

2 スーパーグローバルハイスクール（SGH）運営指導委員会幹事一覧

| 氏名     | 所属              | 職名   | 備考      |
|--------|-----------------|------|---------|
| 杉山 剛士  | 浦和高等学校          | 校長   |         |
| 鈴木 啓修  | 〃               | 教頭   |         |
| 山崎 正義  | 〃               | 〃    |         |
| 稲村 淑   | 〃               | 事務部長 |         |
| 野崎 亮太  | 〃               | 主幹教諭 | 研究推進委員長 |
| 小河 園子  | 〃               | 教諭   | 研究推進員   |
| 碧木 浩二  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 發知 敏規  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 長澤 昇一  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 野澤 優太  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 森住 明広  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 富田 聡   | 〃               | 〃    | 〃       |
| 松本 浩   | 〃               | 主幹教諭 | 〃       |
| 佐々木 肖子 | 〃               | 教諭   | 〃       |
| 原田 優樹  | 〃               | 〃    | 〃       |
| 持田 亮   | 教育局県立学校部高校教育指導課 | 指導主事 | 行政機関    |
| 大澤 篤史  | 〃               | 指導主事 | 〃       |

平成27年度 埼玉県立浦和高等学校  
スーパーグローバルハイスクール  
第1回 運営指導委員会

平成27年9月13日(日)

10:00~12:00

県立浦和高等学校化学講義室

〃 音楽室

次 第

- 1 第一部 生徒による研究発表 (10:00~11:00) 化学講義室
- 2 第二部 委嘱状の交付及び協議等 (11:00~12:00) 応接室
  - (1) 開 会
  - (2) あいさつ
    - ア 埼玉県教育委員会
    - イ 埼玉県立浦和高等学校長
  - (3) 委嘱状の交付
  - (4) 委員長・副委員長の選出
  - (5) 平成27年度SGH事業計画
  - (6) 協議(指導助言)
  - (7) 諸連絡
  - (8) 閉 会

## 平成27年度 第1回 運営指導委員会 発言録

平成27年9月13日（日）  
埼玉県立浦和高等学校音楽室

### SGH 運営指導委員会委員一覧

| 氏名    | 所属                          | 職名    |
|-------|-----------------------------|-------|
| 新井 健一 | (株) ベネッセコーポレーションベネッセ総合教育研究所 | 理事長   |
| 江頭 靖二 | インテル(株) CRS 統括部             | 部長    |
| 中本 進一 | 埼玉大学国際本部・留学生交流支援室           | 室長・教授 |
| 小池 要子 | 埼玉県県民生活部国際課                 | 課長    |
| 矢羽々 崇 | 獨協大学国際交流センター・外国語学部          | 所長・教授 |

#### 新井委員

- 中間報告会は面白かった。テーマを選んだ理由、自己評価が大事なところ。
- プレゼンにいたるプロセス、問題解決のプロセスに焦点を当てた振り返りや、どういう思考が働いたかを考えることが重要。グローバルリーダーに必要な資質の定義・評価につながる。
- プレゼンにいたるプロセスの重要性を浦高生全員が理解して卒業してほしい。
- 浦和高校としてのアベレージがどのように上がったか、その評価ポイントはどのように考えているか。

#### 江頭委員

- うまくグローバルな課題を選んだなという印象だったが、どのようにしていくのかという点が希薄だった。
- プレゼンの理想は英語で行うこと。しゃべることに慣れていない様子だ。
- 日常に英語を使う場があるといい。学校として提供してあげてほしい。
- インターナショナルな交流の機会が増えるといい。当社の社員とも交流できる。

#### 矢羽々委員

- 発表内容が文理混合であったことがよかった。
- 外国の問題を見て、自分たちに目を向けなおすところも良い。
- 日本語でよいので発表の機会をもっと増やして発信のトレーニングをしよう。
- 外国に行く生徒は一部であるが、特別な経験をした生徒の経験をどのように全体に反映するのか。

#### 小池委員

- 日本語の発表に比べて、英語になると訴求力が下がる印象だ。
- 「弓道教室」のグループのように客席に質問を求めると双方向のコミュニケーションが生まれる。
- 日本語の力のある生徒と英語の力のある生徒をグループにして研究させたらどうか。

#### 中本委員

- 発表内容は良かった。高校生の発表として感銘をうけた。ただしオーディエンスを意識したプレゼンの練習は必要だ。
- 発表はコミュニケーションのプロセス。一方通行ではないしオーディエンスは敵ではない。発表者と評価者がいるのではなく、双方向のアクティブな交流であり、それが次の研究につながる。
- 報告会では聴衆のバラエティーを念頭に置くといいだろう。

平成27年度 埼玉県立浦和高等学校  
スーパーグローバルハイスクール  
第2回 運営指導委員会

平成28年2月16日(火)

10:00～12:00

麗和会館

次 第

- 1 開 会
  
- 2 あいさつ
  - (1) 埼玉県教育委員会
  - (2) 埼玉県立浦和高等学校長
  
- 3 協議
  - (1) 平成27年度事業報告
  - (2) 平成28年度事業計画について
  - (3) 指導・助言及び意見交換
  - (4) その他
  
- 4 閉 会

平成27年度 第2回 運営指導委員会 発言録

平成28年2月16日(火)  
埼玉県立浦和高等学校麗和会館

SGH 運営指導委員会委員一覧

| 氏名    | 所属                          | 職名    |
|-------|-----------------------------|-------|
| 新井 健一 | (株) ベネッセコーポレーションベネッセ総合教育研究所 | 理事長   |
| 江頭 靖二 | インテル(株) CRS 統括部             | 部長    |
| 中本 進一 | 埼玉大学国際本部・留学生交流支援室           | 室長・教授 |
| 小池 要子 | 埼玉県県民生活部国際課                 | 課長    |
| 矢羽々 崇 | 獨協大学国際交流センター・外国語学部          | 所長・教授 |

中本委員

- 順調に進んでいる印象。先生方の指導力が現れている。
- 各教員の専門性を引き出す、教員のFD (Faculty Development) になっている、教育力を深化できるという風にアドバイザーグループが機能している。
- 多読、ライティング力の強化は進めてほしい。通用する国際力は文章力。
- パラグラフライティング→レポート→論文という流れをぜひ強化してほしい。
- 弓道のアドグルで留学生と交流してフィードバックはあったか？
  - こちらが思っている日本的価値観とは別の観点を提示されたりしたようだ。
- 今後のアジアの展開はなぜシンガポールなのか。フィリピン・タイ・マレーシアなどは考えていないのか？
  - シンガポールにはOBのコネクションがあるので将来の展開を念頭にハブとして機能させたい。
- 活動の評価については欧米式だとGPAなどもある。ただし欧米ではアカデミックアドバイザーがしっかりしているのでGPAが機能するが、評価についてどう考えているか？
  - 講座を担当する各教員に評価の方向性を示す必要性を感じている。
- SGHになって専門性や指導法などの点から、従来の総合学習アドバイザーグループでの指導と比べてギャップが生じる部分があると思うがどうしているか？
  - 各担当者からそうした声を集めることができていない。
  - 協調学習などのアクティブラーニング型授業がそうしたギャップを埋めていく部分もあるので引き続き推進したい。
- 学校としてSGHの取組に関して自己分析はよくできているという印象だ。

#### 新井委員

- 形になってきたと感じる。
- 私も多読は重要だと思う。生徒に身につけていくものとしての多読のスキルをつけたい。次に何を読ませるのか。多読のタクティクスを研究しないと。生徒にうまくアフォードしてほしい。
- 一般的な海外交流のイメージを乗り越えてやってほしい。キーコンピテンシーは基本であって深い学びにいきなうことが大切。
- 発表ではサステナビリティが中心であったがエンプロイアビリティも取り入れた取組をしてほしい。IOTやAIも視野に入れて。
- 2045年のシンギュラリティにむけて技術と人間のかかわりについて今の15歳から18歳の生徒たちに考えさせたい。

#### 江頭委員

- 技術はエンプロイアビリティの基本だが、そうした方面で長けている、現在発言力の大きい新興国、中国やインドの人を見ていると知・徳・体のバランスの取れた人格というような発想はない。
- アドグルは多岐にわたっていて面白い。それぞれが扱っているテーマに答えはないと思うがそれが生徒にとっても教員にとっても面白いだろう。
- 日本のSGHのひとつのロールモデルになれるのではないか。
- 生徒への評価は課題だ。生徒はどのように変化したのか？
  - 研究や発表の場を与えることで積極的に取り組み、能力を開発している。
  - 弓道のアドグルで留学生と英語の交流をがきかけでウィットギフト校への短期派遣に参加した生徒がいる。
  - ディベートはテクニックではないという主旨の発言をするなど取り組みから多くの発見をしているようだ。
- STEMという言葉があり、若田宇宙飛行士からのメッセージにもあるが、英国などではSTEAMなどといってART、芸術を加えるべきだという声もある。ひとつの見識だと思う。
  - 今回の総合報告会でも触れられていたように、工芸や音楽など芸術についても他の分野と同じように教育活動のあらゆる面で重視している。それが浦和高校の特色であり強みであると考えている。

#### 矢羽々委員

- 留学生の受け入れが拡大していることを評価したい。
- グローバル化が単一化や強者の論理であってはならない。多様性や弱者への目配りが必要ではない。そこを良く踏まえていると思う。

- 先進国でないアジア，イスラムなどの価値観を大切にしてほしい。
- 小学生との共同や社会人とのつながりなど学内の学びの環境が多様化していることは大変素晴らしい。OB大学生の面白い子などあまり年の離れていない人，あるいは地域の人などとも交流してほしい。
- 日本語を外国語と捉える感覚をもってパラグラフライティングなどトレーニングするといいたい。
- 総合報告会では質疑応答はあったか？
  - 終了後に懇談時間を設けた。また校内での共有を図るために東京大学での外部に向けた総合報告会に先立って，2月10日（水）に校内において生徒全員が参加して報告会を行った。
- アドグルのアドバイザーの影響はあるのか，将来の進路選択に関係したりするか。
  - その観点での調査はしていないが，総合的な学習の時間の柱には進路ガイダンスも含まれているので，視野に入れていきたい。

#### 小池委員

- 短縮版の映像を拝見して，先週13日（土）の総合報告会に是非参加したかったと思った。おそらく臨場感が加わってとても素晴らしかっただろう。
- OBという財産をよく活用しているとおもう。浦和高校の強みである。オックスブリッジの卒業生が中東ドバイなどで顔を合わせたりして同窓会で世界を動かすようなことがあると聞くと聞くと，浦和高校もそうしたことを念頭に置いたらいいだろう。



埼玉県立浦和高等学校  
平成26年度指定  
スーパーグローバルハイスクール報告書  
(平成26～27年度)

平成28年3月

編集 埼玉県立浦和高等学校SGH研究開発委員会

協力 スコット・エイキン

大澤 海

発行者 埼玉県立浦和高等学校

校長 杉山 剛士

住所 〒330-9330

埼玉県さいたま市浦和区領家5-3-3

電話 048-886-3000

FAX 048-885-4647